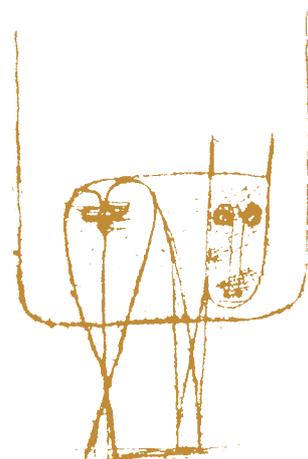

神奈川県立近代美術館
年2019報
ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2019報

ANNUAL REPORT

目次

〔凡例〕

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・各職員の役職は「職員一覧」(p.62)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2019年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	15
鎌倉別館改修工事報告	19
鎌倉別館の改修に伴う彫刻整備について	22
教育普及活動	
教育普及事業実績一覧	25
団体来館・視察受入状況	32
美術図書室	33
美術館紹介・広報 掲載実績	34
刊行物	36
平成31/令和元年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業	37
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈・寄託状況	38
新収蔵作品一覧	38
館外貸出作品一覧	43
修復報告	45
修復作品一覧	50
美術館資料の保存と活用—2019年度のアーカイブ事業について	51
調査研究活動	
調査・研究報告	
ポーランド人民共和国の印刷所とポスターに記載された印刷情報について [榊山昌夫]	52
調査研究の発表・執筆等	56
外部資金の活用	57
「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備	57
講師派遣・外部委員等就任	58
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	59
PFI事業の概要	59
収入・支出の状況	59
関係法規	60
組織	61
職員一覧	62

あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2019 年度年報』を刊行いたします。

2019 年度には予定通り鎌倉別館の改修工事が終了し、10 月 12 日に「ふたたびの「近代」」をリニューアル記念展として企画し、無事再オープンすることができました。鎌倉別館では続いて生誕 120 年、没後 100 年の周年を記念する「関根正二展」を開催しました。しかし会期中の 3 月 4 日に新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館を余儀なくされ、残念ながら再開できないまま最終日を迎えることになりました。美術館連絡協議会によって 2019 年度「美連協大賞」に選ばれるという栄誉に浴した内容であり、カタログも含め全体として高い評価を得ており、さらに鎌倉別館改修の目標のひとつである指定文化財の展示を関根正二の代表作《信仰の悲しみ》(大原美術館蔵)によって達成できたこともあり、会期半ばでの臨時休館はまことに残念な展開でした。

葉山館は、2020 年 1 月 1 日から同年 6 月 30 日までの予定で改修工事のため展示休止となりました。改修工事中の危険性や環境などに十分に配慮し、安全性を確保したうえで、1 月 22 日から 3 月 1 日まで第一展示室を使用して葉山館展覧会ポスターの無料公開を実施いたしました。来館された希望者には在庫のあるポスターをプレゼントするという特典もあり、多くの来館者楽しんでいただくことができました。

葉山館改修までのあいだに企画展 4 つ、コレクション展 2 つを葉山館で開催しています。「ポーランド・ポスター展」は、当館の長年にわたるポーランドとの文化交流によって築かれた充実した当館のコレクションを活用したものであり、ポーランド側からの調査研究の協力を得て最新の研究成果を反映させることができました。さらに関係者からのポスターの新規の寄贈が加わりコレクションがさらに充実しました。「柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」」は、新作発表を兼ねた個展であり、90 歳を越えても衰えることを知らない創作意欲を反映した約 12 メートルの長尺絵巻の新作《鳥獣戯画》は広く共感を呼びました。また、同時開催となった企画展「みえるもののむこう」は、女性 5 人の現代アーティストによるグループ展でした。1955 年に旧鎌倉館を会場として開かれた「今日の新人・1955 年」以来、当館は同時代の表現者の活動に注目してまいりました。今回は、ジャンルやカテゴリーにとらわれず、担当学芸員の視点によって選ばれた芸術家たちの相互の交流や表現の可能性の追求が新鮮な感興をもたらしてくれました。企画展「カイ・フランク」は、旧鎌倉館での「現代フィンランド美術・5 人の作家展」(1978 年)に始まり、葉山館での「ヘレン・シャルフベック」(2016 年)を機に深まったフィンランドとの関係を背景に準備された単独開催の国際展でした。戦後の日本での民藝運動ともつながる優れたデザイナーの全貌を、日本の公立美術館としては初めてまとめて紹介することができました。

コレクション展は、葉山館の野外彫刻の整備の一段落がついたことを記念して、「彫刻のある風景」と題して野外彫刻関係の作品資料を並べました。「音をみる、色をきく」は共感的な鑑賞体験を誘発してくれる絵画作品や彫刻を精選し展示いたしました。

2021 年に開館 70 周年を迎える当館のコレクションは、現在約 1 万 5 千点を数えます。それらをどのように読み解き、新たな感性との対話へと導くかは、歴史的な「近代美術館」のひとつである当館の重要な使命のひとつです。購入予算は、残念ながら潤沢とはいえませんが、購入作品の 1 点である木下秀一郎作の《日本の踊り 芸者》は、小品とはいえ、日本における未来派の展開を考えるときに欠かすことのできない重要作品です。寄贈作品も新たに加わり、修復の専門研究員によって日々、修復作業も重ねています。

教育普及については継続的にその充実を図ってきました。鎌倉別館で予定していた活動をはじめ、新型コロナウイルス感染症の流行とともに部分的な中止を余儀なくされました。こうした危機に際しての対処はいまもっとも重要な課題のひとつです。継続事業であった「MULPA (マルパ)」は、県西部での展開として「マルパ実践フォーラム 2019・小田原市文化セミナー企画編」を開催し、県外で優れたインクルーシブな活動をする関係者との連携や情報交換を図ることができました。マルパ参加館である茅ヶ崎市美術館は企画展「美術館から(まで)つづく道」により第 12 回神奈川バリアフリーまちづくり大賞(ソフト部門)を受賞、当館は、マルパを含む地域とのつながりの活動実績により地域創造大賞(総務大臣賞)を 2019 年度に受賞しています。

最後になりましたが、日頃より当館の活動にご理解とご協力ご支援を頂いている関係各位に心より感謝申し上げます。困難な時期であればこそ、あるべき美術館像を日々追及してゆく所存です。

2020 年 11 月

神奈川県立近代美術館長

水沢 勉

展覧会活動

2019年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数(人)			合計	巡回先
						有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	日本・ポーランド国交樹立 100年記念 ポーランド・ポスター展	4/6 6/23	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	6,274	3,276	480	9,550	
	みえるもののむこう	7/13 9/8	52日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	600円 450円 300円 100円	6,624	4,026	1,661	10,650	
	柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」	7/13 9/8	52日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	600円 450円 300円 100円	11,836	4,055	1,661	15,891	
	日本・フィンランド国交樹立 100年記念/没後30年 カイ・フランク	9/21 12/25	83日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	13,342	5,474	868	18,816	フィンランド・ガラス博物館
小計			257日			38,076	16,831	4,670	54,907	
葉山館 コレクション展	彫刻のある風景	4/6 6/23	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	7,651	3,276	480	10,927	
	音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽	9/21 12/25	83日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	14,866	5,474	868	20,340	
小計			153日			22,517	8,750	1,348	31,267	
葉山館	展覧会ポスター無料公開	1/22 3/1	35日		無料		2,279		2,279	
小計			35日				2,279		2,279	
鎌倉別館	鎌倉別館 リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」	10/12 1/19	82日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	600円 450円 300円 100円	5,282	2,445	138	7,727	
	生誕120年・没後100年 関根正二展	2/1 3/22	28日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	2,589	682	73	3,271	福島県立美術館 三重県立美術館
小計			110日			7,871	3,127	211	10,998	
合計(8展覧会)						68,464	30,987	6,229	99,451	

[凡例]

・以下頁の関連企画の内、会場の記載のないものは美術館で開催。詳細は「教育普及事業一覧」(pp.25-29)を参照。

葉山館

745

日本・ポーランド国交樹立 100 年記念 ポーランド・ポスター展

Polish Poster Exhibition on the occasion of the 100th anniversary of the establishment of diplomatic relations between Japan and Poland

20 世紀のデザイン史に揺るぎない位置を占める「ポーランド派ポスター」。それは、ワルシャワ美術アカデミーで教鞭を執ったユゼフ・ムロシユチャク（1910-1975）とヘンリク・トマシェフスキ（1914-2005）というポーランド・ポスターの双璧と彼らの教え子や、その周辺のグラフィックデザイナーたちが、1950 年代後半から 1970 年代にかけて制作したデザイン性に優れたポスターを指す。当時のポーランド人民共和国は、共産主義の統一労働者党の一党独裁と経済的な低迷の時代であったが、グラフィックデザイナーたちは、逆に商業主義にとらわれない創造性に溢れるポスターを制作し、ポーランドのみならず世界中のグラフィックデザインに大きな影響を与えた。当館は、1975 年と 1980 年に旧鎌倉館でポーランドのポスターを紹介する展覧会を開催し、その際、ポーランド政府から寄贈された 1960 年代と 1970 年代を中心とするポスター 290 点を所蔵している。今回、ワルシャワ国立美術館の分館であるヴィラヌフ・ポスター美術館の協力を得てそれらを改めて調査整理し、日本とポーランドの国交樹立 100 年を記念して、ポーランド・ポスターを代表する 14 作家（1 デザインチームを含む）176 点を展覧した。

主催：神奈川県立近代美術館

後援：ポーランド大使館、ポーランド広報文化センター

協力：ヴィラヌフ・ポスター美術館、株式会社ソフケン

会期：2019年4月6日(土)～6月23日(日)

場所：展示室 2・3

休館日：月曜日(4月29日、5月6日は開館)

開催日数：70 日

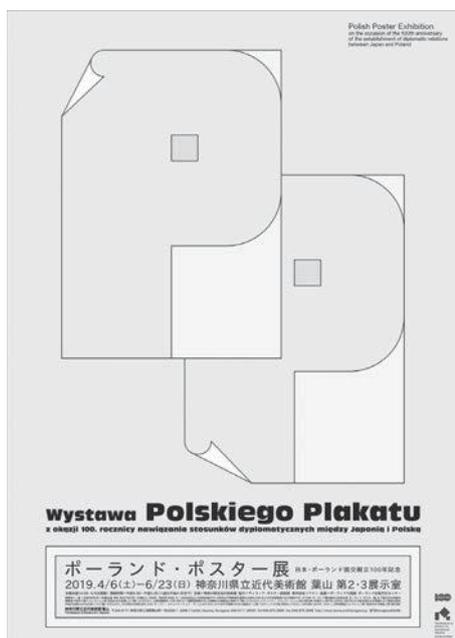
出品総点数：176 点

総観覧者数：9,550 人

担当学芸員：靱山昌夫、西澤晴美

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリートーク
4月7日(日)、5月6日(月・祝)、6月8日(土)
- 2) 近代美術館入門講座「ポーランド人民共和国のポスター芸術について」
4月13日(土) 会場：葉山町福祉文化会館（葉山町共催）
講師：靱山昌夫
- 3) 記念講演会「ポーランド・ポスターの胚胎」 4月27日(土)
講師：矢萩喜従郎（建築家、デザイナー）
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 5月11日(土)
- 5) 館長トーク 5月18日(土) 話し手：水沢 勉



ポスター



会場風景

カタログ

サイズ：25.7 × 18.3 cm、127 ページ、販売価格：2,420 円（税込）

編著者：靱山昌夫

ポーランド語翻訳・校閲：久堀由衣

編集：吉田桐子、西澤晴美

デザイン：野津明子

印刷：大日本印刷株式会社

発行者：鎌田章裕

発行所：株式会社東京美術

目次

はじめに（水沢 勉）

ポーランド人民共和国のポスター芸術と神奈川県立近代美術館所蔵のポーランド・ポスター（靱山昌夫）

解説（靱山昌夫）

ユゼフ・ムロシュチャク

ヘンリック・トマシェフスキ

フベルト・ヒルシエル

マチェイ・ウルバニェツ

ヤン・レニツァ

ヤン・ムウォドジェニェツ

ロマン・チェシレーヴィチ

フランチシェク・スタロヴィエイスキ

ヴァルデマル・シフィエジ

カロール・シリフカ

ボグスワフ・バリツキ&スタニスワフ・ワベンツキ

レシェク・ホウダノーヴィチ

ミェチスワフ・グロフスキ

ヴワディスワフ・プルタ

ムロシュチャクとトマシェフスキ、トマシェフスキとムロシュチャク、ワルシャワとノヴィ・タルグ、紅茶とコーヒー（マルチン・ムロシュチャク）

作品リスト（靱山昌夫編）

関連記事

▼展評・解説など

- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(1) トマシェフスキ「ヘンリー・ムーア作品展覧会」『日本経済新聞』2019年9月30日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(2) ムロシュチャク「ボリス・ゴドゥノフ」『日本経済新聞』2019年10月1日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(3) ヒルシエル「サーカス」『日本経済新聞』2019年10月2日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(4) ウルバニェツ「ABC abc」『日本経済新聞』2019年10月3日、44面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(5) ムウォドジェニェツ「同調者」『日本経済新聞』2019年10月4日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(6) レニツァ「チャイコフスキー 白鳥の湖」『日本経済新聞』2019年10月7日、36面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(7) チェシレーヴィチ「クシシュトフ・ペンデレツキ ルダンの悪魔」『日本経済新聞』2019年10月8日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(8) スタロヴィエイスキ「クシシュトフ・ザヌッシ映画 イルミネーション」『日本経済新聞』2019年10月9日、40面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(9) ノルプリン「ポーランド ワルシャワ」『日本経済新聞』2019年10月10日、36面
- ・靱山昌夫「ポーランド・ポスター(10) グロノフスキ「全国総合博覧会」『日本経済新聞』2019年10月11日、40面

▼展覧会紹介：1紙(1回)／6誌(6回)

▼情報掲載：5紙(36回)／11誌(29回)

▼ウェブ

- ・美術手帖「日本・ポーランド国交樹立100年記念 ポーランドポスター展」(<https://bijutsutecho.com/exhibitions/3651>)、他



カタログ

葉山館

746

コレクション展 彫刻のある風景

From Museum Collection: A Brief History of Open Air Sculpture in The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

当館は、開館当初の1950年代から同時代の彫刻の展覧会を数多く開催してきた。また当時海外で盛んに試みられつつあった、公共の場に彫刻を展示・設置する動向を受け、日本でいち早く野外彫刻展を企画し、また各地の彫刻ビエンナーレに関わるなど、日本における野外彫刻の展開に大きく寄与したこともその活動の大きな特徴と言えるだろう。本展では、過去から今日にいたるまで当館で行われたそれらの試みを、当時の出品作家による作品や資料約30点とともに紹介した。

主 催：神奈川県立近代美術館
会 期：2019年4月6日(土)～6月23日(日)
場 所：展示室1
休 館 日：月曜日(4月29日、5月6日は開館)
開 催 日 数：70日
出品総点数：作品28点、写真資料43点
総観覧者数：10,927人
担当学芸員：高嶋雄一郎、橋 秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリートーク
4月7日(日)、5月6日(月・祝)、6月8日(土)
- 2) 館長トーク 5月18日(土) 話し手：水沢 勉
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 5月25日(土)
- 4) 近代美術館入門講座「美術館や町に彫刻があるということ」
6月1日(土) 会場：葉山町福祉文化会館(葉山町共催)
講師：高嶋雄一郎

関連記事

▼ウェブ

- ・「相模湾を望む絶景の美術館——神奈川県立近代美術館 葉山」
『VISIONARY MAGAZINE BY LEXUS』
(https://lexus.jp/magazine/20190715/369/exp_noji_12.html)



会場風景

葉山館

747

みえるもののむこう

Beyond the Visible

生の美しさを世界に探り、同時代の空間から見えるものとその向こうに感じ取ったものを表現に起こしていく清新な感性を5人の現代作家にみる個展並列形式の企画展。津上みゆき（1973- / 展示室2）の絵画、三嶽伊紗（1956-）のインスタレーションと映像プロジェクション（レストコーナーと展示室3）、一之瀬ちひろ（1975-）の映像や手製本を含めた写真（展示室3）、白石由子（1956-）の油彩・版画・立体（展示室3b）といった造形作品の展示のほか、酒井幸菜（1985-）が会場の人々の動きを「採集」したメモをラボとしての空間にワーク・イン・プログレス形式で展示（展示室3）し、これを基に各作家の部屋に作品を振り付け、会期中に会場で複数回のパフォーマンスを上演し、展覧会撤去後の展示室でこれらを映像作品（2020年7月公開）に再構成した。

主催：神奈川県立近代美術館
協力：株式会社カラーサイエンスラボ、株式会社フレームマン、株式会社山田写真製版所
会期：2019年7月13日(土)～9月8日(日)
場所：展示室2・3
休館日：月曜日(7月15日、8月12日は開館)
開催日数：52日
出品総点数：79点
総観覧者数：10,650人
担当学芸員：三本松倫代、西澤晴美

関連企画

- 1) アーティストトーク
7月15日(月・祝) 講師：白石由子(本展出品作家) ゲスト：川村格夫(本展出品作《SPECIMEN》制作のユニット「36」のメンバー)
7月28日(日) 講師：津上みゆき(本展出品作家)
7月28日(日) 講師：酒井幸菜(本展出品作家)
8月10日(土) 講師：一之瀬ちひろ(本展出品作家) ゲスト：尾中俊介[Calamari inc.] (本展グラフィックデザイナー)
8月24日(土) 講師：三嶽伊紗(本展出品作家)
- 2) パフォーマンス 《眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ)》
7月13日(土) 午後4時～4時30分 「習作として」
出演：酒井幸菜
7月28日(日) 午前11時/午後3時(各15分) 「津上部屋にて」
出演：酒井幸菜、中村未来
8月10日(土) 午前11時/午後3時(各15分) 「一之瀬部屋にて」
出演：酒井幸菜、中村未来、観客参加型
8月24日(土) 午前11時/午後3時(各15分) 「三嶽部屋にて」
出演：酒井幸菜、中村未来、観客参加型
9月1日(日) 午前11時/午後3時 「白石部屋にて」
出演：酒井幸菜、観客参加型
9月8日(日) 午後4時-4時30分 「展示室を通して」
出演：酒井幸菜、中村未来、観客参加型
9月 [非公開/映像記録を後日公開(2020年7月)] 「空白の展示室にて」
出演：酒井幸菜、中村未来
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク
7月27日(土)、8月8日(木)、8月27日(火)
- 4) 近代美術館入門講座「みえるもののむこうとこちら」
7月27日(土) 会場：葉山町福祉文化会館(葉山町共催)
講師：三本松倫代
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 8月10日(土)
- 6) 館長トーク 9月1日(日) 話し手：水沢 勉



ポスター



会場風景(展示室3b)

撮影：山本 紉

カタログ

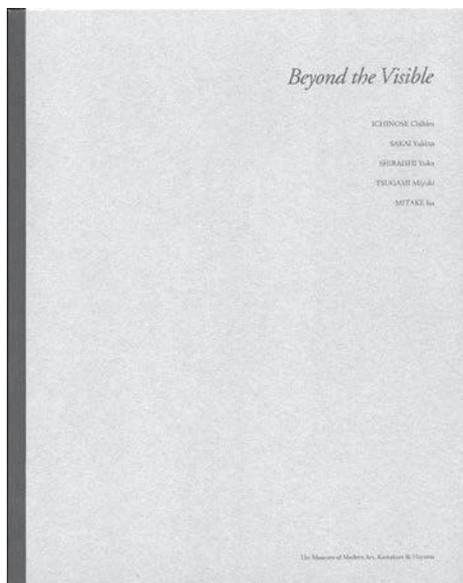
サイズ：24.6 × 19.0 cm、148 ページ、販売価格：2,640 円（税込）
執筆：一之瀬ちひろ、酒井幸菜、白石由子、津上みゆき、三嶽伊紗、
水沢 勉、三本松倫代
編集：三本松倫代
デザイン・編集協力：尾中俊介（Calamari inc.）
翻訳：ポリー・パートン
撮影：山本 紉、相川健一
印刷：株式会社野毛印刷社
製本：株式会社渋谷文泉閣
発行：神奈川県立近代美術館

目次

展示風景
謝辞
ごあいさつ（水沢 勉）
作家の言葉・図版（一之瀬ちひろ、酒井幸菜、白石由子、津上みゆき、三嶽伊紗）
みえるもののむこうにみえるもの（三本松倫代）
作家略歴
フロアプラン
作品リスト
Acknowledgements
Foreword (MIZUSAWA Tsutomu)
Statements / Plates (ICHINOSE Chihiro, SAKAI Yukina, SHIRAIISHI Yuko,
TSUGAMI Miyuki, MITAKE Isa)
The Visible Beyond the Visible (SANBONMATSU Tomoyo)
Selected Biographies
Floor Plan
List of Works

関連記事

- ▼展評・解説など
 - ・千葉恵理子「見たものに 見えたもの 余白や光に 感性込めて 神奈川県立近代美術館葉山」『朝日新聞』2019年7月30日、夕刊、3面
 - ・下野 綾「県立近代美術館 葉山 “今”を伝える二つの展覧会 柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』／みえるもののむこう」『神奈川新聞』2019年8月12日、15面
 - ・広瀬 登「アートピックス みえるもののむこう Beyond the Visible よみがえる想像の翼」『毎日新聞』2019年8月21日、夕刊、4面
- ▼展覧会紹介：3紙(3回)
- ▼情報掲載：5紙(18回)
 - ・「県立近代美術館 葉山 企画展「みえるもののむこう」企画展「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」『県のたより』2019年7月1日、5面 ほか
- ▼ウェブ 11 件
- ▼ラジオ番組
 - ・Shonan Beach FM: DAILY ZUSHI HAYAMA 「県立近代美術館 葉山」2019年8月8日



カタログ

葉山館

748

柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」

Yunoki Samiro: Choju-giga

染色家・柚木沙弥郎(1922-)の70年余にわたる創作活動の原点には、「民藝」をめぐる自らの問い—工芸と美術、西洋と東洋、作家と職人といった対立的な見方への葛藤があった。そうした区別を越えるべく、染色にとどまらず絵本や、版画、彫刻へと表現の幅を広げてきた柚木は、「用の美」の精神を引き継ぎながらも、自らが日々出会う「もの」を見つめ、触れ、ふと気づいた喜びを色と形に変えてきた。

当館は2012年、鎌倉別館で「柚木沙弥郎 村山亜土『夜の絵』とともに」を開催し、絵本作家としての魅力を紹介した。葉山館で行う本展では、当館のコレクションを中心に、長さ約12メートルに及ぶ長尺絵巻の新作「鳥獣戯画」をはじめ、近年の型染布や宮沢賢治『雨ニモマケズ』に寄せた絵本原画などを通して作家の「今」を伝えた。

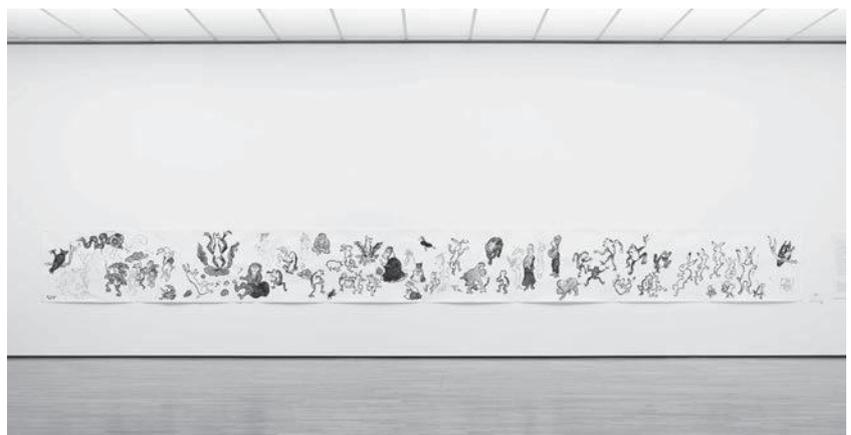
主催：神奈川県立近代美術館
会期：2019年7月13日(土)～9月8日(日)
場所：展示室1
休館日：月曜日(7月15日、8月12日は開館)
開催日数：52日
出品総点数：24件65点
総観覧者数：15,891人
担当学芸員：朝木由香、高嶋雄一郎

関連企画

- 1) 記念講演会「新作を語る」7月13日(土)
講師：柚木沙弥郎 聞き手：水沢勉
- 2) 館長トーク 7月21日(日) 話し手：水沢勉
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 7月27日(土)
- 4) 担当学芸員によるギャラリートーク
7月27日(土)、8月8日(木)、8月27日(火)
- 5) ワークショップ「モビールをつくりたい」8月3日(土)
講師：柿木原政広(アートディレクター)
- 6) 子どものための読み聞かせ 絵本『トコとゲーゲーとキキ』
8月4日(日)、9月1日(日) 話し手：八木めぐみ
- 7) 近代美術館入門講座「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』について」
8月24日(土) 会場：葉山町福祉文化会館(葉山町共催)
8月30日(金) 会場：逗子市民交流センター(逗子市共催)
講師：朝木由香



ポスター



会場風景

撮影：山本 紉

関連書籍

『柚木沙弥郎の鳥獣戯画』 彗星館、2019年7月

関連記事

▼展評・解説など

- ・朝木由香「柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」展 「今」を生きる創作の世界」『新美術新聞』2019年7月21日、2面
- ・「生を肯定する明るさ 柚木沙弥郎さんが個展」『愛媛新聞』ほか9紙、2019年7月19日-8月13日 [共同通信配信]
- ・岩城 択「柚木沙弥郎さん 神奈川で個展 色彩の発する重量感 自在に」『読売新聞』2019年8月1日、12面
- ・下野 綾「県立近代美術館 葉山“今”を伝える二つの展覧会 柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」／みえるもののむこう」『神奈川新聞』2019年8月12日、15面
- ・山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館葉山館 「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』展」『産経新聞』2019年8月25日、24面
- ・藤嶋俊会「神奈川の文化時評 柚木沙弥郎の「鳥獣戯画」 骨太の形と批判精神」『神奈川新聞』2019年9月2日、13面 ほか

▼展覧会紹介：3紙(3回)／15誌(15回)

- ・熱田千鶴「染色家・柚木沙弥郎の今も、新しい世界」月刊『MOE』2019年7月3日(8月号)、pp.72-77
- ・輪湖雅江「真似のできない仕事術 柚木沙弥郎」『BRUTUS』2019年9月15日号、pp.46-49
- ・[署名無]「『いま』を生きる 『いま』を語る。染色家 柚木沙弥郎 97歳」『婦人画報』2020年2月号、pp.236-245 ほか

▼情報掲載：4紙(19回)／11誌(26回)

- ・「県立近代美術館 葉山 企画展「みえるもののむこう」企画展「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」『県のたより』2019年7月1日、5面 ほか

▼ウェブ

- ・「96歳の柚木沙弥郎さんが描いた12メートルの鳥獣戯画の話。」[対談：柚木沙弥郎×村山治江]『ほぼ日刊イトイ新聞』(全5回)7月18日-23日公開 (https://www.1101.com/n/s/samiro_yunoki)

▼テレビ番組

- ・NHK-Eテレ「日曜美術館 アートシーン」2019年8月4日

▼ラジオ番組

- ・Shonan Beach FM: DAILY ZUSHI HAYAMA「県立近代美術館 葉山」2019年8月8日

葉山館

749

日本・フィンランド国交樹立 100 年記念 没後 30 年 カイ・フランク

KAJ FRANCK—GEOMETRY

カイ・フランク（1911-1989）は、「フィンランド・デザインの良心」と呼ばれ、20 世紀のデザインに多くの革新をもたらしたもっとも優れた創作者の一人と言われている。本展は、フィンランド唯一の公立ガラス研究機関であるフィンランド・ガラス博物館と、カイ・フランク本人から直接入手した多くのプロダクトを収蔵しているタウン&リーサ・タルナ・コレクションから構成された、幾何学的造形に着目した国際巡回展である。日本の美術館での初個展となる本展では、今日もおろロングセラーとしてよく知られるプロダクトをはじめ、アート・ピースと呼ばれる技巧を尽くしたガラス作品など 252 点を展示した。さらには、フィンランドのデザインミュージアム所蔵の、1950 年代に来日した際にカイ・フランク自身が撮影した日本の風景や市井の人々の写真 43 点をニュープリントで紹介し、日本への彼の関心やその交流を探った。

主 催：神奈川県立近代美術館、NHK プロモーション

特別協力：フィンランド・ガラス博物館、タウン&リーサ・タルナ・コレクション

協力：カリモク家具株式会社、日本航空、フィスカースジャパン株式会社

後 援：フィンランド大使館

会 期：2019年9月21日(土)～12月25日(水)

場 所：展示室 2・3

休 館 日：月曜日(9月23日、10月14日、11月4日は開館)

開催日数：83 日

出品総点数：295 点（うち写真資料 43 点）

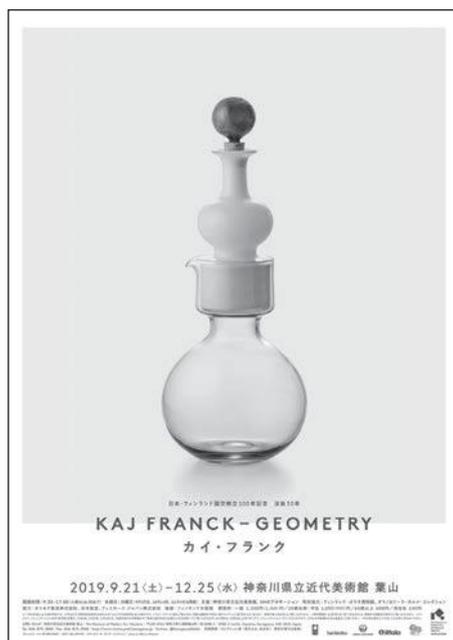
総観覧者数：18,816 人

担当学芸員：高嶋雄一郎、粉山昌夫

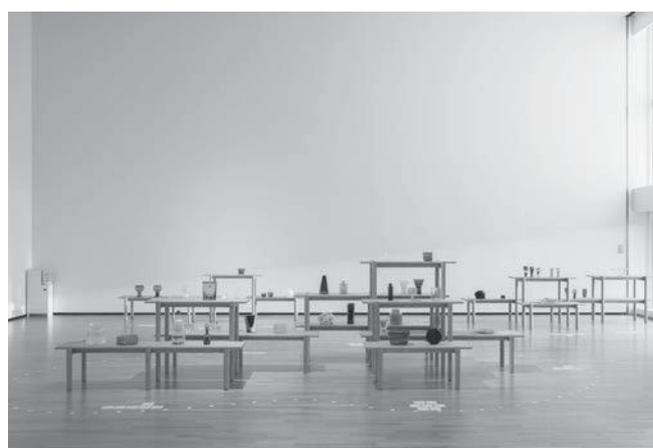
巡 回 先：フィンランド・ガラス博物館

関連企画

- 1) 記念シンポジウム 9月22日(日) パネリスト：タウン・タルナ（タウン&リーサ・タルナ・コレクション、デザイナー）、カイサ・コイヴィスト（フィンランド・ガラス博物館、チーフ・キュレーター）
- 2) 館長トーク 10月5日(土) 話し手：水沢 勉
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク
10月19日(土)、11月16日(土)、12月14日(土)、12月25日(水)
- 4) 近代美術館入門講座「カイ・フランク 究極のデザイン、もしくは“労働に対する喜び”」
10月26日(土) 会場：葉山町福祉文化会館（葉山町共催）
10月30日(水) 会場：逗子市役所（逗子市共催）
講師：高嶋雄一郎
- 5) スペシャルトーク 11月3日(日・祝)
講師：小西亜希子（『カイ・フランクへの旅』著者）、熊野 亘（デザイナー）
- 6) 先生のための特別鑑賞の時間 11月9日(土)



ポスター



会場風景

撮影：永禮賢

カタログ

サイズ：18.8×12.8 cm、288ページ 販売価格：1,800円（税込）
執筆：水沢勉、タウノ・タルナ、ジェニファー・オピー、
カイサ・コイヴィスト、タピオ・ウリ＝ヴィーカリ
編集：高嶋雄一郎
編集協力：木村しのぶ
翻訳：ユリ・コッコネン、小川紀久子、高嶋雄一郎、深尾茅奈美
デザイン：中西要介（STUDIO PT.）
印刷・製本：株式会社アトミ
発行：NHKプロモーション

目次

ごあいさつ
等身大の自然の幾何学 カイ・フランク展に寄せて（水沢勉）
カイ・フランク、もしくはヨーロッパにおける物質文化のつらなりを結ぶもの（タウノ・タルナ）
カイ・フランク——国際モダニズムにおける位置づけ（ジェニファー・オピー）
幾何学的形態とガラス作品について（カイサ・コイヴィスト）
アラビア製陶所での形態と原料をめぐるカイ・フランクの思索（タピオ・ウリ＝ヴィーカリ）
KAJ FRANCK—A LINK IN THE CHAIN OF EUROPEAN MATERIAL CULTURE (Tauno Tarna)
KAJ FRANCK: HIS PLACE IN INTERNATIONAL MODERNISM (Jennifer Opie)
GEOMETRIC FORMS AND GLASS (Kaisa Koivisto)
KAJ FRANCK'S THINKING ON FORM AND MATERIAL AT THE ARABIA FACTORY (Tapio Yli-Viikari)
図版
カイ・フランクが写した日本
カイ・フランク 年譜（高嶋雄一郎編）
出品作品リスト
カイ・フランク 関連文献（高嶋雄一郎編）

関連記事

▼展評・解説など 4紙(4回)

- ・黒沢綾子「カイ・フランク展 『フィンランドの良心』が表すデザイン」『産経新聞』10月6日、11面
- ・藤田一人「美術評『没後30年 カイ・フランク』展 今日のモダン・デザインは」『東京新聞』10月11日夕刊、3面
- ・永田晶子「『カイ・フランク』展 無私のデザインの美」『毎日新聞』11月6日夕刊、4面 ほか

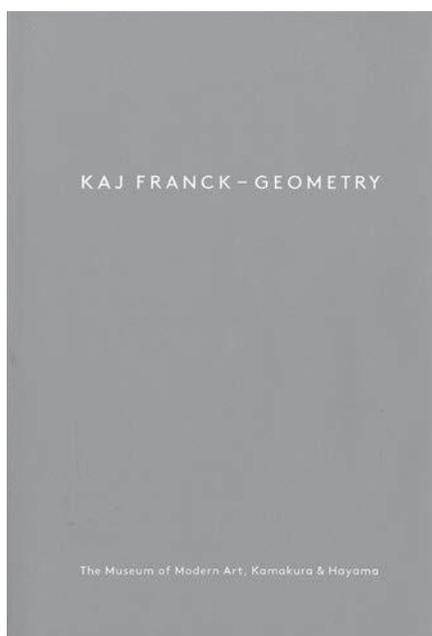
▼展覧会紹介：2紙(2回)／21誌(28回)

- ・「気になるあの子とちょっと遠く美術館へ。神奈川県立近代美術館 葉山『日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク』展は12月25日まで。コレクション展では海外からも再注目され始めている吉村弘の作品が充実。」『POPEYE』2019年12月9日 (Issue873)、pp.32-35
- ・小西亜希子「神奈川県 / 葉山 カイ・フランクの美しきガラス作品が一堂に 「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク」展 神奈川県立近代美術館 葉山」『SKYWARD』2019年10月7日 (No.247)、p.47
- ・「a wall newspaper DESIGN 生粋のコレクターが語るカイ・フランクの魅力とは。 フィンランドデザインの巨匠の個展が国内初開催！多くの作品を出品した人物に、展示の見所を聞きました。 カイ・フランク 神奈川県立近代美術館 葉山」『Casa BRUTUS』、2019年9月9日（第20巻第10号）、p.179 ほか

▼情報掲載：4紙(25回)／11誌(26回)

▼ウェブ

- ・「フィンランド・デザインの巨匠に学ぶ【カイ・フランク検定】」『Casa BRUTUS』9月21日公開 (<https://casabrutus.com/design/117540>)
- ・文：土田貴宏、写真：永禮賢「『カイ・フランク』展、彼がデザインの良心である理由 | 土田貴宏の東京デザインジャーナル」『Casa BRUTUS』(全5回) 9月27日公開 (<https://casabrutus.com/design/118023>)
- ・「『フィンランドデザインの良心』。カイ・フランクの大規模個展が神奈川県立近代美術館 葉山で開催」『美術手帖』8月18日公開 (<https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/20310>) ほか



カタログ 表紙4色種のうち

葉山館

750

コレクション展 音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽

From Museum Collection: Sound to See, Color to Hear

美術作品をかたちづくる色と形の響きあいはときに音楽のハーモニーやリズムを感じさせる。一方で音楽をモチーフにした作品や音の世界を視覚的に表現したものなど、音はいつの時代にも芸術家へインスピレーションを与えてきた。本展ではマティスの版画シリーズ『ジャズ』や朝井閑右衛門の大作《丘の上》、音楽家としても活動した吉村 弘の作品など、音や音楽を感じることができる多彩な作品を所蔵品から選りすぐり紹介した。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：2019年9月21日(土)～12月25日(水)

場 所：展示室 1

休 館 日：月曜日（9月23日、10月14日、11月4日は開館）

開 催 日 数：83日

出品総点数：63 点

総観覧者数：20,340 人

担当学芸員：橋 秀文、菊川亜騎

関連企画

- 1) 先生のための特別鑑賞の時間 9月28日(土)
- 2) 館長トーク 10月5日(土) 話し手：水沢 勉
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク 10月19日(土)、11月16日(土)、12月14日(土)、12月25日(水)
- 4) 近代美術館入門講座「コレクション展「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」について」
11月30日(土) 会場：葉山町福祉文化会館(葉山町共催)
講師：橋 秀文

関連記事

▼展覧会紹介：2誌(5回)

▼展覧会情報：1紙(2回)／6誌(14回)

- ・「more! カナガワ 神奈川県立近代美術館 葉山 コレクション展「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」」『Kanagawa ARTS PRESS』2019年11月15日 (Vol.151)、21面 ほか



会場風景

撮影：永禮 賢

鎌倉別館

751

鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」

Grand Reopening of the Kamakura Annex: Modern Art Revisited

2017年9月より改修工事のため休館していた鎌倉別館のリニューアル・オープンを記念した本展は、1951年の開館当初からの理念である「近代」を見つめ直すという意味で、タイトルを「ふたたびの『近代』」とした。今日的な視点から、コレクションの中核をなす日本の近代美術の代表作として、岸田劉生《童女図（麗子立像）》、古賀春江《窓外の化粧》、松本竣介《立てる像》ほか54点を展示。1984年の鎌倉別館開館記念展「日本の近代洋画」の出品内容を踏まえつつ、時代によるコレクションの変化を象徴する村山知義《美しき少女等に捧ぐ》、小杉武久《ヘテロダインⅡ》をはじめ、近年収蔵した作品も紹介した。LED照明や壁面ガラスケースなど、改修工事により一新した館内設備と併せて当館の名品を観覧できるよう展示の工夫を行った。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2019年10月12日(土)～2020年1月19日(日)

休館日：月曜(10月14日、11月4日、1月13日は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

※台風のため10月12日(土)、13日(日)は臨時休館

開催日数：82日

出品総点数：54点

総観覧者数：7,727人

担当学芸員：西澤晴美、長門佐季

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリートーク
10月26日(土)、12月21日(土)、1月19日(日)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 10月26日(土)
- 3) 連続講演会(令和元年度県立社会教育施設公開講座)
「『近代』と対話する。」(全5回)
場所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール
第1回 11月2日(土・祝)「エミール・ギメと明治美術」
講師：岡村嘉子(美術史家、翻訳家、エッセイスト)
第2回 11月9日(土)「岸田劉生—古美術との対話」
講師：佐藤康宏(東京大学文学部教授)
第3回 11月16日(土)「西村伊作と文化学院—自立した行動の人として—」
講師：黒川創(作家)
第4回 11月23日(土)「作品、時、人、その出会い。—田中岑、堀内正和、難波田龍起など—」
講師：渡辺豊重(美術家)
第5回 12月14日(土)「反復する世界大戦と抽象」
講師：岡崎乾二郎(造形作家、批評家)
- 4) ワークショップ「大集合!みんなの展覧会」11月10日(日)
- 5) ワークショップ「てのひらサイズで立体造形作家になってみよう!」
11月17日(日)
講師：渡辺豊重(美術家)
- 6) 館長トーク 1月11日(土)話し手：水沢勉
- 7) トヨダヒトシ 映像日記/スライドショー 1月18日(土)
出演：トヨダヒトシ(写真家)



ポスター



会場風景

撮影：高嶋清俊

会場配布リーフレット

サイズ：21.0 × 14.8 cm、20 ページ、無料配布

執筆：水沢 勉、西澤晴美

編集：西澤晴美、長門佐季

デザイン：三木俊一（文京図案室）

印刷：ニューカラー写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

あいさつ（水沢 勉）

図版・解説（西澤晴美）

出品リスト

コラム

奥付

関連記事

▼展評・解説など

- ・西澤晴美「鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」 神奈近の名品が鎌倉別館に集結 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」『新美術新聞』2019年10月11日（No.1517）、2面
- ・下野綾「県立近代美術館 2 館体制整う シンプルな美しさと機能性 葉山／「カイ・フランク」展 鎌倉別館／「ふたたびの『近代』」展」『神奈川新聞』2019年10月28日、13面
- ・織井優佳「県立近代美術館鎌倉別館が新装 「近代」たどる記念展 1月19日まで 54点を展示」『朝日新聞』2019年11月30日、30面
- ・大西若人「美の履歴書 630 いまも新鮮に映るのは 「窓外の化粧」 古賀春江」『朝日新聞』2019年12月17日夕刊、2面

▼展覧会紹介：1紙(2回)／9誌(12回)

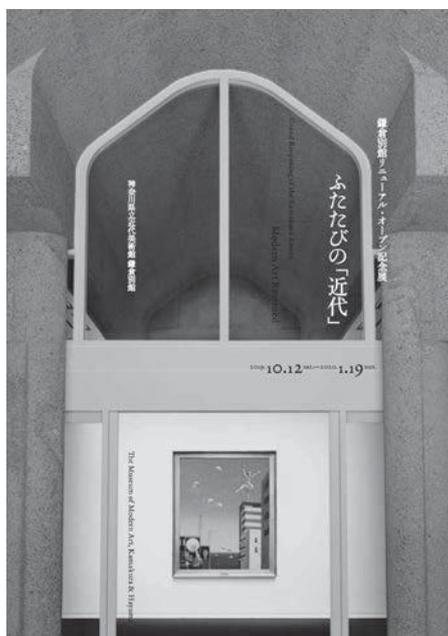
▼情報掲載：4紙(24回)／9誌(21回)

▼ウェブ

- ・インターネットミュージアム
古川幹夫「取材レポート 鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」」(<https://www.museum.or.jp/modules/topics/index.php?action=view&id=1242>)

▼テレビ番組

- ・NHK-Eテレ「日曜美術館 アートシーン」2020年1月6日



リーフレット

鎌倉別館

752

生誕 120 年・没後 100 年 関根正二展

SEKINE Shōji: A Retrospective

大正という日本近代の青春時代を駆け抜け、20歳で世を去った画家、関根正二（1899-1919）の当館における20年ぶり・過去最大規模の回顧展。ほぼ独学で絵を志した関根は、北方ルネサンスをはじめとする西洋絵画に感銘をうけ、天性の素描力に独自の色彩感覚を開花させた。16歳で二科展に初入選、その後5年に満たない画業のなかで、「関根のヴァーミリオン」と称賛された美しい朱色を特徴とし、デカダンス文学や独自の宗教観に基づいた幻視性を帯びる作品群には、みる者に時代を超えて訴える、儚くも鮮烈な魂の響きを感じられる。本展では、重要文化財《信仰の悲しみ》（大原美術館蔵）を鎌倉別館では初めて展示。また、100年ぶりに発見されたパステル画《少女》や初公開の作品・資料を関連作家らの紹介と交えて展示した。関根の出身地である福島と関根作品を多数所蔵する三重の各県立美術館との共同による本展は、未発表作品や資料を発掘し、多角的な調査を重ねたことが評価され、2019年度の美連協大賞に選ばれた。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

会期：2020年2月1日(土)～3月22日(日)

前期：2月1日(土)～2月16日(日)

後期：2月18日(火)～3月22日(日)

休館日：月曜(2月24日は開館)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月4日から臨時休館

開催日数：28日

出品総点数：100点

総観覧者数：3,271人

担当学芸員：長門佐季、三本松倫代

巡回先：福島県立美術館、三重県立美術館

関連企画

- 1) ゲストトーク 3月7日(土)
講師：酒井忠康（世田谷美術館館長） 聞き手：長門佐季【中止】
- 2) 近代美術館入門講座「関根正二と友のことども」
2月1日(土) 会場：葉山町福祉文化会館（葉山町共催）
2月12日(水) 会場：逗子市役所（逗子市共催）
講師：三本松倫代
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク
2月8日(土)（3月21日(土)【中止】）
- 4) 館長トーク 2月15日(土) 話し手：水沢勉
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 2月22日(土)【中止】



ポスター



会場風景

撮影：山本 絆

カタログ

サイズ：26.5 × 19.1 cm、224ページ、販売価格：2,300円（税込）

執筆：塚本貴之（公益財団法人大原美術館）、堀 宜雄（福島県立美術館）、坂本篤史（福島県立美術館）、田中善明（三重県立美術館）、原 舞子（三重県立美術館）、長門佐季（神奈川県立近代美術館）、三本松倫代（神奈川県立近代美術館）

デザイン：桑畑吉伸

翻訳：ジェフリー・アングルス

製作：有限会社リーヴル

印刷：光村印刷株式会社

編集・発行：福島県立美術館、三重県立美術館、神奈川県立近代美術館、中日新聞社

目次

ごあいさつ（主催者）

美とかなしみが出会うとき—関根正二の現在—（堀 宜雄）

第I章 関根正二作品

コラム1：幼なじみ・伊東深水

コラム2：サイン—「まさじ」と「しょうじ」

特別コラム：関根正二《信仰の悲しみ》の光学調査—金色顔料と下層絵の存在—（塚本貴之）

コラム3：国民座「地蔵教由来」と「円光」

コラム4：女性への思慕

第II章 関根正二 資料・書簡

資料

コラム5：兜屋画堂主・野島康三

コラム6：カフェーの話

書簡

第III章 関連作家 作品・資料

コラム7：素木しづと上野山清貞

中止された絵画—関根正二作品の下層の図像をめぐって（原 舞子）

村岡黒影旧蔵作品の意味（坂本篤史）

関根正二、その後の100年（長門佐季）

関根正二年譜

関根正二の東京「地図」

参考図版

参考文献目録

出品リスト

付録：遺稿・追想再録／関根正二 書簡翻刻

奥付

関連記事

▼展評・解説など

・大西若人「早世の天才画家 100年ぶり作品発見 関根正二 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館に巡回予定」『朝日新聞』2019年7月31日、31面



カタログ

- ・貝塚 健「生誕120年・没後100年 関根正二展 永遠の、《子供》と関根正二」『新美術新聞』2019年9月11日（No.1514）、2面
 - ・大西若人「美の履歴書 620 厳しい目つき 見据えるのは「少年」関根正二 福島県立美術館 神奈川県立近代美術館・鎌倉別館に巡回」『朝日新聞』2019年10月1日夕刊、2面
 - ・北爪三記「関根正二 描いた若き葛藤 県立近代美術館鎌倉別館で作品展 生誕120年100年ぶり公開の作品も」『東京新聞』2020年2月2日、22面
 - ・「「幻視の画家」を回顧 白河出身 関根正二の企画展 鎌倉」『福島民報』2020年2月14日、15面
 - ・「生誕120年・没後100年 関根正二展 来月22日まで神奈川県立近代美術館鎌倉別館 大正期象徴 早世の天才 幻視と色彩 洋画に独自性」『南日本新聞』2020年2月15日、14面
 - ・「神奈川・鎌倉で「関根正二展」 色彩鮮烈 日本の洋画描く」『山陽新聞』2020年2月16日、13面
 - ・「生誕120年・没後100年 関根正二展 鎌倉 幻視を鮮烈な色彩で行方不明だった「少女」も出品」『秋田魁新聞』2020年2月17日、8面
 - ・「日本の洋画 鮮烈な色彩で 鎌倉で関根正二展」『新潟日報』2020年2月17日、17面
 - ・「神奈川県立近代美術館・鎌倉別館 夭折の画家没後100年 関根正二展 幻視と鮮烈な色の洋画」『上毛新聞』2020年2月18日、7面
 - ・「日本の洋画を描く 鎌倉で「生誕120年・没後100年 関根正二展」」『日本海新聞』2020年2月18日、8面
 - ・「早世の天才 鮮烈な洋画 来月22日まで 神奈川で「関根正二展」」『中国新聞』2020年2月18日、14面
 - ・「日本の洋画を描く 早世の天才「関根正二」展（鎌倉）」『四国新聞』2020年2月20日、17面
 - ・「早世の天才画家・関根正二 幻視と鮮烈な色彩 神奈川・鎌倉で回顧展」『東奥日報』2020年2月21日、12面
 - ・長門佐季「生誕120年・没後100年 関根正二展 作品解説 無垢な魂を感じる 17歳の自画像」『東京新聞』2月23日、24面
 - ・「美術話題 日本の洋画を描く 鎌倉で関根正二展」『伊勢新聞』2020年2月23日、7面
 - ・石川健次「Art Scene 生誕120年・没後100年 関根正二展」『サンデー毎日』2020年2月23日（第99巻第9号）、79頁
 - ・三本松倫代「生誕120年・没後100年 関根正二展 作品解説 架空の女性像 一夜で完成」『東京新聞』2020年2月24日、16面
 - ・長門佐季「生誕120年・没後100年 関根正二展 作品解説 生と死が交錯 「信仰の悲しみ」」『東京新聞』2020年2月25日、14面
 - ・「早世の天才 幻の世界 神奈川で「関根正二展」不明だった作品も出品」『愛媛新聞』2020年2月27日、15面
 - ・「鎌倉で関根正二展 幻視と色彩 日本の洋画」『静岡新聞』2020年2月28日夕刊、8面
 - ・「美術話題 色彩鮮烈「日本の洋画」 早世の天才・関根正二展 鎌倉」『佐賀新聞』2020年2月28日、17面
 - ・下野綾「生誕120年、没後100年 関根正二展 県立近代美術館鎌倉別館 独自の宗教観 鮮やかな色彩に」『神奈川新聞』2020年3月2日、13面
 - ・「生誕120年・没後100年 関根正二展 神奈川・鎌倉22日まで 幻視の画家 鮮烈な色彩 まなざしの強さ 際立つ」『河北新報』2020年3月5日、12面
 - ・石川健次「アートな時間 生誕120年・没後100年 関根正二展 20歳と2カ月で夭折した画家 あふれる鮮烈な色彩と幻想性」『週刊エコノミスト』2020年3月10日（第98巻第10号）、pp.100-101
 - ・村田 真〈ウェーブ 美術〉「生誕120年・没後100年 20歳で逝った関根正二の回顧展 鮮烈な色彩 使いこなす」『北海道新聞』2020年3月13日夕刊、2面
 - ・窪島誠一郎「関根正二の憂愁 特集 生誕120年・没後100年 関根正二」『花美術館』2020年3月20日（Vol.69）、pp.4-25
 - ・「大正期象徴「幻視の画家」生誕120年 鎌倉で関根正二展」『宮崎日日新聞』2020年3月23日夕刊、16面
 - ・「幻視と鮮烈色彩「日本の洋画」大正期 早世の天才 関根正二 際立つまなざしの強さ」『京都新聞』2020年3月28日夕刊、9面
 - ・「幻視の画家 朱鮮烈 神奈川・鎌倉 関根正二展」『岩手日報』2020年4月17日夕刊、12面
- ▼展覧会紹介：3紙(6回)／13誌(20回)
▼展覧会情報：3紙(17回)／7誌(13回)
- ・NHK-Eテレ「日曜美術館 アートシーン」2019年9月29日

鎌倉別館改修工事報告

長門佐季

2016年3月31日に神奈川県立近代美術館の鎌倉館が鶴岡八幡宮との借地契約満了に伴い閉館するにあたり、葉山館と鎌倉別館の二館体制で運営することとなった。今回の鎌倉別館改修工事は、これまで鎌倉館が担ってきた機能を鎌倉別館に移し、美術館活動が将来にわたり発展できるよう、既存建築の意匠を尊重しながらサービス機能の向上と保管環境の安定化を目指して行われ、2019年10月12日、約2年間の休館を経てリニューアル・オープンした。

鎌倉別館は、1984年7月28日、神奈川県立近代美術館の2つ目の施設として開館した。1951年に鶴岡八幡宮境内に坂倉準三設計による鎌倉館が開館してから30年余が経過し、収蔵庫と展示スペースの拡充を目的に1980年頃から建設計画が進められた。設計は「メタボリズム」の提唱者の一人として知られる大高正人、施工は前田建設工業株式会社が行った。建設地は鎌倉館から350mほど北にある国指定史跡鶴岡八幡宮境内と巨福呂坂の間に位置する元県営駐車場跡地に決まったものの、建設前に行われた2回の発掘調査によって鎌倉時代から室町時代にかけての遺構、遺物が確認されたことから、延床面積は当初の計画よりも規模を縮小した約1,600㎡というものになった。

今回の改修工事にあっても、埋蔵文化財包蔵範囲の掘削が認められないため、増床には既存建物の軒下を活用、増築部分は鉄骨造にする等、工法にも細心の注意が払われた。2014年度上半期に行った改修工事基本構想案作成にあたっては、1984年の建設当時、大高建築設計事務所でのこの建物を担当された古市和正氏に協力を仰ぎながら、老朽化を含めた既存建物・設備の問題点、また、今後の利用に際して改善すべき箇所等の洗い出しを行った。さらに、鎌倉館の継承という観点から、将来的に企画展や重要文化財の展示が可能となるよう、保管環境だけでなく展示環境の安定化も目指し、2015年度の基本設計の段階から文化庁ならびに東京文化財研究所に相談して指導を仰いだ。

改修計画は、建築から設備にいたる広範囲・長期間におよぶことから工事中は鎌倉別館に収蔵している約1万1000点の作品と工事エリアに関わる屋外彫刻を搬出・保管する必要があった。そのため、民間の借上げ倉庫に輸送・保管することとしたが、一部の作品については平塚市美術館に保管していただくことを依頼し、了承を得ることができた。なお、外部での保管中には作品の展示・貸与等を行わないこととし、2015年9月には鎌倉別館に収蔵している日本画、水彩、素描、版画について、2017年1月から2019年3月末までの「貸出停止のお知らせ」を関係機関へ文書で通知した。

2018年3月に着工。工事監理者は株式会社国設計。建築工事はサンハウス株式会社、電気工事は藤田電設株式会社、空調工事は株式会社ヨコレイが施工した。

改修工事の概要は以下のとおりである。

1. 大高建築の意匠の尊重

開館から30年以上が経過しているにも関わらず、鎌倉別館は竣工当時の外観を比較的良好に保ってきた。そのため三州瓦による炝器質^{せつきしつ}タイルと稲田石を用いた重厚感のある外装を維持し、増築部分は既存建物と対照的に白を基調とした軽快で明るい意匠とした。内装については、特徴的なコンクリート小叩き仕上げによる柱と天井は現状のままとし、ブロンズ色の手すりやバックヤードの一部に用いられている水色の壁面はオリジナルの色彩を尊重しながら傷んだ部分を修繕し再塗装を行った。

2. 展示空間の刷新

(1) 展示壁の刷新

竣工当時は、栓(セン)の練付けによる木目を生かした展示壁となっていたが、壁の色が展示作品の見え方に少なからず影響を与えることから、今回の改修にあたっては展示壁を白色に変更、また、展示室内のピクチャーレールを撤去し、壁に直接吊り金具を固定・復旧できる材質に変更することで災害に強く、より自由度の高い展示空間の実現を目指した。

(2) 照明のLED化

既存のライティングダクトと蛍光灯による照明器具を撤去し、作業用の直管型LED照明と吊り型のライティングダクトを新設した。2018年8月に現場にて照明実験を実施し、壁や床の色もあわせて検討。スポットライトは葉山館で使用しているハロゲン式スポットライトと同じ色温度3000KのLED照明、固定の展示ケース内は調光・調色が可能な直管型LED照明を採用することとした。また、展示ケース内上部にライティングレールを設置し、ケース内にもスポットライトを取り付けることができるようにした。

3. 安定した温湿度環境の確保

(1) 展示室入口扉の設置

展示室と展示ロビーの間に防犯防火機能を備えたガラス自動扉を新設して気密性を高めるとともに、1階エントランスから2階展示ロビーに抜ける外気の展示室への進入を防ぎ、安定的な展示環境が維持できるよう図った。

(2) 断熱性能の向上

温湿度環境の安定化を図るため、外壁に接している固定展示ケースの一部を廃止し、展示室と外壁の間に空気層となる通路を設けた。また、外周壁に接する展示壁については、内壁を撤去して外周壁の内側に断熱処理を行ったうえあらためて設置した。

(3) 搬出入口シャッターの増設

搬出入口から収蔵庫、展示室にいたる経路の温湿度と空気環境の安定化および防犯対策の観点から荷捌場前に重量防火シャッターを1枚増設した。

4. 収蔵スペースの拡充・整備

鎌倉別館の収蔵スペースの拡充は、近代美術館施設環境整備における重要な課題のひとつであった。当初、隣地に収蔵庫を増築する計画であったが、埋蔵文化財調査による工期の長期化への懸念から増築棟の建設を断念した。1階収蔵庫は空調と照明設備の更新。既存の地下倉庫の空調設備および内装、

扉を刷新し、保存環境の安定した収蔵庫へ転用するとともに作品の落下防止用ネットを備えたスチール製柵を設置した。

5. 各種設備の整備

(1) 空調設備の更新

空調設備については、老朽化による機能低下が著しいことから全面的な機械の更新を行った。展示室および収蔵庫は、いずれも作品の展示・保管にふさわしい24時間の恒温恒湿（展示室は夏季温度 $24\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55\pm 5\%$ 、冬季温度 $22\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55\pm 5\%$ ／収蔵庫は通年温度 $22\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55\pm 5\%$ ）を条件とし、熱回収式空冷ヒートポンプチラーを採用した。化学物質濃度等に配慮した材料と工法を用いることで、より安定した空気環境の実現を目指した。

(2) エレベーターの更新

老朽化した来館者用と荷物用大型エレベーター各1台を撤去し、それぞれロープ式のエレベーターにした。

(3) 照明のLED化

庭園および一部の非常灯を除く館内の照明をLED化した。

6. カフェおよびミュージアムショップスペースの新設

(1) カフェスペース

エントランスホールに連結させた廊下の先にカフェスペースを鉄骨造で増築。建物入口前の稲田石敷きテラスを東と南に拡張。ガラス張りの開放感あるカフェからは彫刻庭園を見渡せるようにした。増築部分の外壁は、北、南、東の三面にそれぞれ淡緑、淡灰色、淡青と白の $100\times 25\text{mm}$ の磁器質タイルを市松模様配し、全体として白を基調とした明るく軽快な意匠とした。

(2) ミュージアムショップスペース

エントランスホールに新設したミュージアムショップのスペースとして開館時オリジナルの木製受付カウンターとの調和を考慮し、カフェに通じる廊下の茶系のリブ壁と連続性をもたせた木製の可動式飾り柵を新設した。

7. 居住性能の向上

(1) 救護室兼ベビーケアルーム、多機能トイレ、一般用トイレを1階増築部分に新設。最新の衛生設備を備え、利用者の利便性の向上を図った。

(2) 来館者用エレベーターへの動線を妨げていた既存のコインロッカーを撤去し、エントランスホールに設置した壁に内蔵するかたちで新たなコインロッカーを設置した。

(3) 学芸員室の新設

既存の書庫から集密書架を一部撤去し、同室を学芸員室へ転用。LANケーブルの配線や、館内モニタリング設備等を整え、学芸員のための執務スペースを新設した。

(4) スタッフ控室の新設

受付・案内、清掃、警備、設備スタッフの更衣室兼控室を新設した。

8. 外構の見直し

(1) 門扉とゲートの刷新

県道からのアプローチに開放感をあたえるため、正門脇の稲田石造りの外塀を撤去してコンクリート打ち放し塀に変更し

た。トラックヤード側ゲートは外部からの視界を遮るために高さを上げながらアルミ材を用いた圧迫感のないデザインを採用した。また、駐輪場ならびに庭園利用案内の掲示を正門内に新設し、搬出入用車両の動線に留意しながらトラックヤード側ゲート内に1台分の身障者用駐車スペースを設けた。

(2) 看板

広報効果を高めるため県道に面した既存のポスター掲示・案内板を撤去し、外塀と連続するかたちで高さ 1.55m 幅 5.4m の大型看板を新設した。

9. サイン計画の見直し

2003年の葉山館竣工時にサインデザインとロゴを制作した矢萩喜從郎氏に依頼し、館全体にわたるサイン計画の見直しを行った。館内各施設にはピクトグラムによる表示を新設、展示室内の順路等案内については既存の什器を修繕のうえ表示を変更して再利用した。外構では看板と連続させた外塀と門扉、案内プレートを刷新。県道側擁壁の既存の案内プレートはシンボルマークを入れた表示に変更。正門脇の外塀には鎌倉別館の和英館名とロゴマークを組み合わせた新たなデザインによるステンレス製の館名掲示を設置した。

10. その他

館全体にわたり防犯、防火、防虫害のための設備の充実を図り、収蔵庫扉の刷新、防犯カメラの新設、防火扉の増設、また、雨水処理のため屋上に防水処置を施した。さらに、安全対策として固定展示ケースを含めた既存・新設のすべてのガラス製の窓と扉にUVカット効果のある飛散防止フィルムを施工した。

工事は当初の予定から約2か月遅れて2019年5月15日に終了し、5月28日に美術館に引き渡された。10月の開館までの整備期間中には、外部の民間借り上げ倉庫に保管していた物品や新規で購入した物品・什器を搬入、柵や椅子等オリジナルの意匠のものは再利用した。また、展示室・収蔵庫の空気環境調査、温湿度調整等を実施。屋外では庭園の造成および屋外彫刻の設置が行われた。

こうして2015年度からはじまった「近代美術館施設環境整備事業」は2019年度をもって終了した。鎌倉館閉館から3年余。ようやく葉山館と鎌倉別館による二館体制を本格的にスタートさせることとなった。リニューアル・オープン初日の2019年10月12日は、折悪しく関東から東北にかけて甚大な被害をもたらした台風19号の関東直撃と重なり、リニューアル・オープン記念展「ふたたびの「近代」」は、初日と二日目を臨時休館とし、記念式典等もすべて中止を余儀なくされた。再開館に向けて準備を進めてきた美術館スタッフにとっては大変残念な結果となってしまったが、2020年1月19日までの会期中には鎌倉別館の再出発を心待ちにされていた多くの来館者を迎えることができた。

最後に、改修工事にたずさわっていただいた関係各位ならびに長期間にわたる作品の保管をお引き受けくださった平塚市美術館ほか、本事業にご理解とご協力をいただいた多くの機関、個人の皆様にあらためて深く感謝申し上げます。



門扉とゲート

a



建物外観

a



展示室入口

a



展示室（「ふたたびの「近代」」展示風景）

a



展示ロビー

c



収蔵庫2

a



カフェスペース

a



外塀サイン

b



ミュージアムショップスペース

a



カフェへの廊下

b



救護室兼ベビーケアルーム

a

撮影：a. ©BAUHAUSNEO

b. 新 良太

c. 木奥恵三

鎌倉別館の改修に伴う彫刻整備について

三本松倫代

鎌倉別館の改修に際し、工事期間の現場事務所設置、作業経路確保、作品保全などのため、屋外に常設されていた彫刻12点の撤去・移設・養生等を行った。また、地上階の増床にともなう庭園面積の減少にともない、再開に向けて2016年度末より一部作品の撤去を始め、配置位置の変更などを行い、庭園の再整備を実施した。

当該整備の一部は、当館における彫刻作品の整備を目的として橋川雄一氏より受けた寄附金（2015-19年度）を組み入れた「神奈川県まなびや基金」を活用している（同基金による彫刻整備については各年度の年報を参照）。

『たいせつな風景』第20号（2015年3月発行）所収の「別館の彫刻—とりあえず小さな庭に」で酒井忠康元館長が記すように、鎌倉別館の屋外彫刻は開館時に設計者の大高正人と美術館が設置した5点から、35年間でその数を増やしてきた。今回は新設されるカフェやテラスからの眺望を考慮し、建築工事完了後に入口前の柳原義達作品を復旧、現場事務所を撤去後に原寸

模型を使って庭への配置案を決定し、多田美波作品が置かれた南側のテラスにつなげるため芝生部分の地面を嵩上げた。

通常、屋外彫刻は恒久設置を前提に安全性や耐久性を考慮して施工されるものである。今回、作品によっては鉄筋コンクリート製の強固な基礎部分を除去および再設置したことで、普段目にする事のない基礎部分やその施工方法を確認・記録できた意義は大きい。経年劣化していた多田美波作品の結晶化ガラス部分はオリジナルから採寸して新規再制作し、ステンレス部分の亀裂を修復した。多田作品の台座部分は、設置位置の変更にとまなない、前庭と同じピンコロ石からテラスと同じ稲田石に変更している。また、渡辺豊重作品は再塗装と足元部分の高さを上げる修復を行った。撤去時や再設置位置の検討に際し協力いただいた湯村光氏、渡辺豊重氏、多田美波研究所の岩本八千代所長はじめ各氏に御礼を申し上げたい。

撤去・梱包・輸送・設置：株式会社東京美術工芸社
芝整備：株式会社キリタ（葉山館・鎌倉別館）
グリーン&ウォーター株式会社（鎌倉別館）

鎌倉別館から葉山館に移設した作品

作者	作品名	寸法(mm)奥行×幅×高さ	制作年	備考
小田 襄	円柱の展開	500×500×2080	1983年	
湯村 光	Stone Work - Stream	2150×740×2150	1987年	

鎌倉別館から撤去した作品(葉山館保管)

作者	作品名	寸法(mm)奥行×幅×高さ	制作年	備考
番浦有爾	風	700×1000×1450	1990年	
番浦有爾	穹	770×700×2020	1991年	

鎌倉別館に復旧した作品

作者	作品名	寸法(mm)奥行×幅×高さ	制作年	備考
植松奎二	浮くかたち—軸	1200×1300×2450	1994年	移設なし
柳原義達	犬の唄	600×600×2000	1983年	
湯原和夫	無題	1856×1857×2000	1982年	移設なし

位置を変えて鎌倉別館に再設置した作品

作者	作品名	寸法(mm)奥行×幅×高さ	制作年	備考
井上玲子	カゲボウシ	1800×1900×4500	1988年	
多田美波	時空	2700×3600×1500	1980年	2019年度修復
本郷 新	わだつみのこえ	750×960×1900	1950年	
眞板雅文	静思空間	1895×1600×1560	1994/2009年	
渡辺豊重	SWING 86-01	500×2200×2500	1986年	2018年度修復

鎌倉別館



葉山館



改修工事年表

改修工事関係		屋外彫刻移設関係	
2014(平成26)年			
鎌倉別館改修基本構想案作成。			
2015(平成27)年			
3月	鎌倉別館改修工事基本実施設計費が平成27年度当初予算に計上。		
6月	県文化遺産課による埋蔵文化財試掘調査を実施。		
10月	入札の結果、株式会社国設計が改修設計者に決定。 国設計、纏企画、共信設備設計、住宅営繕事務所、生涯学習課、近代美術館による基本設計のための第1回定例会議(以後、年度内隔週で実施)。		
2016(平成28)年			
1月31日	鎌倉館の一般公開終了。	6月	鎌倉館から木村賢太郎《作品-55》、清水九兵衛《BELT》、アントニー・ゴームリー《Insider VII》、空充秋《揺蕩(ゆれも)》、中島幹夫《軌09》、西雅秋《イノセンスー火》、イサム・ノグチ《こけし》、山口牧生《棒状の石あるいはCosmic Nucleus》、《石人》を葉山館に移設。喫茶室の壁画である田中岑《女の一生》を修復・移設のため撤去。
2月1日-7月29日	作業のため鎌倉別館を休館。	7月	《女の一生》を葉山館講堂前ホワイエに設置。
3月	地質調査(サウンディング方式)実施。基本設計が提出される。鎌倉館から鎌倉別館へ職員8名が勤務地を移転。県有物品、什器を鎌倉別館および民間の借上げ倉庫に搬出。鎌倉別館展示室の一部を学芸員執務スペースに使用。		
3月31日	鎌倉館閉館。		
7月	鎌倉別館で展覧会開催のため、学芸員5名が鎌倉別館から外部借上げ仮事務所に執務場所を移す。		
7月14日	国設計、纏企画、共信設備設計、住宅営繕事務所、生涯学習課、近代美術館担当者による第1回実施設計総合打合わせ(以後、実施設計完了まで月1回実施)。		
7月30日-9月25日	「片岡球子展-面構シリーズを中心として」開催。		
10月	実施設計完了。		
10月18日-12月25日	「松本竣介 創造の原点」展開催。		
12月-2017年1月	鎌倉別館から一部の収蔵作品を平塚市美術館へ輸送・保管(2019年12月まで)。		
12月26日-2017年5月26日	改修工事準備のため鎌倉別館を休館。		
2017(平成29)年			
1月	新設に伴う埋蔵文化財調査による工期長期化への懸念から収蔵庫棟の増築を断念。	2月-3月	鎌倉別館改修工事のため番浦有爾《風》《穹》、本郷新《わだつみのこえ》、眞板雅文《静思空間》、湯村光《Stone Work-Stream》の5作品を撤去(湯村光氏来館監修、民間の借上げ倉庫に保管)。
3月3日	住民説明会を実施(於:雪ノ下公会堂)。	11月	井上玲子《カゲボウシ》、小田襄《円柱の展開》、多田美波《時空》、柳原義達《犬の唄》、渡辺豊重《SWING 86-01》を撤去(渡辺豊重氏来館監修)、民間の借上げ倉庫に保管。湯原和夫《無題》、植松奎二《浮くかたち一軸》の周辺を養生のためガルバリウム鋼板の仮囲いで覆い、工事関係者立入禁止とする。
5月27日-9月3日	「建築家・大高正人と鎌倉別館」展開催。		
9月5日-11月5日	庭園無料公開。		
9月28日	仮事務所から鎌倉別館へ学芸員5名が勤務地を移転。		
10月-12月	収蔵作品梱包・搬出準備。		
11月6日-2019年10月11日	改修工事のため再休館。		
2018(平成30)年			
1月	鎌倉別館から葉山館および民間の借上げ倉庫へ作品を輸送・保管。		
3月8日	鎌倉別館から葉山館へ職員7名が勤務地を移転。		
3月26日	工事開始。		
4月-2019年3月	施工管理者、施工業者、住宅営繕事務所、生涯学習課、美術館担当者による定例会議を鎌倉別館現場事務所にて毎週火曜日に実施。		
2019(平成31/令和元年)			
3月26日	定例会議が全50回をもって終了。	1月-2月	葉山館に移設する小田・湯村作品について配置場所検討(2月19日湯村光氏来館)。
5月15日	工事終了。	2月	民間の借上げ倉庫から葉山館へ小田作品搬入(27日)。
5月28日	引き渡し。	3月	葉山館 小田作品設置(1日基礎工事、18日作品設置)、湯村作品基礎工事(12月18-20日、22-23日、26-27日)。
6月19日	葉山館から鎌倉別館へ職員7名が勤務地を移転。	4月	鎌倉別館 仮囲い撤去(18-19日)。鎌倉別館の彫刻再配置検討・決定(21日渡辺豊重氏来館)。
10月12日-2020年1月19日	鎌倉別館リニューアル・オープン記念展「ふたたびの「近代」」開催。	3月-5月	多田作品の再設置位置について多田美波研究所と検討。結晶化ガラス(製品名ネオバリエ®)の再制作・施工等について多田美波研究所、電気硝子建材株式会社と検討・採寸。
12月	民間の借上げ倉庫および平塚市美術館から作品を鎌倉別館に輸送・搬入。	6月	民間の借上げ倉庫から作品を搬出、鎌倉別館(4日)、葉山館(8日)に搬入。多田作品基部防錆塗装(7日)。湯村作品を葉山館庭園に設置(10日)。鎌倉別館に作品を設置:井上・渡辺(12日渡辺豊重氏来館);本郷・眞板(13-14日);柳原(13日);盛り土(14日);芝・石貼り(18日);多田作品ステンレス部分修復(20日);多田作品設置(21-22日、24-26日)。
		9月	庭園整備(盛土、芝、擁壁整備)終了。
2020(令和2)年			
2月1日-3月22日	「生誕120年・没後100年 関根正二展」開催。(3月4日以降は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館)		
3月	葉山館で保管していた作品を鎌倉別館へ輸送・搬入。		

教育普及活動

教育普及事業実績一覧

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等) ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したイベント等は【中止】と記した

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
講演会	「ポーランド・ポスター展」 記念講演会	「ポーランド・ポスターの胚胎」	矢萩喜從郎(建築家、デザイナー)	H31.4.27	葉山館 講堂	事前申込制	15名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 記念講演会 ※図1	「新作を語る」	柚木沙弥郎(染色家)、水沢 勉	R1.7.13	葉山館 講堂	事前申込制	60名
	「みえるもののむこう」 アーティストトーク	出品作家と関係者による自作解説	白石由子(アーティスト)、川村格夫(本展出品作《SPECIMEN》制作のユニット「36」のメンバー)	R1.7.15	葉山館 展示室	自由参加	41名
	「みえるもののむこう」 アーティストトーク	出品作家による自作解説	津上みゆき(アーティスト)	R1.7.28	葉山館 展示室	自由参加	51名
	「みえるもののむこう」 アーティストトーク	出品作家による自作解説	酒井幸菜(振付家/ダンサー)	R1.7.28	葉山館 展示室	自由参加	33名
	「みえるもののむこう」 アーティストトーク	出品作家と関係者による自作解説	一之瀬ちひろ(アーティスト)、尾中俊介 [Calamari Inc.] (本展グラフィックデザイナー)	R1.8.10	葉山館 展示室	自由参加	22名
	「みえるもののむこう」 アーティストトーク	出品作家による自作解説	三嶽伊紗(アーティスト)	R1.8.24	葉山館 展示室	自由参加	32名
	「カイ・フランク」 記念シンポジウム ※図2	フィンランド側関係者によるシンポジウム	タウノ・タルナ(タウノ&リーサ・タルナ・コレクション、デザイナー)、カイサ・コイヴィスト(フィンランド・ガラス博物館チーフ・キュレーター)	R1.9.22	葉山館 講堂	先着順	42名
	「カイ・フランク」 スペシャルトーク	日本側関係者による対談	小西亜希子(『カイ・フランクへの旅』著者)、熊野 亘(デザイナー)	R1.11.3	葉山館 講堂	先着順	60名
	「関根正二展」 ゲストトーク【中止】	「関根正二展」を記念した講演会	酒井忠康(世田谷美術館長)	R2.3.7	鎌倉別館	先着順	
パフォーマンスイベント	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「習作として」 ※図3	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)	R1.7.13	葉山館 展示室	自由参加	58名
	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「津上部屋にて」	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)、中村未来(ダンサー)	R1.7.28 ※2回	葉山館 展示室	自由参加	36名/65名
	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「一之瀬部屋にて」	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)、中村未来(ダンサー)、観客参加型	R1.8.10 ※2回	葉山館 展示室	自由参加	30名/40名
	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「三嶽部屋にて」	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)、中村未来(ダンサー)、観客参加型	R1.8.24 ※2回	葉山館 展示室	自由参加	30名/35名
	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「白石部屋にて」	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)、観客参加型	R1.9.1 ※2回	葉山館 展示室	自由参加	48名/46名
	「みえるもののむこう」 パフォーマンスイベント「展示室を通して」	出品作品(眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ))としての公演	酒井幸菜(振付家/ダンサー)、中村未来(ダンサー)	R1.9.8	葉山館 展示室	自由参加	56名
	「ふたたびの『近代』」 パフォーマンスイベント「トヨダヒトシ 映像日記/スライドショー タイトル未定」(35mmフィルム、ライブ・パフォーマンス) ※図4	「ふたたびの『近代』」を記念したイベント	トヨダヒトシ(写真家)	R2.1.18	鎌倉別館 展示室	自由参加	120名
ワークショップ	「ポーランド・ポスター展」 造形ワークショップ	ポスターを作るワークショップ	翔山昌夫、鈴木敬子	H31.4.29	葉山館 会議室 展示室	団体来館	23名 (藤沢市内中学校)
	夏のたね'19/鳥獣戯画モビール	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」に関連した、文字と動物をつなげて紙製モビールを作るワークショップ	八木めぐみ	R1.7.20~8.16のうち25日間	葉山館 エントランス	18歳以下 自由参加	1,134名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 造形ワークショップ「モビールをつくりたい」 ※図5	枝や貝殻でモビールをつくるワークショップ	柿木原政広(アートディレクター)	R1.8.3	葉山館 講堂	事前申込制	30名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 子どものための読み聞かせ 絵本『トコとゲーゲーとキキ』	絵本の読み聞かせ	八木めぐみ	R1.8.4、9.1	葉山館 展示室	自由参加	21名/23名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 造形ワークショップ	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」に関連したワークショップ	八木めぐみ、深尾茅奈美	R1.8.6	葉山館 会議室	団体来館	16名 (逗子市内中学校)
	「カイ・フランク」 造形ワークショップ「十人十色のガラス色」	「カイ・フランク」に関連した塗り絵ワークショップ	深尾茅奈美、八木めぐみ	R1.9.29~12.25のうち15日間	葉山館 エントランス	先着順	736名
	「ふたたびの『近代』」 造形ワークショップ「大集合!みんなの展覧会」	「ふたたびの『近代』」に関連したワークショップ	吉田有瑠子	R1.11.10	鎌倉別館 展示ロビー	事前申込制	5名
	「ふたたびの『近代』」 造形ワークショップ「てのひらサイズで立体造形作家になってみよう」	「ふたたびの『近代』」に関連したワークショップ	渡辺豊重(美術家)	R1.11.17	鎌倉別館 カフェ	事前申込制	14名
	美術図書室ワークショップ「パタパタカードをつくらう」	パタパタカードをつくるワークショップ	山中久美子、大野寿子、渡邊貴世子、和田明子	R2.1.7~3.1のうち48日間	葉山館 美術図書室	自由参加	37名
	ギャラリートーク	「ポーランド・ポスター展」&「彫刻のある風景」館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R1.5.18	葉山館 展示室	自由参加
「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク		学芸員による展覧会解説	翔山昌夫	H31.4.7	葉山館 展示室	自由参加	15名
「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク ※図6		学芸員による展覧会解説	翔山昌夫	R1.5.6	葉山館 展示室	自由参加	20名
「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク		学芸員による展覧会解説	翔山昌夫	R1.5.22	葉山館 展示室	団体来館	40名 (一般団体)

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
ギャラリートーク	「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R1.5.22	葉山館展示室	団体来館	40名 (一般団体)
	「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R1.6.8	葉山館展示室	自由参加	17名
	「ポーランド・ポスター展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R1.6.9	葉山館講堂	団体来館	50名 (一般団体)
	「彫刻のある風景」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	H31.4.7	葉山館展示室	自由参加	8名
	「彫刻のある風景」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.5.6	葉山館展示室	自由参加	6名
	「彫刻のある風景」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.5.22	葉山館展示室	団体来館	12名 (一般団体)
	「彫刻のある風景」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	橋 秀文	R1.6.8	葉山館展示室	自由参加	10名
	「彫刻のある風景」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.6.16	葉山館展示室	団体来館	52名 (横浜市内小学校)
	「みえるもののむこう」 館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R1.9.1	葉山館展示室	自由参加	39名
	「みえるもののむこう」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R1.7.27	葉山館展示室	自由参加	10名
	「みえるもののむこう」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R1.8.8	葉山館展示室	自由参加	7名
	「みえるもののむこう」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R1.8.27	葉山館展示室	自由参加	25名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R1.7.21	葉山館展示室	自由参加	53名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R1.7.27	葉山館展示室	自由参加	15名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R1.8.8	葉山館展示室	自由参加	23名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R1.8.27	葉山館展示室	自由参加	85名
	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R1.9.6	葉山館展示室	団体来館	24名 (横浜市内教育機関)
	「みえるもののむこう」&「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代、朝木由香	R1.7.23	葉山館展示室	団体来館	6名 (一般団体)
	「みえるもののむこう」&「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代、朝木由香	R1.7.26	葉山館展示室	団体来館	126名 (鎌倉市内中学校)
	「みえるもののむこう」&「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代、朝木由香	R1.9.5	葉山館展示室	団体来館	30名 (一般団体)
	「カイ・フランク」&「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R1.10.5	葉山館展示室	自由参加	32名
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.10.19	葉山館展示室	自由参加	30名
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.10.31	葉山館展示室	団体来館	17名 (一般団体)
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.11.16	葉山館展示室	自由参加	14名
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.11.19	葉山館展示室	団体来館	7名 (一般団体)
	「カイ・フランク」 学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	深尾茅奈美	R1.11.22	葉山館展示室	団体来館	25名 (一般団体)
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.12.1	葉山館展示室	団体来館	54名 (一般団体)
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.12.14	葉山館展示室	自由参加	50名
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.12.20	葉山館展示室	団体来館	17名 (一般団体)
	「カイ・フランク」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R1.12.25	葉山館展示室	自由参加	26名
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	橋 秀文	R1.10.19	葉山館展示室	自由参加	10名	
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	橋 秀文	R1.11.16	葉山館展示室	自由参加	3名	
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	橋 秀文	R1.11.24	葉山館講堂	団体来館	22名 (一般団体)	
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R1.12.1	葉山館展示室	団体来館	54名 (一般団体)	
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	橋 秀文	R1.12.14	葉山館展示室	自由参加	23名	

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
ギャラリートーク	「ふたたびの『近代』」 館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R2.1.11	鎌倉別館展示室	自由参加	73名
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.10.16	鎌倉別館展示室	団体来館	18名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.10.26	鎌倉別館展示室	自由参加	10名
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.10.29	鎌倉別館展示室	団体来館	11名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R1.11.13	鎌倉別館展示室	団体来館	45名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.11.29	鎌倉別館展示室	団体来館	10名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.12.4	鎌倉別館展示室	団体来館	9名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R1.12.21	鎌倉別館展示室	自由参加	12名
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R2.1.17	鎌倉別館展示室	団体来館	25名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	吉田有瑠子	R2.1.18	鎌倉別館展示室	団体来館	15名 (一般団体)
	「ふたたびの『近代』」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R2.1.19	鎌倉別館展示室	自由参加	35名
	「関根正二展」 館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R2.2.15	鎌倉別館展示室	自由参加	78名
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R2.2.4	鎌倉別館展示室	団体来館	33名 (一般団体)
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク *図7	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R2.2.4	鎌倉別館展示室	自由参加	20名
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R2.2.4	鎌倉別館展示室	団体来館	34名 (横須賀市内大学)
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R2.2.4	鎌倉別館展示室	団体来館	10名 (一般団体)
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク 【中止】	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R2.2.4	鎌倉別館展示室	団体来館	
	「関根正二展」 担当学芸員によるギャラリートーク 【中止】	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R2.2.4	鎌倉別館展示室	自由参加	
建物の見学と学芸員による解説	学芸員による解説	長門佐季	R2.2.4	鎌倉別館展示室	団体来館	10名 (一般団体)	
県立社会教育施設公開講座	県立社会教育施設活用講座「『近代』と対話する。」 第1回 *図8	「エミール・ギメと明治美術」	岡村嘉子(美術史家、翻訳家、エッセイスト)	R1.11.2	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	18名
	県立社会教育施設活用講座「『近代』と対話する。」 第2回	「岸田劉生—古美術との対話」	佐藤康宏(東京大学文学部教授)	R1.11.2	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	14名
	県立社会教育施設活用講座「『近代』と対話する。」 第3回	「西村伊作と文化学院—自立した行動の人として—」	黒川 創(作家)	R1.11.16	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	17名
	県立社会教育施設活用講座「『近代』と対話する。」 第4回	「作品、時、人、その出会い。—田中岑、堀内正和、難波田龍起など—」	渡辺豊重(美術家)	R1.11.23	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	31名
	県立社会教育施設活用講座「『近代』と対話する。」 第5回	「反復する世界大戦と抽象」	岡崎乾二郎(彫形作家、批評家)	R1.12.14	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	50名
先生のための特別鑑賞の時間	先生のための特別鑑賞の時間/第1回鑑賞編	「ポーランド・ポスター展」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	柳山昌夫、吉田有瑠子	R1.5.11	葉山館展示室会議室	事前申込制	2名
	先生のための特別鑑賞の時間/第3回鑑賞編	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	朝木由香、八木めぐみ	R1.7.27	葉山館展示室会議室	事前申込制	6名
	先生のための特別鑑賞の時間/第4回鑑賞編	「みえるもののむこう」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、八木めぐみ	R1.8.10	葉山館展示室会議室	事前申込制	6名
	先生のための特別鑑賞の時間/第5回鑑賞編 *図9	「音をみる、色をさく 美術が奏でる音楽」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	橋 秀文、吉田有瑠子	R1.9.28	葉山館展示室会議室	事前申込制	12名
	先生のための特別鑑賞の時間/第6回鑑賞編	「ふたたびの『近代』」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	西澤晴美、吉田有瑠子	R1.10.26	鎌倉別館展示室	事前申込制	3名
	先生のための特別鑑賞の時間/第7回鑑賞編	「カイ・フランク」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	高嶋雄一郎、深尾茅奈美	R1.11.9	葉山館展示室会議室	事前申込制	5名
葉山美術講座	葉山美術講座/第1回	「戦前・戦中の佐野繁次郎」	橋 秀文	H31.4.17	葉山館講堂	先着順	20名
	葉山美術講座/第2回	「師弟関係の二人の画家 佐野繁次郎と金山康喜」	橋 秀文	H31.4.24	葉山館講堂	先着順	12名
	葉山美術講座/第3回	「ポーランド人民共和国の社会とポスター芸術」	柳山昌夫	R1.6.5	葉山館講堂	先着順	16名
	葉山美術講座/第4回	「ポーランドとソヴィエト連邦のポスターの比較試論」	柳山昌夫	R1.6.19	葉山館講堂	先着順	35名

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
葉山美術講座	葉山美術講座／第5回 *図10	「瀧口修造 旅する眼差し(1)」	朝木由香	R1.8.7	葉山館 講堂	先着順	19名
	葉山美術講座／第6回	「瀧口修造 旅する眼差し(2)」	朝木由香	R1.8.21	葉山館 講堂	先着順	20名
	葉山美術講座／第7回	「鎌倉別館の建築家・大高正人(1)」	三本松倫代	R1.10.23	葉山館 講堂	先着順	13名
	葉山美術講座／第8回	「鎌倉別館の建築家・大高正人(2)」	三本松倫代	R1.10.30	葉山館 講堂	先着順	8名
	葉山美術講座／第9回	「関根正二 夭折画家の肖像(1)」	長門佐季	R1.12.4	葉山館 講堂	先着順	17名
	葉山美術講座／第10回	「関根正二 夭折画家の肖像(2)」	長門佐季	R1.12.18	葉山館 講堂	先着順	24名
地域連携 葉山町・逗子市	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第1回	「ポーランド人民共和国のポスター芸術について」	梶山昌夫	H31.4.13	葉山町 福祉文化会館	自由参加	25名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第2回 *図11	「美術館や町に彫刻があるということ」	高嶋雄一郎	R1.6.1	葉山町 福祉文化会館	自由参加	17名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第3回	「みえるもののむこうとこちら」	三本松倫代	R1.7.27	葉山町 福祉文化会館	自由参加	22名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第4回	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』展について」	朝木由香	R1.8.24	葉山町 福祉文化会館	自由参加	36名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第5回	「カイ・フランク 究極のデザイン、もしくは“労働に対する喜び”」	高嶋雄一郎	R1.10.26	葉山町 福祉文化会館	自由参加	18名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第6回	「コレクション展『音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽』について」	橋 秀文	R1.11.30	葉山町 福祉文化会館	自由参加	22名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第7回	「関根正二と友のことども」	三本松倫代	R2.2.1	葉山町 福祉文化会館	自由参加	18名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第8回 【中止】	「日本近代の夭折の画家たち—関根正二展を機に—」	橋 秀文	R2.2.29	葉山町 福祉文化会館	自由参加	
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)／第1回	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』展について」	朝木由香	R1.8.30	逗子市市民 交流センター	自由参加	21名
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)／第2回	「カイ・フランク 究極のデザイン、もしくは“労働に対する喜び”」	高嶋雄一郎	R1.10.30	逗子市役所	自由参加	23名
近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)／第3回	「関根正二と友のことども」	三本松倫代	R2.2.12	逗子市役所	自由参加	36名	
出張授業	逗子市立久木中学校	造形ワークショップ「○と□」	鈴木敬子、吉田有璃子	R1.5.28	久木中学校	授業数5	173名
	逗子市立逗子中学校	展覧会紹介、美術館紹介	梶山昌夫、三本松倫代	R1.7.17	逗子中学校	授業数3	101名
	横浜市立文庫小学校	アートカード「宝箱」を使ったワークショップ	八木めぐみ、深尾茅奈美	R1.11.8	文庫小学校	授業数4	150名
	横浜市立瀬ヶ崎小学校	アートカード「宝箱」を使ったワークショップ	深尾茅奈美、吉田有璃子、鈴木敬子	R2.1.28, 2.4	瀬ヶ崎小学校	授業数6	177名
むすんでひろってプロジェクト (インクルーシブ事業) (福祉)	造形ワークショップ「○と□」	丸と四角の紙を使って彫刻を作るワークショップ	梶山昌夫、鈴木敬子	R1.8.27	神奈川県立 逗子こども医療 センター	自由参加	19名
	造形ワークショップ「○と□」 *図12	丸と四角の紙を使って彫刻を作るワークショップ	梶山昌夫、鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有璃子、深尾茅奈美	R2.1.9, 1.30, 2.20(【中止】 3.12)	逗子市体験 学習施設 スマイル	先着順	50名
	造形ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」	印刷物をコラージュして紙の美術館を作るワークショップ	鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有璃子、深尾茅奈美	R2.1.16, 2.6 (【中止】 2.27, 3.19)	逗子市体験 学習施設 スマイル	先着順	24名
	造形ワークショップ「点と線」	点と線を組み合わせてカードを作るワークショップ	鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有璃子、深尾茅奈美	R2.1.23, 2.13(【中止】 3.5, 3.26)	逗子市体験 学習施設 スマイル	先着順	12名
	造形ワークショップ「なんだ？ボックス」	粘土で身近なものの形を作り、触覚をたよりにあてるワークショップ	梶山昌夫、鈴木敬子、吉田有璃子	R2.1.25, 1.26 (【中止】 3.27, 3.30)	逗子市体験 学習施設 スマイル	先着順	20名
	造形ワークショップ「カマクラをつくろう！～フロードームで学ぶ建築デザイン入門」【中止】	紙やひもなどを使ってカマクラづくりを体験するワークショップ	梶山昌夫、三本松倫代、鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有璃子	R2.2.22, 2.23	逗子市体験 学習施設 スマイル	事前申込制	
	造形ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」【中止】 *図13	印刷物をコラージュして紙の美術館を作るワークショップ	梶山昌夫、鈴木敬子	R2.3.25	神奈川県立 逗子こども医療 センター	自由参加	
公益財団法人かながわ国際交流財団連携事業 「みんなて。まなびほくす。美術館」 (社会を包む教育普及事業) (WORLDWIDE)	写真ワークショップ「多文化ユース・フォトセッション in 三浦半島」(撮影)	外国とつながりのある若者たちの写真撮影と鑑賞による交流	大藪順子(フォト・ジャーナリスト)	H31.4.13	葉山館 講堂	事前申込制	35名
	写真ワークショップ「多文化ユース・フォトセッション in 三浦半島」(作品公開)	外国とつながりのある若者たちの写真撮影と鑑賞による交流	大藪順子(フォト・ジャーナリスト)	H31.4.14	葉山館 講堂	事前申込制	17名
	造形ワークショップ「針穴写真ワークショップ」 *図14	針穴写真機を使った撮影と暗室での現像体験	梶山昌夫、三本松倫代、鈴木敬子、吉田有璃子	R2.2.8, 2.9 (【中止】 3.28, 3.29)	逗子市体験 学習施設 スマイル	事前申込制	23名
	造形ワークショップ「○と□」【中止】	丸と四角の紙を使って彫刻を作るワークショップ	梶山昌夫、三本松倫代、鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有璃子、深尾茅奈美	R2.3.14	茅ヶ崎市 美術館 アトリエ	先着順	
	作品鑑賞ワークショップ【中止】	「関根正二展」で作品鑑賞をするワークショップ	八木めぐみ	R2.3.15	鎌倉別館	事前申込制	

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
実習・研修等受入	博物館学芸員実習	計10日間/6大学(都内、横浜市内、長野市内)	高嶋雄一郎、鈴木敬子ほか	R1.8.16～8.28	葉山館		6名 (延べ24名)
	インターン研修	計22日間/1大学(横浜市内)	西澤晴美	R1.7.2～R2.3.19	葉山館、鎌倉別館		1名 (延べ22名)
	大学生インターンシップ	計3日間/1大学(都内)	八木めぐみ、鈴木敬子	R1.7.31～8.2	葉山館		1名 (延べ3名)
	高校生インターンシップ	計3日間/6校(相模原市内、茅ヶ崎市内、鎌倉市内、横浜市内、横須賀市内)	八木めぐみ、鈴木敬子	R1.7.31～8.2	葉山館		7名 (延べ21名)
	中学生職業体験	計5日間/5校(逗子市内、横須賀市内、葉山町内)	八木めぐみ、鈴木敬子、深尾茅奈美	R1.11.13～11.22	葉山館		16名 (延べ27名)
	中学生職業体験	計2日間/1校(鎌倉市内)	吉田有瑠子	R1.11.12、11.13	鎌倉別館 展示ロビー		2名 (延べ4名)
	教員研修	1日/藤沢市教育委員会から教員の受入	三本松倫代、朝木由香 鈴木敬子、八木めぐみ、深尾茅奈美	R1.7.23	葉山館 展示室、講堂	事前申込制	56名
	教員研修	計2日間/県立高校から教員の受入	鈴木敬子、八木めぐみ、吉田有瑠子、 深尾茅奈美	R1.7.25、7.26	葉山館 展示室、講堂	事前申込制	2名 (延べ4名)
	教員研修	1日/県立教育施設から教員の受入	三本松倫代、鈴木敬子	R1.7.30	葉山館 展示室、講堂	事前申込制	21名
	教員研修	1日/逗子市葉山市三浦市の教育施設から教員の受入	鈴木敬子	R1.8.21	葉山館 展示室 会議室	事前申込制	30名
受講人数総数						6,068名	

葉山館



図1. 「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』
記念講演会「新作を語る」
講師：柚木沙弥郎
日時：7月13日(土) 午後1時～2時
場所：葉山館 講堂



図2. 「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク」
記念シンポジウム
パネリスト：タウン・タルナ (タウン&リーサ・タルナ・コレクション、デザイナー)
カイサ・コイヴィスト (フィンランド・ガラス博物館、チーフ・キュレーター)
日時：9月22日(日) 午後2時～4時
場所：葉山館 講堂



図3. 「みえるもののむこう」
酒井幸葉《眼差しと筆跡(展示室のコレオグラフィ)》「習作として」
日時：7月13日(土) 午後4時～4時30分
場所：葉山館 展示室



図5. 「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」
ワークショップ「モビールをつくりたい」
講師：柿木原政広(アートディレクター)
日時：8月3日(土) 午後1時～3時
場所：葉山館 講堂



図 6. 「日本・ポーランド国交樹立 100 年記念 ポーランド・ポスター展」
 担当学芸員によるギャラリー・トーク
 日時：5月6日(月・祝) 午後2時30分-3時
 場所：葉山館 展示室

鎌倉別館



図 4. 「鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの『近代』」
 トヨダヒトシ 映像日記/スライドショー タイトル未定(35mmフィルム、ライブ・パフォーマンス)
 出演：トヨダヒトシ (写真家)
 日時：2020年1月18日(土) 午後5時-7時
 場所：鎌倉別館 展示室



図 7. 「生誕 120 年・没後 100 年 関根正二展」
 担当学芸員によるギャラリー・トーク
 日時：2020年2月4日(土) 午後2時-2時30分
 場所：鎌倉別館 展示室

県立社会教育施設



図 8. 県立社会教育施設公開講座 第 1 回
 「エミール・ギメと明治美術」
 講師：岡村嘉子氏 (美術史家/翻訳家/エッセイスト)
 日時：11月2日(土) 午後1時30分-3時30分
 場所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール



図9. 先生のための特別鑑賞の時間 第5回
「音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」
日時：9月28日(土) 午前10時～12時
場所：葉山館 会議室



図10. 葉山美術講座 第5回
「瀧口修造 旅する眼差し (1)」
日時：8月7日(水) 午後2時～3時30分
場所：葉山館 講堂



図11. 近代美術館入門講座(葉山町共催) 第2回
「美術館や町に彫刻があるということ」
日時：6月1日(土) 午前10時～11時
場所：葉山町福祉文化会館 大会議室



図12. むすんでひらいてプロジェクト in 逗子
造形ワークショップ「〇と□」
日時：2020年1月9日(木) 午後3時～5時
場所：逗子市体験学習施設スマイル



図13. 神奈川県国際交流財団連携事業 (MULPA)
「多文化ユース・フォトセッション in 三浦半島」作品公開&オープニングトーク
講師：大藪順子氏 (フォト・ジャーナリスト)
日時：4月13日(土)午後1時～5時
場所：葉山館 講堂



図14. 神奈川県国際交流財団連携事業 (MULPA)
針穴写真ワークショップ
講師：酒井朋子 (千葉大学工学部技術系職員/日本写真学会員)
日時：2020年2月9日(日) 午後1時～4時15分
場所：逗子市体験学習施設スマイル

団体来館受入状況 〔註〕

団体種別	件数等
教育機関等	小学校：1校／延べ1回52名
	中学校：6校／延べ6回219名
	大学：6校／延べ7回211名
	特別支援学級等：1校／延べ1回15名
一般	地方公共団体*2・生涯学習センター等の団体：5団体／延べ5回133名
	病院・福祉団体：5団体／延べ5回111名
	芸術家協会等の団体：3団体／延べ3回122名
	旅行会社・観光等の団体：3団体／延べ5回70名
	その他団体：14団体／延べ14回391名

〔註〕

- このデータは事前申込による団体来館受入数に限る。
- 外郭団体を含む。
- 5月22日、6月9日、16日、7月23日、26日、9月5日、6日、10月16日、29日、31日、11月13日、19日、22日、24日、29日、12月1日、4日、20日、1月17日、18日、2月4日の団体来館受入時には、学芸員がギャラリートークを行った。
- 4月29日、8月6日の団体来館受入時には、ワークショップを実施した（「教育普及事業実績一覧」p.25参照）。

視察受入状況

月日	来館者	人数	視察場所
7月16日（火）	千葉県立美術館	4人	葉山館
12月14日（土）	韓国・京畿道友好交流職員	1人	葉山館

「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	97個
貸出先	7校
貸出回数	延べ10回
利用総人数	628名
内訳概要	小学校：3校／延べ4回
	中学校：1校／延べ1回
	大学：3校／延べ5回
地域	横浜市2ヶ所、葉山町2ヶ所、三崎市1ヶ所、東京都2ヶ所

スタンプラリー

葉山を巡るスタンプラリー	期間：2019年5月18日～5月26日
<ul style="list-style-type: none"> 葉山館を含め葉山しおさい公園、山口蓬春記念館など7つのラリーポイントをめぐるスタンプラリーを実施した。 主催：県立葉山公園、はやま三ヶ岡山緑地指定管理者 株式会社三菱電機ライフサービス湘南支社 	
小町通り・八幡宮エリア鎌倉文化ゾーン ミュージアムめぐりスタンプラリー	期間：2019年10月12日～2020年3月21日
<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉別館と鎌倉市竊木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館で連携したスタンプラリーを実施した。 	

文化財保護ポスター展示

- 神奈川県教育委員会主催の第48回文化財保護ポスター募集作品から選ばれた最優秀賞の作品3点を展示した。
- 共催：神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会
- 場所：葉山館 エントランス
- 期間：12月17日～25日

美術図書室

藤代知子

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2020年3月末現在) 97,073冊
- ・2019年度新規図書・AV・図録登録数 1,699冊

2) 特別コレクション

- ・青木茂文庫の登録・整理

3) 閲覧サービス

- ・年間入室者数 5,279名(開館日1日平均21名)
- ・年間複写枚数 1,357枚(開館日1日平均5枚)
- ・年間レファレンス受付件数 89件
- ・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「みえるもののむこう／柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」が1日平均43名、「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク／コレクション展 音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」が1日平均18名と多かった。

展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は「みえるもののむこう」が21.0%と最も高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「日本・ポーランド国交樹立100年記念 ポーランド・ポスター展／コレクション展 彫刻のある風景」開催期間中が最も多く計22件であった。

当年度のレファレンスとして、「猫を表現したさまざまな作品が載っている資料」「中島幹夫の資料」「コロナイプインキについての資料」「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』展出品作である『地紋』の掲載資料」「芹沢銈介の資料」「バーネット・ニューマンの資料」「帆船や海が描かれたさまざまな作品が載っている資料」などがあった。

4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、さらに知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

・「日本・ポーランド国交樹立100年記念 ポーランド・ポスター展」

アラン&イザベラ・リヴィングストン著、藪亨・渡邊真訳『グラフィック・デザイン&デザイナー事典』(見洋書房、2005)といった、展示作家についてのレファレンス資料をはじめ、当館で行われてきたポーランド・ポスター展図録、ポーランド現代ポスター展編集委員会『ポーランド現代ポスター展』(神奈川県立近代美術館、1975)、『ポーランド現代版画ポスター展』(神奈川県立近代美術館、1980)、『ポーランドの現代ポスター展 神奈川県立近代美術館所蔵』(神奈川県立近代美術館、1984)でこれまでの経緯を示した。一方で、他美術館で紹介されてきたポスター展図録(たとえば『グラフィックデザインの今日』(東京国立近代美術館、1990))など計33冊を展示した。

・「コレクション展 彫刻のある風景」

野外彫刻展示を考察した、吉崎元章[ほか]編『空間に生きる 日本のパブリックアート展』(「空間に生きる—日本のパブリックアート」展開催実行委員会・空間造形コンサルタント、2006)、松尾豊『パブリックアートの展開と到達点 アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来』(水曜社、2015)、藤井匡『公共空間の美術』(阿部出版、2016)のほかは各出品作家の作品集や大型個展図録で紹介した。阿井正典『阿井正典作品集 魚礁』(阿井喜久子、1984)、向井良吉『向井良吉作品集』(美術出版社、1987)など計31冊を展示した。

・「みえるもののむこう」

5人の作家それぞれの資料を展示した。一ノ瀬ちひろは『IMA living with photography』vol.10(amana group, Head office、2014)を、酒井幸菜は寄稿した『たいせつな風景』26号(神奈川県立近代美術館、2018)を、白石由子はYuko Shiraishi: die unendliche Linie, Museum Wiesbaden, c2002など11冊を、津上みゆきは『Tsugami Miyuki: four series called "view": 津上みゆき作品集 2005-2012』(ハシモトアートオフィス、2013)など5冊を、三嶽伊紗は『三嶽伊紗のしごと みているもののむこう』(徳島県立近代美術館、2014)といった計19冊を展示した。

・「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」

展覧会と関係の深い資料、『鳥獣戯画がやってきた! 国宝「鳥獣人物戯画絵巻」の全貌』(サントリー美術館・読売新聞社、2007)や柚木沙弥郎『柚木沙弥郎の鳥獣戯画』(彗星館、2019)、原画が展示された宮沢賢治作、柚木沙弥郎絵『雨ニモマケズ』(三起商行、2016)をはじめとして、山下洋輔文、柚木沙弥郎絵『つきよのおなががかい』(福音館書店、1999)、柚木沙弥郎著、益田祐作編『夢みる手 柚木沙弥郎「版」の仕事 1983-2007』(アーツアンドクラフツ、2013)などの作品集も含め、計32冊を展示した。

・「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク」

カイ・フランクを主題とした資料 Kaj Franck: universal forms, Designmuseum, [2011]、小西亜希子著、永禮賢写真『カイ・フランクへの旅 “フィンランド・デザインの良心”の軌跡をめぐる』(グラフィック社、2017)やカイ・フランクの来日記事が掲載された『工芸ニュース』24巻2号(丸善出版、1956)などをはじめとして、フィンランドデザインを広く紹介する資料『フィンランド美術の歩み 大気 水土』(フィンランド美術展実行委員会、1994)、伊藤鮎[ほか]編『フィンランドのくらしとデザイン ムーミンが住む森の生活』(キュレイターズ、2012)など計22冊を展示した。

・「コレクション展 音をみる、色をきく 美術が奏でる音楽」

美術と音楽を主題とした、エドワード・ロックスパイザー著、中村正明訳『絵画と音楽』(白水社、1986)、隠岐由紀子[ほか]執筆、太田泰人・高橋裕子責任編集『音楽をめざす絵画 NHK日曜美術館 名画への旅 第20巻 19世紀IV』(講談社、1993)、『アート音楽館 アートと音楽を体全体で感じよう!』(釧路市立美術館、2002)、崔敬華[ほか]編『アートと音楽 新たな共感覚をもとめて』(フィルムアート社、2012)、『美術と音楽 音楽をめざす美術のこころみ』(群馬県立近代美術館、2016)など計18冊を展示した。

・「鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」 出品作家の最近の研究動向がみられる、村山知義研究会編『村山知義の宇宙 すべての僕が沸騰する』(読売新聞社・美

術館連絡協議会、2012)、加藤俊明 [ほか] 編『松本竣介展 生誕 100 年』(NHKプラネット東北・NHKプロモーション、c2012)、蓑原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスナレッジ、2014)、宮崎徹『鏑木清方 清く潔くうるはしく』(東京美術、2014)、大谷省吾・古館遼・中村麗子編『福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ』(東京国立近代美術館、2019) など計 19 冊を展示した。

・「生誕 120 年・没後 100 年 関根正二展」

関根正二の文集である関根正二著、酒井忠康編『関根正二遺稿・追想』(中央公論美術出版、1991、新装版)、関根正二著、酒井忠康監修・編『雲の中を歩く男 関根正二画文集』(求龍堂、2000)をはじめ、陰里鉄郎編『近代の美術 第 50 号 村山槐多と関根正二』(至文堂、1979)、『関根正二展 生誕 100 年』(神奈川県立近代美術館ほか、1999)、『ミッシングリンク 関根正二の新発見と未発見』(福島県立美術館、2017) など計 13 冊を展示した。

5) 誕生月特集展示

葉山館の展示休室にともない、美術図書室ではそれぞれの月に誕生した芸術家を数人とりあげ、資料展示を行った。

・2020 年 1 月 (片岡球子、村山知義、Paul Cézanne、Édouard Manet)

片岡球子『片岡球子画集』(マリア書房、2009)、村山知義『村山知義童画集』(婦人之友社、2004)、ポーラ美術館学芸部編『セザンヌ 近代絵画の父になるまで』(ポーラ美術館興財団ポーラ美術館、c2015)、三浦篤『エドゥアール・マネ 西洋絵画史の革命』(KADOKAWA、2018) など計 22 冊を展示した。

・2020 年 2 月 (Alvar Aalto、中川一政、Pierre-Auguste Renoir、岡本太郎)

小泉隆『アルヴァ・アールトの建築 エレメント&ディテール』(学芸出版社、2018)、大住竹重・小池満紀子編『中川一政 独行此道 没後 20 年』(NHK サービスセンター、2011)、宮崎克己『ルノワール その芸術と青春』(六耀社、2002)、『街の中の岡本太郎 パブリックアートの世界』(川崎市岡本太郎美術館、2018) など計 20 冊を展示した。

・2020 年 3 月 (Vincent Willem van Gogh、William Morris、小倉遊亀)

北海道立近代美術館 [ほか] 編『ゴッホ展 巡りゆく日本の夢』(北海道新聞社・NHK・NHK プロモーション、2017)、リンダ・パリー編、多田稔監修『ウィリアム・モリス 決定版』(河出書房新社、1998)、『小倉遊亀展』(平塚市美術館、c2018) など計 35 冊を展示した。

6) 美術図書室ワークショップ

2020 年 1 月 7 日から 3 月 1 日まで、美術図書室にて、古いチラシでパタパタカードを作るワークショップを行った(「教育普及事業実績一覧」p.25 参照)。

開室日数 48 日

入室者数 347 名(1 日平均 7 名)

ワークショップ参加人数 37 名

7) 広報普及

2019 年 11 月 12 日から 11 月 14 日までパシフィコ横浜にて開催された「第 21 回図書館総合展/アートミュージアム・アンヌ

アーレ 2019」のブース展示「こんなにあります!あなたも使える専門図書館」に参加した。海外を含む全国の専門図書館約 80 館の一覧と紹介が掲示されるブースで、パネル展示を行った。

美術館紹介・広報・掲載実績

1) 美術館紹介記事

「爽快感抜群の絶景求めてシーサイドドライブ! 海辺の白亜の美術館で近現代アートに親しむ」『関東・東北じゃらん』7 月号別冊付録、2019 年 6 月 1 日、p.13

萬代恭博「EYE on I-House I-House & 坂倉準三 Part 2」『I-House Quarterly』No.21、2019 Spring、pp.10-11

「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 装い新たに 10 月 12 日リニューアルオープン」『鎌倉朝日』487 号、2019 年 10 月 1 日、p.1

長谷川隆「ぐるっと東日本 アートを歩く 機能充実させ再開 芸術さんぽ 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館(神奈川県鎌倉市)」『毎日新聞』2019 年 10 月 18 日、27 面

牛山知也「ぐるっと首都圏 神奈川県立近代美術館・鎌倉別館(鎌倉市) 大規模改装、カフェ新設」『日本経済新聞』2019 年 11 月 8 日、35 面

杉全美帆子「美を楽しむ 杉全美帆子 おとなのための美探訪 神奈川県立近代美術館 名画も建築もドローン!」『東京新聞』2019 年 12 月 10 日、15 面

「絶対行きたい 新アートのスポット 2020 年 2019 年 10 月 12 日リニューアル! 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 彫刻庭園に面したテラスにカフェを増設 リニューアル・オープン記念展 ふたたびの「近代」開催中」『美術の窓』No.456、2020 年 1 月 20 日、p.51

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

高階秀爾「目は語る 4 月 福沢一郎の見事な造形世界 社会の「負の遺産」も凝視」『毎日新聞』2019 年 4 月 10 日、4 面

「話題の展覧会 美術館「荘司福・荘司貴和子展 平塚市美術館」『美術の窓』No.448、2019 年 5 月 20 日、p.195

田中淳「岸田劉生と寒山拾得図」『國華清話会』会報 第 33 号、2019 年 5 月 31 日、pp.16-17

「リトグラフ 150 年 石版術から石版画・現代リトグラフへ」『版画芸術』Vol. 184、2019 年 6 月 1 日、p.43

宮川匡司「2 人の女性画家、対照の妙 荘司福、荘司喜和子展」『日本経済新聞』2019 年 6 月 5 日、32 面

酒井忠康「作家の肖像 第 15 回 野見山暁治」『美術準備室 つくる・みる・感じとる』No.15、2019 年 6 月 28 日、pp.12-13

「南伸坊の 2 まいの絵 古賀春江《窓外の化粧》(1930) 神奈川県立近代美術館蔵」『望星』Vol. 50、No.9、2019 年 9 月 1 日、pp.6-7

福島さとみ「所蔵資料から」『美愛真 調布市武者小路実篤記念館館報』37 号、2019 年 9 月 30 日、p.8

「新提案企画紹介 横尾龍彦展」『美連協ニュース』No.144、2019 年 11 月、p.7

太田治子「連載 太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第四十四回 不思議な青年 松本竣介「立てる像」から」『か

まくら春秋』No.595、2019年11月1日、pp.46-47
壇ふみ「私と堀文子さん② あまりのチャーミングさに「押し
かけ弟子」に。美への探求を間近で見る」『ハルメク halmek』
第44号、2019年11月10日、p.119
柏木智雄「澄川喜一 そりとむくり 理知と祈りと洞察の形
あすから横浜美術館にて開催」『神奈川新聞』2020年2月
14日、6面
「インフォメーション 「ポーランドの映画ポスター」展 国立
映画アーカイブ」『定年時代』第207号、2020年3月2日、p.5

3) ホームページ閲覧数(2019年4月～2020年3月)

ホームページ訪問者数 総数 777,829人
参照ページ 4,945,699

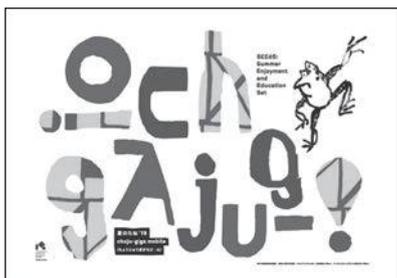
1) SEEdS 夏のたね '19 チラン

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：柿木原政広、河村まゆみ (10inc.)
 印刷：株式会社 野毛印刷社
 14.8 × 14.8 cm、表：特色4色、裏：特色1色
 無料配布
 2019年7月発行



2) SEEdS 夏のたね '19 鳥獣戯画モバイル

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 デザイン：柿木原政広、河村まゆみ (10inc.)
 印刷：株式会社 野毛印刷社
 25.7 × 36.4 cm、表：4色、裏：特色1色
 無料配布
 2019年7月発行



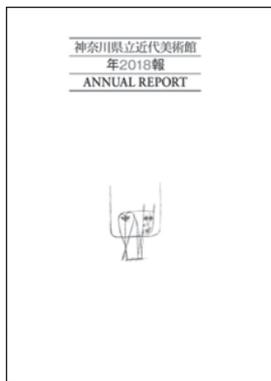
3) 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 施設案内

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 翻訳：ポリー・バートン
 印刷：株式会社 野毛印刷社
 デザイン：三木俊一 (文京図案室)
 撮影：木奥恵三、新良太、大谷一郎、佐藤克秋
 29.7 × 21 cm、16ページ、多色21図
 2019年10月発行



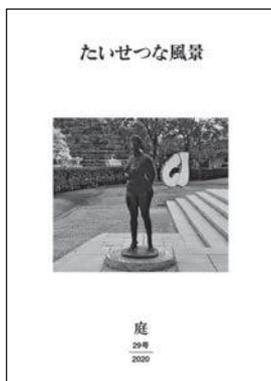
4) 2018 年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 印刷：有限会社リーヴル
 29.7 × 21.0 cm、64ページ、多色1図、単色88図
 無料配布
 2019年12月発行
 あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



5) 美術館たより『たいせつな風景』29号

特集：庭
 編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：株式会社 野毛印刷社
 デザイン：飯村哲也デザイン事務所
 20.9 × 14.5 cm、16ページ、多色6図
 無料配布
 2020年2月発行
 あいさつ (水沢 勉) / 若林奮の庭の方へーあるいは、庭としての詩集(時里二郎) / 写真と庭(山本 紉) / 窓と地図(沖 潤子) / 作品解説 柳原義達《犬の唄》(橋 秀文)



6) 美術館ルールカード

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 イラスト：しりあがり寿
 デザイン：さがえまさえ
 印刷：有限会社リーヴル
 14.8 × 10.0 cm、多色
 無料配布
 2020年3月発行



7) 「ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究」報告書

編集：舂山昌夫
 発行：神奈川県立近代美術館
 翻訳・校閲：久堀由衣
 デザイン・制作：飯村哲也デザイン事務所
 25.7 × 18.3 cm、68ページ、単色145図
 2020年3月発行



平成 31/令和元年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

榎山昌夫

教育普及事業拡充の方針と新型コロナウイルス感染症の影響

令和元年10月までの鎌倉別館の改修工事休館と令和2年1月からの葉山館の改修工事によって休止される展覧会活動を補うために、教育普及事業の拡充が求められ、それに 대응するためにインクルーシブなアウトリーチ活動「むすんでひらいてプロジェクト」を展開した。そのひとつは神奈川県立こども医療センターの肢体不自由児施設に入所している児童・生徒を対象とした造形ワークショップ「○と□」であり、センター内の神奈川県立横浜南養護学校の教室で、同校教諭、センターのボランティアコーディネーターと大学生ボランティアの協力を得て、夏期休暇中の8月27日に実施した。午後の自由時間に開催したにもかかわらず、ほとんどの入所児童・生徒に参加してもらうことができ、とても個性的な数多くの作品が作られた。ワークショップ終了時には児童・生徒が連なって私たち美術館スタッフにハイタッチをして出ていくといったように、たいへん喜ばれたため、令和2年3月25日にも別のワークショップを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、中止せざるを得なかった。

また、令和2年1月から3月には逗子市体験学習施設スマイルで「むすんでひらいてプロジェクト in 逗子」として、一連のワークショップを実施していたが、これも2月後半以降の9回は中止となった。特に、2月22日と23日に予定されていた造形ワークショップ「カマクラをつくろう！～フラドームで学ぶ建築デザイン入門」は、関東学院大学人間共生学部の先生方を講師として、古いポスターを材料にドームを作るという、建築デザインとリサイクルを体験する新しい試みであり、機会を改めて実現することを願っている。

自由参加のワークショップ

夏のたね'19として、「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」展に関連した文字と動物の形を組み合わせるモビールを7月20日から8月16日まで配布した。葉山館のエントランスホールには、自由参加でこのモビールを自ら作るコーナーを設け、25日間で延べ1,134名が参加した。

また、「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク」展の会期中の日曜日にも、葉山館のエントランスで美術館スタッフの指導の下でカイ・フランクのガラス器の形に塗り絵をする自由参加のワークショップを実施し、15回で延べ736名が参加した。

どちらも展覧会鑑賞の後で、自らも造形を行い、その体験を持ち帰ることができるという点で、たいへん好評であった。また、美術図書室でも新しい取り組みとして、葉山館改修工事による展示休止中、古いチラシでパタパタカードを作るワークショップを実施した。

さらに新しい取り組みとしては、主として就学前の幼児とその保護者を対象に「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」展会場で、柚木沙弥郎の絵本「トコとゲーゲーとキキ」の読み聞かせを2回実施し、延べ44名が参加した。



「日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク」展
造形ワークショップ「十人十色のガラス色」
実施日：10月22日
場所：葉山館 エントランスホール



「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」展
子どもための読み聞かせ 絵本『トコとゲーゲーとキキ』
実施日：8月4日
場所：葉山館 展示室1

新しい生活様式と美術館

近代美術館で開催する展覧会を担当学芸員が葉山町福祉文化会館で解説する葉山町との共催による「近代美術館入門講座」は、各回平均22名以上の参加者を数え、その定着を実感できるようになった。このアウトリーチを拡大するため、8月からは逗子市と共催の「近代美術館入門講座」も開始し、十分な手応えを得た。そして、さらに広域に実施することを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、講座や出張授業による従来のアウトリーチは見直しを迫られている。教育普及事業にかかわらず、美術館運営はパラダイムシフトに直面している。

葉山館の「みえるもののむこう」展では出品作品として、振付家/ダンサーの酒井幸菜が会期中パフォーマンスを繰り返し、「鎌倉別館リニューアル・オープン記念展 ふたたびの『近代』」では、写真家トヨタヒシがスライドによるライブ・パフォーマンスを行った。いずれも数多くの参加者を集めたが、こうした美術館という空間で実施してきたパフォーマンスも、新しい生活様式が求められる中、アーティストと共に新しい在り方を模索していかねばならない。

しゅうしゅう
作品蒐集管理活動

2019年度 購入・寄贈状況 2020(令和2年)年3月31日現在
(作品)

購入件数	3件
新規寄贈件数	90件
管理替件数	0件
収蔵総件数	15,051件

(資料)

新規寄贈件数	78件
--------	-----

2019年度 寄託状況 2020(令和2年)年3月31日現在
(作品・資料)

寄託総件数	1,067件
-------	--------

2019年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法は、「/」で区切り記載した。

・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。

購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法縦・高(cm)	横・幅(cm)	厚・奥行(cm)	署名年記・書き込み等	備考
油彩画・アクリル画など								
木下秀一郎	日本の踊り 芸者	1921	油絵具、板	33.0	24.0		左上:1921 Shiuichiro Kinoshita SK	

神奈川県立近代美術館賞

油彩画・アクリル画など								
森 茜	Obsession #1 - fullbody 4	2019	インタリオ、紙	146.0	210.0			第55回神奈川県美術展
吉永朋子	かたづかない心 B	2019	アクリル絵具、カンヴァス	162.0	162.0			第59回神奈川県女流美術家展

寄贈

〈青木 茂氏、山梨俊夫氏、山梨絵美子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など								
作者不詳	負翼童子図	不詳	油絵具、カンヴァス	115.6	68.0			

〈一之瀬ちひろ氏寄贈〉

写真								
一之瀬ちひろ	きみのせかいをつつむひかり(あるいは国家)について #002	2019	発色現像方式印画、紙	60.0	90.0			
一之瀬ちひろ	きみのせかいをつつむひかり(あるいは国家)について #021	2019	発色現像方式印画、紙	60.0	90.0			

〈香山万里恵氏寄贈〉

素描・水彩画など								
末松正樹	1944年10月10日の素描	1944	鉛筆、紙	23.8	31.8		右下:Le 10 Octobre 1944	
末松正樹	1944年10月19日の素描	1944	鉛筆、紙	24.0	31.6		左下:19/10/44	
末松正樹	1944年11月19日の素描	1944	鉛筆、紙	23.6/31.6	14.9/24.1		左下:Le 19 Novembre 1944	
末松正樹	1944年12月14日の素描	1944	鉛筆、紙	19.1/24.1	25.5/31.4		右下:Le 14 Décembre 1944	
末松正樹	1944年12月21日の素描	1944	鉛筆、紙	19.1/20.1	26.2/31.5		右下:Le 21 Décembre 1944	
末松正樹	1944年12月25日の素描	1944	鉛筆、紙	19.5/24.1	26.6/31.9		右下:Le 25 Décembre 1944	
末松正樹	1944年12月27日の素描	1944	鉛筆、紙	22.1/31.6	19.1/26.5		右下:Le 27 Décembre 1944	
末松正樹	1944年12月31日の素描	1944	鉛筆、紙	22.0/32.1	20.0/24.0		右下:Le 31 Décembre 1944	
末松正樹	1945年1月13日の素描	1945	鉛筆、紙	20.1/24.1	24.1/31.1		右下:Le 13 Janvier 1945	
末松正樹	1945年1月14日の素描	1945	鉛筆、紙	19.5/24.0	23.5/31.5		左下:Le 14 Janvier 1945	
末松正樹	1945年1月15日の素描	1945	鉛筆、紙	19.7/24.1	23.8/31.3		右下:Le 15 Janvier 1945	
末松正樹	1945年1月22日の素描	1945	鉛筆、紙	20.0/24.5	24.1/32.1		右下:Le 22 Janvier 1945	
末松正樹	1945年2月3日の素描	1945	鉛筆、紙	19.8/24.0	24.5/31.5		右下:Le 3 Fevrier 1945	
末松正樹	1945年2月12日の素描	1945	鉛筆、紙	20.0/24.5	24.0/32.1		右下:Le 12 Fevrier 1945	
末松正樹	1945年2月25日の素描	1945	鉛筆、紙	24.5	31.9		左下:Le 25 Janvier 1945	
末松正樹	1945年3月1日の素描	1945	鉛筆、紙	19.7/24.0	24.2/31.9		左下:Le 1 Mars 1945	
末松正樹	1945年3月3日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	19.7/24.5	24.1/32.2		左下:Le 3 Mars 1945	
末松正樹	1945年3月16日の素描(自画像)	1945	鉛筆、紙	32.5	24.5		左下:Le 16 Mars 1945	
末松正樹	1945年3月16日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	20.0/24.6	24.1/32.0		左下:Le 16 Mars 1945	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法縦・高 (cm)	横・幅 (cm)	厚・奥行 (cm)	署名年記・書込み等	備考
末松正樹	1945年3月29日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	19.2/24.0	23.1/31.7		右下:Le 29 Mars 1945	
末松正樹	1945年3月30日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	19.2/24.0	23.1/31.7		左下:Le 30 Mars 1945	
末松正樹	1945年4月10日の素描	1945	鉛筆、水彩、紙	19.3/23.9	22.7/31.1		左下:Le 10 Avril 1945	
末松正樹	1945年5月17日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	24.0	31.4		右下:Le 17 Mai 1945	
末松正樹	1945年5月19日の素描	1945	鉛筆、紙	19.7/24.0	24.1/31.5		左下:Le 19 Mai 1945	
末松正樹	1945年5月26日の素描	1945	鉛筆、紙	19.6/31.4	17.4/24.0		右下:VIII Le 26 Mai 1945	
末松正樹	1945年6月11日の素描	1945	鉛筆、水彩、紙	24.1	31.3		右下:Le 11 Juin 1945	
末松正樹	1945年6月17日の素描	1945	鉛筆、紙	18.5/32.8	23.8/31.5		右下:Le 17 Juin 1945	
末松正樹	1945年6月23日の素描	1945	鉛筆、紙	16.9/24.7	20.4/32.0		右下:Le 23 Juin 1945	
末松正樹	1945年7月5日の素描	1945	鉛筆、紙	18.7/24.6	23.5/31.9		左下:Le 5 Juillet 1945	
末松正樹	1945年9月4日の素描	1945	鉛筆、紙	19.0/24.0	23.4/31.4		右下:Le 4 Septembre 1945	
末松正樹	1945年10月16日の素描	1945	鉛筆、紙	24.0	32.0		右下:Le 16 Octobre 1945	
末松正樹	1945年10月20日の素描	1945	鉛筆、紙	32.1	24.0		右下:Le 20 Octobre 1945	
末松正樹	1945年10月21日の素描	1945	鉛筆、パステル、紙	24.2	31.5		左下:Le 21 Octobre 1945	
末松正樹	1945年10月25日の素描	1945	インク、紙	24.0	32.0		左下:le 25 Octobre 1945	
末松正樹	1945年11月30日の素描	1945	鉛筆、紙	18.0/24.1	22.8/31.4		右下:Le 30 Novembre 1945	
末松正樹	1945年12月3日の素描	1945	鉛筆、紙	16.8/24.2	23.2/31.4		右下:Le 3 Décembre 1945	
末松正樹	1945年12月11日の素描	1945	鉛筆、紙	16.8/24.2	22.8/31.5		右下:Le 11 Décembre 1945	
末松正樹	制作年不詳の素描	不詳	鉛筆、紙	26.1	29.9			

版画 (日本)

末松正樹	無題	1955	エッチング、アクアチント、紙	20.9/25.0	21.3/33.0		左下:25 Janvier 1955	
------	----	------	----------------	-----------	-----------	--	--------------------	--

<岸 芳枝氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

青山義雄	ニース風景	1930	油絵具、カンヴァス	46.0	72.4		左下:Y.AOYAMA	
------	-------	------	-----------	------	------	--	-------------	--

<栗田政裕氏寄贈>

版画 (日本)

栗田政裕	『イマジオ & ポエティカ』第51号	2019	木口木版、紙	21.9	18.0			ボックスウッドクリエーション、限定99部うち36 木口木版2葉:《(マドライ彷徨)》、《ゴープラム》
栗田政裕	『イマジオ & ポエティカ』第52号	2019	木口木版、紙	21.9	18.0			ボックスウッドクリエーション、限定99部うち36 木口木版2葉:《(シバ神)》、《シーギリヤロック》
栗田政裕	『イマジオ & ポエティカ』第53号	2020	木口木版、紙	21.9	18.0			ボックスウッドクリエーション、限定99部うち36 木口木版2葉:《(鳳凰飛来)》、《ある夜の画室》

<下川 勝氏寄贈>

素描・水彩画など

下川 勝	黒潮(フカシマ)	1969	グアッシュ、紙	10.0	10.0			
下川 勝	ひよっこり	1970	ミクストメディア、紙	9.9	9.9			
下川 勝	金星になった馬	1973	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	放蕩	1973	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	ゆらめき	1973	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	来た人(緑月)	1973	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	墮ちた惑星	1974	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	弦月	1974	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	慈眼	1974	ミクストメディア、紙	10.0	10.0			
下川 勝	将軍が目醒めた時	1976	ミクストメディア、紙	15.1	10.6			

<白石由子氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

白石由子	SHIFT TWO	1991	油絵具、カンヴァス	各213.6	各198.5			2点組
------	-----------	------	-----------	--------	--------	--	--	-----

<鈴木 明氏寄贈>

素描・水彩画など

木下秀一郎	舞妓	1921	インク、パステル、紙	30.0	23.0		左下:1921 3/XI Shuichiro Kinoshita K	
-------	----	------	------------	------	------	--	------------------------------------	--

<中國雅勝氏、中國信子氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

中國孔二	Untitled	2008/2009	油絵具、カンヴァス	116.6	91.1			
中國孔二	Untitled	2009	油絵具、カンヴァス	60.6	50.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法・縦・高(cm)	横・幅(cm)	厚・奥行(cm)	署名年記・書込み等	備考
〈中野蓉子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
中野 淳	風景(B)	1952	油絵具、カンヴァス	72.9	100.3			
中野 淳	とりのある食卓	1957	油絵具、カンヴァス	74.9	97.9			
中野 淳	風景	1960年代頃	油絵具、カンヴァス	72.6	99.6			
中野 淳	橋の記録	1963	油絵具、カンヴァス	193.1	112.2			
中野 淳	失われゆく風景	1975	油絵具、カンヴァス	112.1	193.9			
〈兵藤敏枝氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
兵藤和男	鏡のある静物	1948	油絵具、カンヴァス	90.9	116.7			
兵藤和男	赤い上衣の自画像	1987	油絵具、カンヴァス	80.0	66.0			
〈藤田恭爾氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
堀内正和	自刻像	1930	石膏	44.0	25.5	28.0		
〈山本隆志氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
ヴィクトル・ニカンド ロヴィチ・パリモフ	水浴場	1920年頃	油絵具、厚紙	18.1/19.4	20.4/21.5		右下: Пальмов	
〈横田 茂氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
岡崎和郎	HISASHI	1993	石膏	3.3	21.0	5.0	裏面: K.Okazaki '93	
西川勝人	無題[#8]	1986	木、石膏、塗料	85.4	7.0	5.9	底面: NISHIKAWA 1986	
〈横山智子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
横山智子	空の深度—アオイスカラ—XVII	2017	ドライポイント、アクリル 絵具、鉛筆、カンヴァス	91.0	116.7			
〈淀井彩子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
若林砂絵子	Untitled (works)	2008	鉛筆、色鉛筆、カンヴァス	195.0	115.0			
〈脇村春夫氏・脇村健子氏寄贈〉								
版画(西洋)								
フィンセント・ファン・ ゴッホ	パイプをくわえた医師ガジェの肖像	1890	エッチング、紙	17.9/28.0	15.0/22.0			
〈渡辺豊重氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
渡辺豊重	《SWING 86-01》マケット 1	1985年頃	アクリル絵具、鉛筆、紙、鋏	31.0	26.0	5.8		
渡辺豊重	《SWING 86-01》マケット 2	1985年頃	アクリル絵具、鉛筆、紙	31.0	25.0	5.6		
素描・水彩画など								
渡辺豊重	《SWING 86-01》作品図面(ヨコハマ・ ピエンナーレ '86 出品) 1	1986	インク、鉛筆、紙	59.0	75.2		右下: 渡辺豊重	
渡辺豊重	《SWING 86-01》作品図面(ヨコハマ・ ピエンナーレ '86 出品) 2	1986	インク、鉛筆、方眼紙	51.5	72.3		右下: 渡辺豊重	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のイメージスケッチ	1985	鉛筆、色鉛筆、紙	44.2	62.5		中央下: '85 T.WATANABE	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 1	1985年頃	鉛筆、紙	45.3	36.5		右下: T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 2	1985	鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: '85.7//右下: T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 3	1985	墨、鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: '85 T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 4	1985	鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: '85 T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 5	1985	鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: '85 T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 6	1985年頃	鉛筆、紙	37.0	45.5			
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 7	1985	鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: '85 T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 8	1985年頃	鉛筆、紙	45.5	37.0		右下: T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 9	1985年頃	鉛筆、紙	38.8	29.8			
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 10	1985年頃	鉛筆、紙	38.8	29.8		右下: T.W	
渡辺豊重	《SWING 86-01》のためのデッサン 11	1985年頃	鉛筆、紙	38.8	29.8		右下: T.W	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法縦・高 (cm)	横・幅 (cm)	厚・奥行 (cm)	署名年記・書込み等	備考
関連資料								
〈青木 茂氏寄贈〉								
	『流行諸名家唐紙半切並短冊類備附』	1861	木版、紙	33.2	46.2			
	A Interior of a Japanese Theatre. 「HARPERS WEEKLY」	1873	印刷、木口木版、紙	28.0	40.6			
近藤若山	『泰西画式』初編	1873	印刷、紙	18.0	12.4			
中丸精十郎	『寧静画式』上・下	1881	木版、紙	20.2	13.5			
牧文次郎編輯兼出版	『新撰 皇国道中明鑑』全	1887	銅版、紙	9.0	12.3			
吉田喜三郎	『大成習画帖』第六卷之上 風景人物動物之部	1889	石版、紙	18.3	25.0			
吉田喜三郎	『大成習画帖』第六卷之下 風景人物動物之部	1889	石版、紙	18.3	25.0			
吉田喜三郎	『大成習画帖』第四卷之下 人物之部	1889	石版、紙	17.8	24.0			
本多錦吉郎	『小学画手本』第十編	1890	石版、紙	12.0	17.8			
片岡賢三	『改正新刻 帝国京都名所図絵』全	1891	銅版、紙	8.0	11.9			
浅井忠撰	『中學画手本』第壹	1895	印刷、紙	18.0	25.7			
浅井忠撰	『中學画手本』第貳	1895	印刷、紙	18.0	25.7			
小山正太郎	『中等臨画』第三編	1895	石版、紙	18.8	26.3			
小山正太郎	『中等臨画』第四編	1895	石版、紙	18.8	26.4			
小山正太郎	『中等臨画』第五編	1895	石版、紙	18.8	26.3			
小山正太郎	『中等臨画』第六編	1895	石版、紙	18.8	26.3			
野澤鍾三・越川丈之助 共著	『製図彩色／水彩具誌』	1898	銅版、水彩、紙	12.7	9.2			
村上信(銀六)	『最後の黒田健次』前篇	1899	木版、印刷、紙	22.0	14.8			
浅井忠撰	『中學習画帖』後編第二卷	1900	石版、印刷、紙	18.1	26.2			
浅井忠撰	『中學習画帖』後編第三卷	1900	石版、印刷、紙	18.1	26.2			
浅井忠撰	『中學習画帖』後編第五卷	1900	石版、印刷、紙	18.2	26.2			
浅井忠撰	『中學習画帖』後編第六卷	1900	石版、印刷、紙	18.3	26.0			
東京新詩社	『明星』 卯歳第三号	1903	印刷、紙	26.4	18.8			
小杉未醒	「マラソン競走双六」	1909	印刷、紙	54.2	78.0			
小山正太郎	『図画講義』	1915	印刷、紙	22.1	14.8			
	「帝国絵画番附」(大正5年度)	1916	印刷、紙	54.9	78.2			
永瀬義郎	『版画を作る人へ』	1922	印刷、紙	19.7	14.0			
川村花菱著・山村耕花画	『大震災印象記 大正むさしあぶみ』	1924	印刷、紙	26.0	19.1			
	「帝国古書画便覧」(大正十四年度)	1925	印刷、紙	14.2	20.2			
	「帝国新書画番附」(大正十四年度)	1925	印刷、紙	14.2	19.8			
日本研美会編	『日本名画家鑑』	1925	印刷、紙	18.6	12.6			
吉岡班嶺 編輯発行	「書画売買相場 全」(昭和二年度)	1927	印刷、紙	12.3	18.4			
蛭川第一編	『蛭川式胤追慕録』	1933	印刷、紙	23.3	16.6			
帝室博物館	『紀元二千六百年記念 正倉院御物 特別展目録』	1940	印刷、紙	22.0	14.9			
猪木卓爾編	『日本画及工芸』第一輯	1944	印刷、紙	25.7	18.5			
猪木卓爾編	『日本画及工芸』第二輯	1944	印刷、紙	25.4	18.5			
小野忠重	『マテオ・リッチと支那科學』	1944	印刷、紙	20.8	14.8			
新芸術社編	『木刻選集』	1946	印刷、紙	23.7	17.6			
土方定一	小野忍宛書簡	1946年 4月14日	インク、封筒、便箋	19.8/25.8	8.1/18.4			
土方定一	小野忍宛書簡	1946年 7月15日	インク、封筒、便箋	20.8/25.0	8.5/18.1			
土方定一	小野忍宛葉書	1948	インク、官製葉書	14.2	9.0			
土方定一	小野忍宛葉書	1949年 8月29日	インク、官製葉書	14.0	9.1			
土方定一	小野忍宛葉書	1949年 9月9日	インク、官製葉書	14.2	9.0			
土方定一	小野忍宛書簡	1949年 9月19日	インク、封筒、便箋	20.0/20.9	8.0/15.0			
土方定一	小野忍宛葉書	1949年 10月1日	インク、官製葉書	14.0	9.0			
土方定一	小野忍宛葉書	1949年 10月14日	インク、官製葉書	14.0	8.9			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1956	木版、年賀葉書	13.9	9.0			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1957	木版、年賀葉書	14.0	9.0			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1960	木版、私製葉書	14.0	9.1			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1960	木版、私製葉書	14.0	9.1			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1961	木版、年賀葉書	14.0	9.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法縦・高(cm)	横・幅(cm)	厚・奥行(cm)	署名年記・書込み等	備考
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1962	木版、年賀葉書	14.0	9.0			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1963	木版、年賀葉書	14.0	9.0			
武藤六郎	清水正博宛年賀状	1966	木版、年賀葉書	14.0	9.0			
若山八十氏	『若山八十氏スケッチ集 第一集 下田・須崎』	1971	印刷、紙	15.2	21.1			
八坂喜代	『谷中安規の事』	2009	印刷、木版、紙	25.7	18.2			
武藤六郎	型染め和綴じ冊子	不詳	染料、紙	27.0	20.0			
武藤六郎	型染め袋	不詳	染料、紙	34.0	30.8			
不詳	「東京無双当以長揃」	不詳	木版、紙	36.5	25.2			
村山知義	『演劇原論』(I)－社会主義的リアリズムとは？－	不詳	ガリ版刷、紙	24.6	17.7			
村山知義	『演劇原論』(II)－社会主義的遠的の発展と唯物弁証法－	不詳	ガリ版刷、紙	24.4	17.8			
〈阿部 博氏寄贈〉								
亀倉雄策	燃え落ちる蝶(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1983	印刷、紙	103.0	72.9			
粟津 潔	鳥たち(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1984	印刷、紙	103.3	72.8			
福田繁雄	地球(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1985	印刷、紙	103.0	72.9			
早川良雄	子供と鳩(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1986	印刷、紙	103.0	72.8			
田中一光	一羽の白い鳩(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1988	印刷、紙	103.4	72.7			
勝井三雄	ヒロシマの天空(「ヒロシマ・アビールズ」ポスター)	1989	印刷、紙	103.4	72.7			
〈香山万里恵氏寄贈〉								
末松正樹	末松正樹旧蔵 紀元二千六百年奉祝美術展覧会陳列品目録(昭和15年10月1日-22日[前期])	1940	印刷、紙	22.5	15.3			
末松正樹	末松正樹旧蔵 紀元二千六百年奉祝美術展覧会陳列品目録(昭和15年11月3日-24日[後期])	1940	印刷、紙	22.5	15.3			
末松正樹	末松正樹旧蔵 紀元二千六百年奉祝美術展覧会陳列品目録(昭和15年11月3日-17日[前期])	1940	印刷、紙	22.5	15.3			
末松正樹	末松正樹旧蔵 美術団体連合展 目録1	1947	印刷、紙	20.8	14.5			
末松正樹	末松正樹旧蔵 美術団体連合展 目録1	1947	印刷、紙	20.8	14.5			
末松正樹	末松正樹旧蔵 文藝手帳	1954	鉛筆、インク、紙	12.5	7.2	0.7		
末松正樹	末松正樹旧蔵 軍国画布パンフレット	不詳	印刷、紙	16.0	13.5			
末松正樹	末松正樹旧蔵 藤田嗣治《哈爾濱河畔の戦闘》絵葉書	不詳	印刷、紙	9.0:9.0	14.0:14.0			左右2点組
末松正樹	末松正樹旧蔵 小磯良平《娘子関を征く》絵葉書	不詳	印刷、紙	14.0	9.0			
〈堀内温子氏寄贈〉								
堀内正和	温子像	1946年頃	油絵具、板	32.8	24.0			
堀内正和	温子像	1946年頃	油絵具、カンヴァス	41.0	32.0			
〈マルチン・ムロシュチャク氏寄贈〉								
マルチン・ムロシュチャク	ヴィラヌフ・ポスター 美術館 '96年 第15回国際ポスター・ビエンナーレ 受賞者展覧会(ポスター)	1998	印刷、紙	98.0	68.0			
マルチン・ムロシュチャク	私のニキフォル/ポスター	2004	印刷、紙	98.0	68.0			
マルチン・ムロシュチャク	ワルシャワ 6月4日 '89年から'09年(ポスター)	2009	印刷、紙	98.0	67.8			
マルチン・ムロシュチャク	テネシー・ウィリアムズ 欲望という名の電車(ポスター)	2014	印刷、紙	100.0	70.0			
マルチン・ムロシュチャク	グラフィックとポスターのギャラリー ホジャ40(ポスター)	2014	印刷、紙	70.0	100.0			

館外貸出作品一覧

開催初日が2019年4月1日から2020年3月31日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1～27	山口蓬春《御堂供養》、《模写・後鳥羽帝御影》、《スケッチブック 9(岩倉大使吹米派遣のための)》、《天皇の世紀 挿図》(24点) 1,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13,14,15,16,17,18,21,22,23,26,27,28,29,31	「時代の証人 山口蓬春が描いた明治・大正・昭和」山口蓬春記念館(4月13日～6月9日)
2	28～33	松本竣介《構図》、《象》、《牛》、《少女》、《電気機関車》、《立ち話》	「松本竣介没後70年・大川美術館開館30周年記念展 vol.3 子どもの時間」大川美術館(4月16日～6月16日)
3	34	熊谷守一《きんけい鳥》	「熊谷守一 いのちを見つめて」群馬県立館林美術館(4月20日～6月23日)、静岡県立美術館(8月2日～9月23日)
4	35～53	砂澤ビッキ《午前三時の玩具》、《樹頭》、《午前三時の玩具(試作)》、《樹頭の頭部》、《無題》、《蝶番蝶》、《午前三時の玩具》、《午前三時の玩具》、《裸婦》(11点) 1,2,3,4,6,9,10,11,18,25,28	「空間に線を引く一彫刻とデッサン展」平塚市美術館(4月20日～6月9日)、足利市立美術館(6月16日～7月28日)、碧南市藤井達吉現代美術館(8月10日～9月23日)、町立久万美術館(10月5日～12月8日)
5	54	北大路魯山人《信楽灰被大壺》	「没後60年 北大路魯山人 古典復興—現代陶芸をひらく—」碧南市藤井達吉現代美術館(4月27日～6月9日)、千葉市美術館(7月2日～8月25日)、滋賀県立陶芸の森 陶芸館(9月14日～12月1日)
6	55～69	アルベルト・ジャコメッティ《イサク・ヤナイハラの肖像》、《ヤナイハラの頭部、落書き》、《幾つかのヤナイハラの頭部、グラスなど》、《ヤナイハラの頭部、幾つかの落書き》、《幾つかのヤナイハラの頭部など》、《ヤナイハラの頭部と幾つかの頭部》、《ヤナイハラの頭部》、《肘をつくヤナイハラ》、《アトリエの椅子》、《ヤナイハラの頭部》、《ヤナイハラの頭部》、《眠るヤナイハラ》、《斜め横向きのヤナイハラの頭部、幾つかの頭部など》、《ヤナイハラの頭部》、《立つ裸婦》	「コレクション特集展示 ジャコメッティと I」国立国際美術館(5月25日～8月4日)
7	70～71	村山槐多《静物(壺)》、《風船をつく女》	「没後100年 岡崎が生んだ天才 村山槐多展」おかざき世界子ども美術博物館(6月1日～7月15日)、上田市立美術館(7月27日～9月1日)
8	72	俵屋宗達《狗子図》	「The Life of Animals in Japanese Art」ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシントンD.C.)(6月2日～8月18日)
9	73～93	青山義雄《壺》	「Silent Beauty. Nordic and East Asian Interaction」アテネウム美術館(6月14日～10月6日)、ヴァルデマッシュェ美術館(2020年2月15日～8月16日)
		朝井閑右衛門《玉葱のある静物》	
		小糸源太郎《朝東風》	
		高間惣七《作品II》	
		田中岑《丘原》	
		田辺三重松《フィヨルド(ノルウェー)》	
		鳥海青児《壺塚のある風景》	
		原精一《桜島》、《桜島熔岩》	
		浜口陽三《太陽と蝶》	
		三岸好太郎《冬(雪の庭)》	
山口長男《平面》			
油野誠一《風景》			
柚木沙弥郎《夜の絵》(8点) 3,6,8,9,11,13,14,15			
10	94～97	萬鉄五郎《田園風景》 寄託作品(油彩2点) 清宮質文《夕日と猫II》(半期展示、望月富昉コレクション)	「黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景」山梨県立美術館(6月22日～8月25日)、島根県立美術館(9月4日～11月4日)、神戸市立小磯記念美術館(11月16日～2020年1月26日)
11	98～102	伊庭靖子《UNTITLED》 児玉靖枝《気配一萌黄》、《深韻一雨二》、《深韻一雨三》、《深韻一雨四》	「みつめる—見ることの不思議と向き合う作家たち—」群馬県立館林美術館(7月13日～9月16日)
12	103～105	寄託資料(3点)	「横浜美術館開館30周年記念 生誕150年・没後80年記念 原三溪の芸術 伝説の大コレクション」横浜美術館(7月13日～9月1日)
13	103	伊庭靖子《UNTITLED》	「伊庭靖子展 まなざしのあわい」東京都美術館(7月20日～10月9日)
14	104～105	岸田劉生《人物(古屋氏像)》、《近藤医学博士之像》	「没後90年記念 岸田劉生展」東京ステーションギャラリー(8月31日～10月20日)、山口県立美術館(11月2日～12月22日)、名古屋美術館(2020年1月8日～3月1日)
15	106～113	寄託作品(工芸8点)	「CHARLOTTE PERRIAND: INVENTING A NEW WORLD」フォンダシオン・ルイ・ヴィトン(10月2日～2020年2月24日)
16	114～119	柚木沙弥郎《トコ》、《キキ》、《型染タペストリー2009》、《線》、《萌》、《型染布(広巾布)》	「柚木沙弥郎 生きとし生けるもの」泉美術館(10月5日～11月24日)
17	120	出口佳子《大地NO.1》	「第87回独立展」国立新美術館(10月16日～28日)
18	121～132	加納光於《鐘が鳴る鐘が鳴る》、《密猟者》、《星とキルロイが濡れる》、《イカルス》、《HYPNOS》、《燐と花と》、《懐える鹹水》、《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れI》、《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れIV》、《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れV》、《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ(エスキース)》、《水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ》のための素描	「瀧口修造/加納光於《海燕のセミアティック》2019」富山県美術館(11月1日～12月25日)
19	133	松岡 壽《工部中学校風景》	「辰野金吾と美術のはなし 没後100年特別小企画展」東京ステーションギャラリー(11月2日～24日)

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
20	139～151	ポーランド・ポスター 13点 ヤン・ムウォドジェニェツ《ベルナルド・ベルトルッチ監督 同調者》、《パウロ & ヴィットリオ・タヴィアーニ監督 父の力で》、《コールガール》 ヴァルデマル・シフィエジ《アンジェイ・ワイダ映画 婚礼》、《アンジェイ・ワイダ監督 約束の地》、《イングマル・ベルイマン映画 ささやきと叫び》 ヤクブ・エロル《フィルム・ボルスキ提供ハーコン・サンドイの映画 ダゲニー》、《マンディンゴ》 イエジー・フリサク《エツレ・スコラ監督 醜い奴、汚い奴、悪い奴…》 フランチシェク・スタロヴィエイスキ《クシシュトフ・ザヌッシの映画 イルミネーション》、《ジーナ・ロロブリジーダ主演イタリア映画 さらば恋の日》、《ヴォイチェフ・イェジ・ハス監督 砂時計サナトリウム》 マルチン・ムロシュチャク《グリシャ・オストロフスキ監督 ノナ》	「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」国立映画アーカイブ(12月13日～2020年3月8日)、京都国立近代美術館(2020年3月17日～7月12日)
21	134～138	古賀春江《サーカスの景》 野中ユリ《妖精たちの森Ⅰ》、《妖精たちの森Ⅱ》、《妖精たちの森Ⅲ》、《妖精たちの森Ⅳ》	「シュルレアリスムと絵画 ダリ、エルンストと日本の「シュール」」ポーラ美術館(12月15日～2020年4月5日)
22	152	寄託作品(彫刻1点)	「DOMANI・明日 傷ついた風景の向こうに」国立新美術館(2020年1月11日～2月16日)
23	153～156	澄川喜一《MASK》、《MASK VI》、《MASK》 菊池一雄《座(二つの菱形)》	「澄川喜一 そりとむくり」横浜美術館(2020年2月15日～5月24日)

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
1	1～12	関根正二《永遠の春//暗き内に一点の光あり》、《画家とモデル》、《農夫》、《村岡みんの肖像》、《少女の顔》、《女の顔》、寄託作品(油彩1点) 河野通勢《木のある風景》 有島生馬《老爺》 伊東深水《牛》、《蓮にハッタ》 村山槐多《風船をつく女》(福島、三重会場のみ)	「生誕120年・没後100年 関根正二展」福島県立美術館(9月14日～11月10日)、三重県立美術館(11月23日～2020年1月19日)、神奈川県立近代美術館 鎌倉別館(2020年2月1日～3月22日)

修復報告 1

伊藤由美

作者：関根正二

作品名：永遠の春 // 暗き内に一点の光あり

制作年：1915年

材料・技法：インク、紙

寸法(mm)： 修復前 作品 191 × 241

修復後 作品 192 × 242

額 391 × 450 × 55

アクリル固定具付き

修復前の所見

洋紙にペンを使用して褐色のインクで描かれた素描作品で、両面に違うモチーフが天地逆に描かれている(図4、5)。支持体はスケッチブックの1枚とみられ、経年劣化のために酸化し柔軟性もなくなっている。全体がまだら状に淡い褐色に変色していて、茶色のしみも見られる。周辺部のマットに隠れていた部分は、わずかに酸化が抑えられ薄い色になっている。インクは経年のためやや退色している。両面に緑色の油絵具の付着が見られる。周辺部には数ミリの細かい欠損が多くあり、《永遠の春》側からみて右上には8 × 17mmの欠損がある。

両面を同時に鑑賞できる仕様の専用額が付属物としてあるが、老朽化のため構造にゆるみが生じている。作品は、うす緑の色調の窓マット2枚で挟んであり、窓切込み周辺部には線状模様が施してある(図1、2)。また支持体は重ねた窓マットのうち1枚の内側に、紙片と接着剤を用いて周辺部を固定している(図3)。

修復処置

1. 調査

修復前の撮影、作品の状態調査を行った。

2. 埃除去

刷毛と粉消しゴム、ケミカルスポンジで表面の埃、汚れを除去した。

3. 支持体変形修正

ポリエステル不織布を敷いた吸い取り紙に支持体を載せ、その上からポリエステル不織布、ゴアテックス、希アンモニア水を含ませた吸い取り紙の順に重ね、全体を防湿シートで被って徐々にわずかな湿気を与えた(図6)。その後、湿気を帯びた支持体の両面各々に不織布と吸い取り紙を重ねて置き、ガラス板で挟み重しを載せてプレスをした(図7)。

4. しみの除去

目立つしみを水酸化マグネシウム水溶液で軽減させた。

5. 脱酸処理

酸化マグネシウムを使用した脱酸処理スプレー(ブックキーパー)を噴霧し、脱酸処理を行った(図8)。

6. プレス

吸い取り紙と不織布で両面を挟み、再度、ガラス板で挟み重しを載せてプレスをした。

7. 補紙

支持体周辺の小さな欠損部はもろくなっていたので、和紙とメチルセルロースを用いて補紙をして補強した(図9)。ただし、隅に1か所ある大きな欠損部はマットで隠れるため補紙は行わなかった(図10、11)。

5. 新調マット取り付け

両面を同時に鑑賞できる仕様のブックマットを新調した。作品撮影後、新調マットに和紙のヒンジとメチルセルロース接着剤を用いて作品を固定した(図12、13、14)。

6. 額の新調

両面が同時に鑑賞できる仕様、低反射アクリル装着の額を新調した。台座への固定用に、目立ちにくい透明アクリル製の固定具を作製した(図15)。

修復後の所見

酸化のために支持体がまだらに黄変し鑑賞の妨げとなっていたが、湿気を与えプレスを行った際に、黄変した酸化物質が吸い取り紙に吸収され黄変が軽減した。また変形も修正されて鑑賞しやすくなった。酸化マグネシウム使用のスプレーによる脱酸処理により、脆弱となっていた支持体は多少柔軟性を取り戻した。紙作品の両面鑑賞の額装においては、台紙がない不安定な状態のマット装となるため、支持体の強度、柔軟性は重要である。本修復では支持体の酸化劣化に対してもう少し脱酸処理を進めたいところではあったが、両面に描かれたインクの素描であり、インクの保護処置が裏面の作品側に透けてしまう恐れがあったため、それを避ける方法を取り、鑑賞の妨げとならない程度の脱酸処理、黄変の軽減に留めた。

旧額は専用の台座が必要であったが、新額は目立ちにくい透明のアクリル固定具を台座にビス留めする、使用台座の汎用性が高い仕様に変更した。



図1. 修復前 《永遠の春》 旧マット装



図2. 修復前 《暗き内に一点の光あり》 旧マット装



図3. 修復前 旧マットへの支持体固定



図4. 修復前 《永遠の春》



図5. 修復前 《暗き内に一点の光あり》

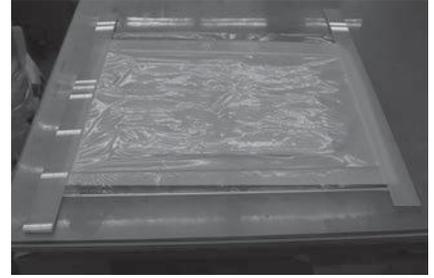


図6. 修復中 支持体の加湿

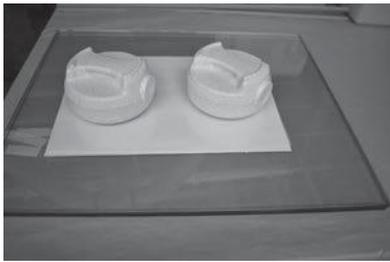


図7. 修復中 プレスによる変形修正作業



図8. 修復中 ブックキーパーによる脱酸処理



図9. 修復後 支持体欠損部の補紙、補強



図10. 修復後 《永遠の春》



図11. 修復後 《暗き内に一点の光あり》



図12. 修復後 新調ブックマットへの固定
両面鑑賞用仕様



図13. 修復後 マット装
《永遠の春》



図14. 修復後 マット装
《暗き内に一点の光あり》



図15. 修復後 両面が同時に鑑賞できる新調額とアクリル
製固定具

修復報告 2

伊藤由美

作者：鳥海青児

作品名：塹壕のある風景

制作年：1937年

材料：油絵具、カンヴァス

寸法(mm)：	修復前	作品	785 × 970
		額	1080 × 1260 × 75
	修復後	作品	785 × 970
		額	1080 × 1260 × 95

修復前の所見

全面にわたり厚く油絵具が塗り重ねられ、支持体も絵具層も柔軟性がない状態である。下辺1cm程は地塗り層が多く露出しているが、その他の辺は厚い絵具が周辺部ぎりぎりまで塗られ、所々、絵具の塊が木枠寸法よりはみ出している。画面は暗い色調であるが、絵具層の表面にややチョーキングが見られ、白っぽいカビの跡も観察される(図3)。絵具層の周辺部と内側に数か所、層間剥離と剥落がある。

支持体は厚い絵具層が収縮しているため、画面中央がなだらかに盛り上がるように変形している。周辺部は絵具が厚く硬化しているため、支持体の変形は強く張り直すことでは修正ができない。木枠の中棧は縦に2本あり、変形した支持体の中央近くと中棧の間には2cm程の隙間ができています。この隙間で起こる支持体の揺れが、作品移動時に厚い絵具層に亀裂を生じさせる危険性がある。裏面には画面側から亀裂を通して染み出たワニスあるいは絵具の油分の跡が観察され、絵具層にすでに多くの亀裂が生じているのがわかる(図4, 7)。

額前面には厚さ2mmの亚克力板が装着されていて、多少たわみが生じている。また、厚い絵具層と大きな筆触、支持体の変形のため、絵具層の一部が亚克力板内部に触れている(図1)。裏板はベニヤ合板に紙を貼ったもので、ベニヤ合板は酸化が進んでいる(図2)。

本作品は海外の展覧会への貸出が予定されており、搬送時に起こる支持体のたわみを軽減させる処置が必要である。

修復処置

1. 調査

修復前の撮影、作品の状態調査を行った。

2. 画面の埃、カビの除去

刷毛で埃を除去した。綿棒でカビを除去し、エタノールで殺菌をした。

3. 裏面清掃

裏面の埃を除去し、エタノールで殺菌をした。

4. 絵具層の浮き上がり接着

絵具層の浮き上がり部分と剥落部周辺に溶剤型亚克力系接着剤を用い、コテで加温加圧して接着及び固着強化を行った。

5. 充填整形

剥落箇所にはボローニャ石膏と膠の充填剤を詰め、周囲のマチエールに合わせて整形した(図5)。

6. 補彩

充填箇所を、溶剤型亚克力絵具を用いて周囲の色に合わせて補彩をした(図6)。

7. 支持体のたわみ防止用緩衝材の装着

支持体裏面と木枠中棧の隙間に、不織布でくるんだポリエステル綿を滑り込ませた。隙間の厚みが中央と端では違うため、薄い層状のポリエステル綿の重ねる枚数によって厚みを調整した(図8)。不織布とポリエステル綿は、ずれないように糸で固定した(図9)。

また、この緩衝材がずれないように、周辺部の複数箇所に取り付けた糸を木枠に固定した(図10, 11)。

8. 額の調整、額装

絵具層と亚克力板がたわみで接触しないよう、前面の亚克力保護板を、当初より厚い4mmの低反射亚克力板に交換した。また、亚克力板を固定する入れ子の厚みを増やし、作品との隙間を広げた(図12)。さらに額裏面には、作品が収まる深さに調整するため周囲にドロ足を装着した。

裏面には半透明のポリプロピレン製の裏板を装着した(図13)。

修復後の所見

支持体と木枠の隙間に支持体の変形に添った柔らかな緩衝材を挿入することで、移動時においてもほとんど支持体のたわみが生じなくなった。支持体にたわみが生じていて、張りの修正などできない場合は、この方法は有効なたわみ防止処置となる。また、半透明なポリプロピレン製の裏板装着は、裏面の処置の様子が観察でき、軽量でありながら衝撃を避けて、裏からの風圧によるたわみの原因を軽減する役割も果たす。修復前はベニヤ合板を使用した裏板であったが、より軽量となった。本作品は油彩作品自体も額も重量があり、より安全に搬送し、展示するためには、全体重量の軽量化を図ることが取り扱い上も有利となる。前面の亚克力板を低反射仕様に交換したため、暗い色調の作品への映り込みがなくなり、鑑賞し易くなった。



図1. 修復前 額装



図2. 修復前 額装 ベニヤ合板に紙を貼った裏板が装着されている



図3. 修復前 表 厚い絵具が塗り重ねられている

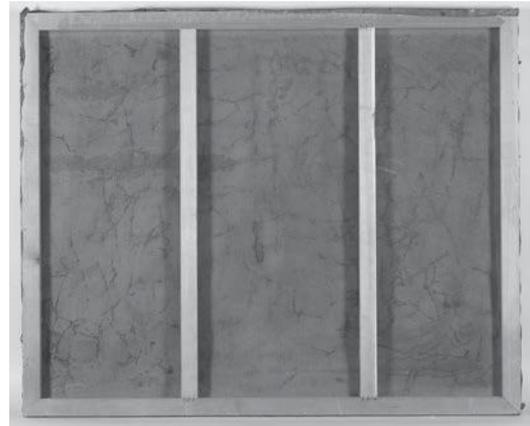


図4. 修復前 裏 亀裂から染み出たワニスまたは油の跡や変形が見られる



図5. 修復中 剥落部の充填整形



図6. 修復後 表

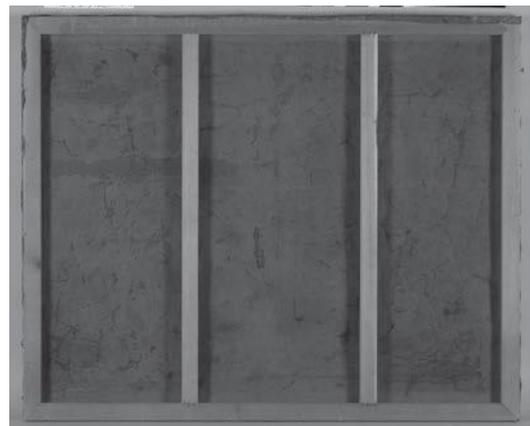


図7. 修復後 裏 緩衝材装着前

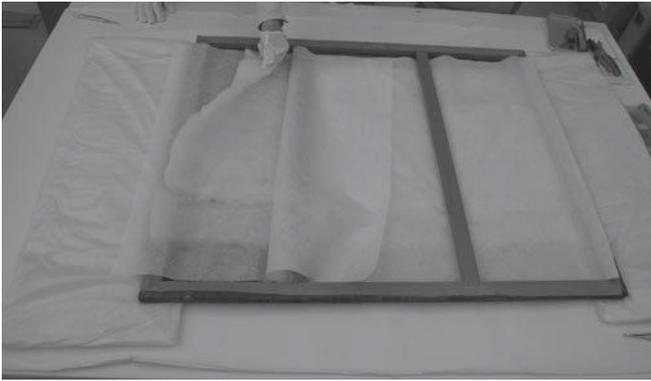


図8. 修復後 緩衝材の厚み調整



図9. 修復後 中綿のずれ防止の糸掛け

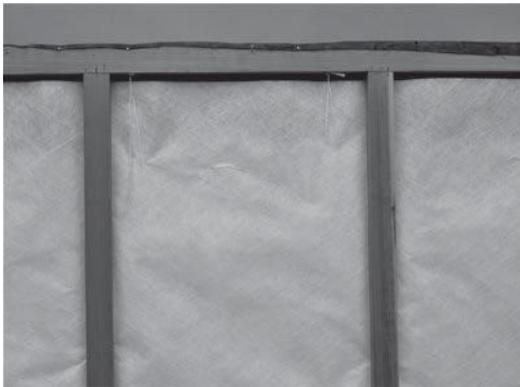


図10. 修復後 緩衝材を糸で木枠に固定

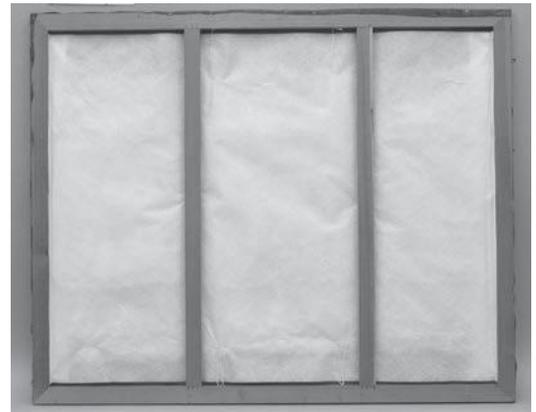


図11. 修復後 裏 緩衝材装着後



図12. 修復後 額装 表



図13. 修復後 額装 裏 裏板を透けて、緩衝材の状態が観察できる

2019 年度修復作品一覧

※表記のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美が行った。

作者	作品名	寸法(cm) 縦・高×横・幅×厚・奥行	制作年	種別	修復担当
多田美波	時空	150.0×360.0×270.0	1980	彫刻	多田美波研究所
青山義雄	壺	24.0×32.0	1970年代	油彩画	
朝井閑右衛門	玉葱のある静物	24.6×41.3	1948	油彩画	
安藤伸太郎	日本の寺の内部	107.3×76.7	1893	油彩画	
海老原喜之助	友よさらば	161.8×130.8	1951	油彩画	
海老原喜之助	川辺にて	38.2×45.2	1962	油彩画	
小糸源太郎	朝東風	84.0×94.5	1954	油彩画	
関根正二	村岡みんの肖像	45.2×37.8	1917	油彩画	
高間惣七	作品Ⅱ	91.2×116.5	1961	油彩画	
田中 岑	丘原	80.4×102.0	1956	油彩画	
田辺三重松	フィヨルド(ノルウェー)	72.7×90.0	1965	油彩画	
鳥海青児	塹壕のある風景	78.5×97.0	1937	油彩画	
出口佳子	大地No. 1	162.4×162.3	1994	油彩画	
浜口陽三	太陽と蝶	29.5×29.5	1969	油彩画	
原 精一	桜島	45.5×53.3	1950	油彩画	
原 精一	桜島熔岩	65.3×80.3	1950	油彩画	
松岡 壽	工部大学校風景	24.8×29.9	1878	油彩画	
松本竣介	立てる像	162.0×130.0	1942	油彩画	
三岸好太郎	冬(雪の庭)	26.0×42.3	1928	油彩画	
村井正誠	天使とトピア	115.9×89.7	1950/1951	油彩画	
山口長男	平面	91.0×91.0	1958	油彩画	
油野誠一	風景	91.3×116.3	1960	油彩画	
関根正二	永遠の春//暗き内に一点の光あり	19.2×24.2	1915	素描	
野中ユリ	妖精たちの森Ⅰ	64.5×51.0	1976	素描・コラージュ	
野中ユリ	妖精たちの森Ⅱ	64.8×50.8	1977	素描・コラージュ	
野中ユリ	妖精たちの森Ⅲ	65.0×50.8	1977	素描・コラージュ	
野中ユリ	凸面鏡の自画像 パルミジアニーノに	67.3×51.5	1979	素描・コラージュ	
柚木沙弥郎	ゲージ	90.0×65.0×43.0	2004	工芸	

美術館資料の保存と活用

—2019年度のアーカイブ事業について

長門佐季・西澤晴美

神奈川県立近代美術館では2017年度から新規事業として「美術館アーカイブ構築」に取り組んでいる。本稿では3年目となる2019年度の事業内容について報告する。

当館ではアーカイブ事業の指標として、旧鎌倉館を設計した建築家・坂倉準三の師であるル・コルビュジエが構想した「無限成長美術館」のコンセプトにならい、「無限成長アーカイブ」を掲げることとした。持続性のある開かれたアーカイブを目指し、次の3つの活動を軸に取り組んでいる。

- ＊蓄積・収集…美術館という場を核に人や歴史を繋いでいく。
- ＊整理・保存…多種多様な資料を適切に保存し未来に伝える。
- ＊研究・活用…データベースを構築し、ウェブサイト等を通じて国内外へ広く発信する。

当館ウェブサイトでは、アーカイブの活動を分かりやすく紹介した約1分30秒の動画の公開を2019年10月に開始した（動画制作：大田晃）。また、2018年度から検討を重ねていたデータベースの構築が完了し、ウェブサイトでの一部資料の公開も開始した。鎌倉別館リニューアル・オープン記念展「ふたたびの『近代』」と「生誕120年・没後100年記念 関根正二展」では、アーカイブ事業を紹介するパネル類と資料の特集展示を行い、活用促進につとめた。

[データベース構築とウェブサイトでの公開]

当館は収蔵品管理システムとして富士通の「Musetheque V4」を導入しており、美術館ウェブサイトにおいてデータベースの内容の一部を公開し、コレクション検索も可能にしている（<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/webmuseum/>）。アーカイブ資料についても収蔵品と同様にデータベースで情報を管理し、ウェブサイトを通して公開、活用を促進していくことを目標に、データベース設計側との調整を進めていった。国内外のアーカイブのウェブサイトを参照し、美術作品とアーカイブ資料ではデータベースの構造に違いがあることを踏まえ、検討を重ねた結果、「アーカイブ資料群」と「アーカイブ個別資料」という2階層の構造を持たせることとした。「アーカイブ資料群」は、展覧会単位でまとまった資料や、寄贈者など出所の同じ資料をグループとして管理するもので、資料群内の個別の資料を「アーカイブ個別資料」として管理している。「群」という単位を設けることで、点数が膨大で一点一点のリスト化に時間を要する資料であっても、まずはグループの単位で公開を進めることが可能になり、資料の活用促進につながると考えている。美術館データベースの検索画面の公開は2019年10月から開始し（図1）、順次、公開データを増やしている。

[資料の特集展示]

鎌倉別館リニューアル・オープン記念展「ふたたびの『近代』」では、鎌倉別館の1984年の開館時期の資料と、鎌倉館の1951年の開館時期の資料、計20点を展示ロビーで紹介した（図2）。次の「生誕

120年・没後100年記念 関根正二展」では、これまでに当館で開催された2回の関根正二展、「翫光・関根正二展」（1967年）と「生誕100年 関根正二展」（1999年）の資料を、印刷物や会場写真を中心に約15点紹介した。

[資料の活用事例(2019年度)]

2019年度の外部研究者などによるアーカイブ資料の活用の事例として、次のものが挙げられる。

- ・久米民十郎資料の調査
- ・斎藤義重資料の調査（手帳、ノート類、書簡）
※兵庫県立美術館「集めた！日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展」（2019年8月3日～9月29日）の関連調査。
- ・高橋力雄資料の調査（おもに渡米に関する写真、スケジュール帳などの資料）
- ・上野誠資料の調査
- ・「中西夏之展」（1995年）、「李禹煥展」（1993年）の資料調査

次年度以降も、アーカイブ資料の活用を進め、研究調査への協力の事例を増やしていきたいと考えている。



図1. 神奈川県立近代美術館アーカイブ 資料検索画面



図2. 鎌倉別館 展示ロビーでの資料紹介 2019年10月（撮影：高嶋清俊）

調査研究活動

調査・研究報告

ポーランド人民共和国の印刷所とポスターに記載された印刷情報について

杉山昌夫

本稿の目的は、ポーランド人民共和国で印刷されたポスターに記載された印刷情報の内、12の印刷所の表記を分析し、今後のポーランド・ポスター研究の参考とすることにある。それらの表記の多くには規則性があり、印刷所の受注年が記載されているものも少なくない。そして、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（課題番号17K02405）「ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究」の報告書をまとめる過程で、これまで製作年とされてきた時期と受注年が異なる例も見出された^[註1]。多くの製作年の同定は、ポスターデザイナーの署名に伴う年記やポスターに示されているイベント開催時期に基づいているが、印刷所での受注年（実質的に印刷年、製作年）は署名に伴う年記以降、イベント開催時期以前である。

本稿の分析対象は、『神奈川県立近代美術館所蔵 ポーランド・ポスターの光彩』（東京美術、2019年4月、以下『光彩』という）と『「ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究」報告書』（神奈川県立近代美術館、2020年3月、以下『報告書』という）^[註2]に掲載した神奈川県立近代美術館所蔵のポーランド・ポスター全295点中、ポーランド人民共和国時代に製作された290点である。その内、248点に印刷情報が記載されていて、5点組の《ワルシャワ・フィルハーモニー 75周年 1901-1976》[12-15]（〔 〕内は『光彩』と『報告書』に掲載した作品番号）の内、4点に別々の印刷情報が記載されているため、印刷情報は251件である。これを印刷所ごとに製作年順に並べ換えて、その表記の規則性を明らかにした。今後の検証のため、一覧表「ポーランド人民共和国の印刷所と印刷情報」を科学技術振興機構のresearchmap^[註3]に掲載している。

首都印刷工場

Stołeczne Zakłady Graficzne (Stł.)

『光彩』と『報告書』では、例えば、「Stł.4」は「第4首都印刷工場」と記しているが、正確には首都印刷工場の第4工場（Stołeczne Zakłady Graficzne, Zakład nr 4）という意味である。印刷情報は7件（1961-1967年）あり、表記は原則として工場名、受注番号、その他の記号、部数である。ZAM. や Zam は受注（zamówienie）の略語である。作品番号に続いて、製作年を（ ）内に記す。

[17-1] (1961年)

Stł.4-ZAM.732-Z-61-N. 1000

首都印刷工場 第4工場 受注 732 Z-61 1000

[7-2] (1967年)

Stł.2. Zam.380-E-16-15000

首都印刷工場 第2工場 受注 380 E-16 15000

ワルシャワ端物印刷所

Warszawska Drukarnia Akcydensowa (WDA)

1966年に設立され、1989年のポーランド民主化後の1991年に破産した。『光彩』と『報告書』では、「WDA 2」は「第2ワルシャワ端物印刷所」と記しているが、正確にはワルシャワ端物印刷所の第2工場（Warszawska Drukarnia Akcydensowa, Zakład nr 2）という意味である。印刷情報はノヴォグロツカ通り64Aにあった第2工場が31件（1967-1974年）、第3工場が2件（1974-1975年）、オフセット印刷工場が3件（1970-1978年）、工場名無しが2件である。『光彩』では、フベルト・ヒルシュ《サーカス》[3-2]の製作年を1964年としているが、印刷所の設立時期との矛盾から見直しが必要である。表記は、工場名、所在地、受注番号、その他の記号、部数である。NAKLAD や NAKŁ. は発行部数を意味する。[2-4]の46Aは誤植と思われる。

[3-2]

WDA 2 W-WA. NOWOGRODZKA 64A ZAM. 33-K-13 - 5.000+350

ワルシャワ端物印刷所 第2工場 ノヴォグロツカ通り64A 受注 33 K-13 5000+350

[2-4] (1967年)

WDA 2 W-WA NOWOGRODZKA 46A ZAM -609-T-4 NAKŁAD 3000

ワルシャワ端物印刷所 第2工場 ワルシャワ ノヴォグロツカ通り46A 受注 609 T-4 発行部数 3000

[30-5] (1970年)

WDA 2 W-WA. NOWOGRODZKA 64A ZAM.890 K-12 NAKŁAD 1500

ワルシャワ端物印刷所 第2工場 ノヴォグロツカ通り64A 受注 890 K-12 発行部数 1500

[7-5] (1974年)

WDA 2 ZAM. 511-W-31 NAKŁ. 1200

ワルシャワ端物印刷所 第2工場 受注 511 W-31 発行部数 1200

[12-16] (1975年)

WDA 3 ZAM.2239 - W-122 NAKŁ. 1000

ワルシャワ端物印刷所 第3工場 受注 2239 W-122 発行部数 1000

軍印刷工場

Wojskowe Zakłady Graficzne (W.Z.Graf.)

1947年に国防省の印刷所として設立され、ワルシャワのグジボフスカ通り77の工場は1953年に操業を開始した。同工場は2006年に閉鎖された。印刷情報は12件（1969-1978年）あり、年代によって表記法が変わる。egz. は部数（egzemplarz）、szt. は枚数（sztuka）の略語である。印刷所によって使用される略語が決まっている場合が多いが、軍印刷工場は例外である。[24-11]

と[24-12]の受注番号に続く78(訳語の下線部分)は、受注年である。

[8-1](1969年)
W.Z. Graf. Zam.340. Nakł. 1500. P-48
軍印刷工場 受注 340 発行部数 1500 P-48

[2-9](1974年)
WZ GRAF Zam. 3039. W-73. Nakład 1000 egz.
軍印刷工場 受注 3039 W-73 発行部数 1000 部

[24-11](1978年)
W.Z.Graf. Z-1, zam. 98/78, (M-5), 81, 4000 szt.
軍印刷工場 第1工場 98/78 (M-5), 81 4000 枚

[24-12](1978年)
W.Z.Graf. Z-1, zam. 324/78, (M-5), 2000, B1
軍印刷工場 第1工場 受注 324/78 (M-5) 2000 B1

軍地図製作工場

Wojskowe Zakłady Kartograficzne (WZKart)

1949年に解散した軍事地理研究所に代わって同年、ワルシャワのイエロゾリムスキエ通り91に設立された。1964年から軍用地図以外の印刷も始めた。軍地図製作工場の印刷情報は6件(1969-1971年)であり、表記は原則として工場名、受注番号、その他の記号、部数である。

[3-8](1970年)
Druk WZKart. zam. T-3009 K-12 nakł. 5000+350
印刷 軍地図製作工場 受注 T-3009 K-12 発行部数 5000+350

「ポーランド言葉の家」印刷所

Zakłady Graficzne “Dom Słowa Polskiego” (DSP)

ワルシャワのミエジアナ通り11に「ポーランド言葉の家」印刷出版所(Zakłady Graficzne i Wydawnicze “Dom Słowa Polskiego”)として設立され、1950年に竣工した印刷工場はポーランド人民共和国最大の規模を誇り、1970年代半ばには年間約2700万部の書籍、5億1000万部の新聞、1億9500万部の雑誌を印刷していた。1953年に「ポーランド言葉の家」印刷所に改名された。2007年に株式会社「ポーランド労働の家」印刷所となったが、2010年に解散した。印刷情報は6件(1961-1977年)で、年代によって表記法が異なるが、遅くとも1970年以降は受注年が記載されている。

[1-3](1961年)
DSP. Zam. 8429/D. 1500. S-9
ポーランド言葉の家 受注 8429/D 1500 S-9

[4-11](1972年)
DOM SŁOWA POLSKIEGO - 2078/D/72 - 55000+300. A-25
ポーランド言葉の家 2078/D/72 55000+300 A-25

労働者出版協同組合「プラサ」出版印刷工場

Prasowe Zakłady Graficzne (PZG / PZGraf.) Robotnicza Spółdzielnia Wydawnicza (RSW) “Prasa”

労働者出版協同組合「プラサ(印刷機)」は、1947年にポーランド労働者党中央委員会書記局の決議で設立された。美術グラフィック出版WAG(1974年から全国出版社KAW)や各地の印刷工場を傘下に収める協同組合で、ポーランド人民共和国時代には国内日刊紙の90パーセント以上、定期刊行物の50パーセント以上を出版していた。

印刷情報は25件あり、ビドゴシュチュ工場が9件(1970-1972年)、ウッチ工場が6件(1966-1971年)、カトヴィツェ工場が5件(1964-1972年)、ヴロツワフ工場が2件(1970年)、ワルシャワのスマルナ印刷工場が2件(1966年と製作年不明)、工場所在地不明が1件であり、表記は原則として工場名、所在地、受注番号/年、部数(その他の記号が前後に加わる場合がある)である。[1-4]の受注番号は1968年の976番、[1-8]は1971年の1846番、[18-7]は1971年の1518番ということになる。

ところで、ビドゴシュチュ工場で刷られた[9-5]の受注番号は「zam. 3648/70」、1970年の3648番であり、翌年に受注した[1-8]の数字よりも大きいことから、受注番号は年ごとに付されていることがわかる。残念ながら、受注番号が協同組合共通のものか、傘下工場ごとのものかは判らない。

[1-4](1968年)
Druk PZG-RSW “Prasa” Łódź, 976/68, N-94/2134, 1950 egz.
印刷 労働者出版協同組合「プラサ」出版印刷工場 ウッチ 976/68 N-94/2134 1950 部

[1-8](1971年)
PZGraf. RSW “Prasa” Bydgoszcz, zam. 1846/71, nakł 1000+150. U-64
労働者出版協同組合「プラサ」出版印刷工場 ビドゴシュチュ 受注 1846/71 発行部数 1000+150 U-64

[18-7](1971年)
Druk PZGraf. RS W “Prasa” Katowice, zam. 1518/71 - 5000 + 150
印刷 労働者出版協同組合「プラサ」出版印刷工場 カトヴィツェ 受注 1518/71 5000+150

労働者出版協同組合「プラサ・クシオンシュカ・ルフ」出版印刷工場 Prasowe Zakłady Graficzne (PZG / PZGraf.) Robotnicza Spółdzielnia Wydawnicza (RSW) “Prasa-Książka-Ruch”

労働者出版協同組合「プラサ」は、1973年に出版社「本と知識KiW」と報道配信ネットワーク「運動Ruch」を合併して、労働者出版協同組合「プラサ(印刷機)・クシオンシュカ(本)・ルフ(運動)」となった。この労働者出版協同組合は東欧最大の出版社として、1988年には45の日刊紙、235の定期刊行物を発行し、カレンダー、ポストカード、芸術作品の複製、音楽CDやカセット、ビデオカセットなども発行していたが、ポーランド民主化後の1990年から翌年にかけて分割された。

労働者出版協同組合「プラサ・クシオンシュカ・ルフ」出版印刷工場の印刷情報は23件ある。労働者出版協同組合「プラサ」出

版印刷工場の表記を引き継ぎ、工場名、所在地、受注番号、部数（その他の記号が前後に加わる場合がある）である。カトヴィツェ工場が14件（1973—1976年）、ヴロツワフ工場が8件（1973—1974年）、ウッチ工場が1件（1974年）であり、ビドゴシュチュ工場は無い。また、同組合傘下のワルシャワのオフセット印刷工場の印刷情報が1件あるが、その表記は例外的で、受注年の記載も無い。

共にカトヴィツェ工場で刷られた[12—10]の受注番号は1974年の3421番、[12—13]は同年の3057番であり、後者の方が先に印刷されたと考えられる。実際、後者はワルシャワのアダム・ミツキューヴィチ記念文学館で1974年9月から翌年9月まで開催された展覧会「ポーランドの詩 1944—1974」のポスター、前者はワルシャワ郊外のジュシェフで1974年10月から11月に開催された展覧会「ポーランド現代メダル美術」のポスターであり、開幕時期と受注番号に齟齬はない。つまり、ポスターにイベントの開催時期の記載がない場合でも、受注番号によってその順序を推測できる場合がある。

ちなみに、ヴロツワフ工場で刷られた[24—5]の受注番号は同じ1974年の3726番であるが、これはヴロツワフ国立美術館で同年10月から11月に開催された展覧会「NO NO NO 新世代」のポスターである。

[12—10](1974年)

PZG RSW “Prasa-Książka-Ruch” Ktw. 3421/74--H-025-1000 250

労働者出版協同組合「プラサ・クシヨンシュカ・ルフ」出版印刷工場 カトヴィツェ 3421/74 H-025 1000 + 250

[12—13](1974年)

PZG RSW “Prasa-Książka-Ruch” Ktw. Zam. 3057/74-H-025-3.100+350

労働者出版協同組合「プラサ・クシヨンシュカ・ルフ」出版印刷工場 カトヴィツェ 受注 3057/74 H-025 3100+350

[24—5](1974年)

PZGraf. RSW “Prasa-Książka-Ruch” W-w Zam. 3726-74. 300. P-9. 347.

労働者出版協同組合「プラサ・クシヨンシュカ・ルフ」出版印刷工場 ヴロツワフ 受注 3726-74 300 P-9. 347.

ビドゴシュチュ出版印刷工場

Prasowe Zakłady Graficzne (PZG / PZGraf.) Bydgoszcz

印刷情報は6件（1973—1978年）ある。その表記は[1—8]など労働者出版協同組合「プラサ」出版印刷工場の表記に準じている。

[12—9]

PZGraf. Bydg., zam. 1016/73 nakł. 2000+350. R-61

ビドゴシュチュ出版印刷工場 受注 1016/73 発行部数 2000+350 R-61

ヴロツワフ出版印刷工場

Prasowe Zakłady Graficzne (PZG) Wrocław

印刷情報は9件（1974—1978年）ある。工場名、所在地、受

注番号/年、その他の記号、部数という表記は、労働者出版協同組合「プラサ・クシヨンシュカ・ルフ」出版印刷工場のヴロツワフ工場の表記に準じている^[註4]。

[24—8](1974年)

PZGraf. Wr. Zam. 10.760/74 P-6/1103 1000

ヴロツワフ出版印刷工場 受注 10.760/74 P-6/1103 1000

カトヴィツェ印刷工場

Zakłady Graficzne, Katowice (ZGK)

1949年に国営のカトヴィツェ印刷工場 (katowickie Zakłady Graficzne) として設立され、1950年代には20以上の工場を有していたが、組織改編と合併によって1970年代には4または5工場となった。印刷情報は25件（1971—1978年）ある。カトヴィツェ印刷工場では、印刷数を表すのに egz. や nakł ではなく szt.、枚数 (sztuka) の略語が用いられている。ZGK-3 や ZGK 3 はカトヴィツェ印刷工場の第3工場を意味するが、[20—1] や [19—5] のように1973年の途中から受注番号と年の間に「3」と記されている^[註5]。

[27—1](1971年)

ZGK-3 290/71 - 3500+100 szt. - C-25

カトヴィツェ印刷工場 第3工場 290/71 100枚 C-25

[27—2](1972年)

ZGK 3, zam. 995/73 -- 3000+150 -- M-09

カトヴィツェ印刷工場 第3工場 受注 995/73 3000+150 M-09

[20—1](1973年)

ZGK, zam. 2731/3/73 - 12500 szt. - M-010

カトヴィツェ印刷工場 受注 2731/3/73 12500枚 M-010

[19—5](1978年)

ZGK, 991/3/78 4000 W-07

カトヴィツェ印刷工場 991/3/78 4000枚 W-07

実験印刷所

Graficzna Pracownia Doświadczalna (GPD)

ポーランド芸術家デザイナー協会 ZPAP が1959年にグラフィック実験スタジオとしてウッチに設立した印刷所である。印刷情報は25件（1969—1979年）ある。表記は原則として工場名、受注番号、部数、その他の記号である。そして、その他の記号の最初の文字が1971年は「S」、1972年は「D」、1973年は「T」、1974年は「C」など、受注年または製作年を示すと考えられる^[註6]。

[17—14](1969年)

GPD z 454-300-B7/4356

実験印刷所 受注 454 300 B7/4356

[11—6](1971年)

GPD z. 358. 400. S-6/4133

実験印刷所 受注 358 400 S-6/4133

[11-18](1971年)
GPD z. 665. 400. S-6/7427
実験印刷所 受注 665 400 S-6/7427

ルブリン印刷工場

Lubelskie Zakłady Graficzne (LZG / LZGraf.)

1944年にアダム・シュチュカのルブリン印刷所が国有化され、1951年に市内の他の4印刷所を合併して、1964年にポーランド民族解放委員会記念ルブリン印刷工場 (Lubelskie Zakłady Graficzne im. PKWN) となった。1996年に民営化され、1999年に別会社に再編された。印刷情報は20件(1967-1978年)ある。表記は原則として工場名、受注番号、部数、その他の記号で、受注年の記載はない。

[18-4](1967年)
LZGraf. Z. 665 N. 1000+200+50 T-26
ルブリン印刷工場 受注 665 発行部数 1000+200+50 T-26

[20-3](1978年)
Lubelskie Zakłady Graficzne Z. 3384 N. 9000 F-124
ルブリン印刷工場 受注 3384 発行部数 9000 F-124

国立印刷所

Drukarnia Narodowa (DN)

1895年にナポレオン・ユゼフ・テルツがクラクフに創業した印刷所に遡る。印刷情報は9件(1975-1978年)ある。その表記は印刷所名、受注番号/年、部数(その他の記号が前か後ろに加わる)である。

本稿のための再調査によって、ヴワディスワフ・プルタ《全国学術会議 コンモット '78》[14-3]の印刷情報の冒頭は、『光彩』に記した「DN - 7-2」ではなく「DN - Z-2」であることが判明した^[註7]。

[14-1](1975年)
Drukarnia Narodowa. Zam. 221/75. 300. Z-30-2720
国立印刷所 受注 221/75 300 Z-30-2720

[14-3](1978年)
DN - Z-2, zam. nr 5571/78, E-20/868, 5000+50.
国立印刷所 第2工場 受注番号 5571/78 E-20/868 5000+50



1989年のポーランドの民主化以降、ポーランド人民共和国時代の多くの印刷所が組織としても生産拠点としても、資本主義の競争の中で消滅した。ポスターは、美的鑑賞の対象であると同時に、

そうした失われた産業遺産の記録でもあり、文化的にも価値のある資料と言える。本稿が今後のポーランド・ポスター研究の一助となれば幸いである。

註記

- 1) いずれの印刷工場もその受注数の多さから、受注後まもなく印刷したと考えるのが自然である。つまり、受注年は印刷年、製作年とみなしてまず間違いはない。例えば、ヴィトルト・ヤノフスキ《ポーランドにお越しく下さい》[18-1]の1967年とされていた製作年は受注年の1964年に、ヤン・ヤロミル・アレクシエウチの《小道具置場》[24-11]は、署名に伴う年記が示すデザインは1977年であるが、製作年は受注年の1978年とすべきである。1976年に開催されたアイスホッケー世界選手権のためのポスター、フベルト・ヒルシエルの《世界・ヨーロッパ・アイスホッケー選手権》[3-17]はその前年に、1979年に開催されたオスカーリアダ映画祭のためのヤン・ムウオドジェニエツのポスター[6-18]は前々年に製作されたと考えられる。また、いずれも印刷情報の受注年からヴァルデマル・シフィエジ《ビートルズ》[9-20]は1978年に、ゲラルド・ラプスの《ユヴェントウル》[22-1]は1970年に、グジェゴシュ・マルシャウェク《ダム》[29-1]は1977年に製作年を同定した。なお、[]内は『神奈川県立近代美術館所蔵 ポーランド・ポスターの光彩』(東京美術、2019年4月)と『『ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究』報告書』(神奈川県立近代美術館、2020年3月)に掲載した作品番号である。
- 2) 科学技術振興機構の researchmap に掲載。https://researchmap.jp/masao_momiyama/published_papers/25077374 Pass: POLSKA
- 3) 「ポーランド人民共和国の印刷所と印刷情報」https://researchmap.jp/masao_momiyama/misc/30061996 Pass: POLSKA
- 4) [24-8]の印刷情報と労働者出版協同組合「プラサ・クシオンシユカ・ルフ」出版印刷工場のヴロツワフ工場で刷られた[18-14]の印刷情報「PZGraf. RSW "Prasa-Książka- Ruch" Wr. 10.533/74 W-73 6.000」を比較すると、その継続性が明らかである。
- 5) 第4工場を意味する「4」という記載も3件(1976-1978年)ある。
- 6) ボグスワフ・バリツキ&スタニスワフ・ワベンツキの《コレクト(具体)》[11-3]の右下には「B. Balicki Sl. Łabecki 70」と印刷されているため、製作年を1970年としているが、同年2月に開催された展覧会のポスターの受注が前年であれば、1969年が「B」、1970年が「H」と整理できる。
- 7) 上掲「ポーランド人民共和国の印刷所と印刷情報」を参照。

調査研究の発表・執筆等

1) 当館開催展覧会にともなう調査研究・発表

展覧会図録への発表：計4件 (pp.5-18 参照)

外部媒体への発表：計10件

2) 所蔵作品及び館内活動に関する調査研究・発表

靱山昌夫『ポーランド・ポスターの光彩：神奈川県立近代美術館所蔵』東京美術、2019年4月

水沢 勉「残丘に、たたずむ。―内田あぐりの居場所」『内田あぐり―化身、あるいは残丘』国書刊行会、2019年5月、pp.6-15

水沢 勉「氾濫のあとに―下川勝のミニアチュールについて」『下川勝 ミニアチュール 1969-1977』下川勝スタジオ、2019年5月、pp.8-23

Tsutomu Mizusawa “A Genealogy of Tranquility – With Reference to The Night Pictures, a Series by Samiro Yunoki”, *Silent Beauty – Nordic and East Asian Interaction*, Finnish National Gallery, Ateneum Art Museum, Helsinki, 2019, pp.137-147.

水沢 勉「開催趣旨」、「マルパ実践報告フォーラム 2019・小田原市文化セミナー特別編」マルパ実行委員会、公益財団法人かながわ国際交流財団、おだわら文化事業実行委員会、2019年7月20日、小田原市民会館小ホール

鈴木敬子「外国につながる子ども・若者たちへのエンパワーメント―美術館とアートの力」マルパ実践報告フォーラム 2019・小田原市文化セミナー特別編」マルパ実行委員会、公益財団法人かながわ国際交流財団、おだわら文化事業実行委員会、2019年7月20日、小田原市民会館小ホール

靱山昌夫「ナショナル・ギャラリーから神奈川県立近代美術館へ―美術館の舞台裏を巡って〜」『ナショナル・ギャラリー 英国の至宝』上映アフタートーク、2019年10月1日、鎌倉市川喜多映画記念館

長門佐季 記念シンポジウム「竣介のアトリエ 再見プロジェクト」パネリスト、2019年11月9日、大川美術館

三本松倫代「後藤秀聖氏寄贈の原田直次郎関連資料について」『神奈川県立近代美術館年報 2018』神奈川県立近代美術館、2019年12月、pp.41-46

西澤晴美「村田良策と草創期の神奈川県立近代美術館」『近代画説』第28号、明治美術学会、2019年12月、pp.93-111

橋 秀文「戦前・戦中期の佐野繁次郎」『神奈川県立近代美術館年報 2018』神奈川県立近代美術館、2019年12月、pp.47-50

橋 秀文「作品解説 柳原義達《犬の唄》1983年」『たいせつな風景』神奈川県立近代美術館、29号、2020年2月、p.12

靱山昌夫「『ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究』」報告書、神奈川県立近代美術館、2020年3月
ほか8件

3) そのほかの調査研究・発表

朝木由香「日本におけるコーネルの受容」『ジョセフ・コーネル コラージュ・モンタージュ』展講演会、2019年5月11日、DIC川村記念美術館

橋 秀文「須田国太郎と木下杢太郎のスペイン」『須田記念 視覚の現場』醍醐書房、2019年7月（祝賀復刊記念号）、pp.29-31

靱山昌夫「美術アカデミーと近代絵画」「移動派とリアリズム絵画」「森と海」『ロシア文化辞典』沼野充義、望月哲男、池田嘉郎（編）、丸善出版株式会社、2019年10月、pp.484-485、486-487、490-491

朝木由香「加納光於―抗う色の見方」『瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティック》2019』展覧会カタログ、富山県美術館、2019年11月、pp.14-15

長門佐季「高橋由一旧蔵《負翼童子図》について」『鹿島美術研究』公益財団法人鹿島美術財団、年報第36号別冊、2019年11月、pp.190-201

深尾茅奈美「カミーユ・ピサロ作《小川に足を浸ける女》に関する考察」日仏美術学会若手シンポジウム、2019年6月22日、京都工芸繊維大学

水沢 勉「講演1」シンポジウム「制作と思索 母袋俊也」東京造形大学附属美術館、2019年11月4日、東京造形大学

水沢 勉「彫刻を un- する」シンポジウム「持続可能な彫刻 アートが拓くユニバーサルな可能性」東海大学課程資格教育センター、2020年1月12日、東海大学松前記念館

水沢 勉「AIR in Hamee 2019 シンポジウム」Hamee 株式会社、女子美術大学、2020年1月15日、Hamee 株式会社

深尾茅奈美「第25回 ICOM 京都大会参加記」『神奈川県博物館協会会報』神奈川県博物館協会、第91号、pp.36-38、2020年3月31日

ほか2件

外部資金の活用

1) 外部資金を活用した調査研究

「ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究」平成 31 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C：研究代表者 杉山昌夫）

「戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンスの研究 1945-1955」平成 31 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C：研究分担者 西澤晴美）

「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開：瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」平成 31 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C：研究代表者 朝木由香）

「幾何学抽象の国際的伝播に関する研究 1957 年サンパウロ・ビエンナーレにおける堀内正和作品」鹿島美術財団 平成 31 年度美術に関する調査研究（研究代表者 菊川亜騎）

「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備

「神奈川県まなびや基金」は、神奈川の県立学校等の教育環境向上のための自主財源確保を目指して 2009 年度に創設された基金で、寄附金やその運用益金を財源としている。

2014（平成 26）年 7 月、神奈川県は橘川雄一氏より、神奈川県立近代美術館における彫刻作品の整備を目的とした 3,000 万円の寄附を受け、神奈川県教育委員会の管理する「神奈川県まなびや基金」に組み入れた。この彫刻整備は寄附受入から 5 年間のうちに行うことが条件となっており、2019 年度は鎌倉別館の野外彫刻作品の輸送・設置と修復、野外彫刻のキャプション整備を行った（整備の詳細については「鎌倉別館の改修に伴う彫刻整備について」（pp.22-23）を参照）。

1) 鎌倉別館の野外彫刻作品の輸送・設置

鎌倉別館の庭園整備を行うために外部倉庫へ預けていた野外彫刻 4 点を葉山館へ輸送し、そのうち湯村光《Stone Work—Stream》（1987 年）を葉山館庭園へ再設置した。輸送および施工は株式会社東京美術工芸社が実施した。

2) 彫刻作品の修復

多田美波《時空》の修復

鎌倉別館の庭園に展示されていた同作品のステンレス部分が経年により劣化していたため、改修にともなう再設置に際して修復を行った。

作家名	作品名	寸法(mm)高さ×幅×奥行	制作年	種別	素材	修復担当
多田美波	時空	1500×3600×2700	1980	彫刻	ステンレス・スチール、結晶化ガラス	多田美波研究所

3) 葉山館、鎌倉別館に設置した野外彫刻のキャプションの整備

2017 年度にデザイン・製作された野外彫刻のための陶製のキャプションを用いて、葉山館庭園に 2019 年度に移設した野外彫刻 2 点と鎌倉別館の野外彫刻作品のキャプションおよび注意喚起のサイン 10 点をデザイン・製作したのち設置し、記録撮影を行った。

デザイン：柿木原政広、山口崇多(10inc.)

制作：CRIOS

設置：株式会社 東京美術工芸社

記録撮影：山本 紉

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣(当館主催プログラム以外の講師派遣)

実施日	会場	内容	主催/共催	派遣者
6月26日、7月2日、12月9日	東京農業大学	博物館資料保存論特別講演	東京農業大学	伊藤由美
10月5日	鎌倉市川喜多映画記念館	ナショナル・ギャラリー／英国の至宝」上映アフタートーク	鎌倉市川喜多映画記念館	靱山昌夫
10月4日	銀座ニコンサロン	一之瀬ちひろ個展「きみのせかいをつつむひかり(あるいは国家)について」トークイベント	ニコンサロン	三本松倫代
11月9日	大川美術館	「竣介のアトリエ再見プロジェクト」記念シンポジウム	大川美術館	長門佐季
11月23日	姫路市立美術館	シンポジウム「フランス近代美術絵画の修復をめぐる」	姫路市立美術館	伊藤由美
12月7日	ANOMALY	津上みゆき個展「そこに在るのは些細なこと」トークイベント	株式会社Anomaly	三本松倫代

2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	葉山町	葉山町教育委員会委員
橋 秀文	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	山口蓬春記念館	美術品評価委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
靱山昌夫	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会
	平塚市	平塚市美術館協議会委員
長門佐季	横須賀美術館	美術品評価委員会委員
	東京都	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会委員
伊藤由美	全国美術館会議	台風19号被災館救援・支援対策本部委員
	東京藝術大学	非常勤講師
三本松倫代	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
	神奈川県	「神奈川県美術展 中高生特別企画展」審査員
	公益財団法人東京都歴史文化財団	「TOKAS-Emerging 2020」審査員
	公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館ほか	VOCA展2019推薦委員
	独立行政法人国際交流基金	「日本美術リサーチフェローシップ」審査協力

運営・管理報告

概況

1. 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年1月31日	鎌倉館の一般公開を終了
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を(宗)鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館

2. 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3. 施設の状況

令和2年3月31日現在

ア 土地	面積	
県有	(葉山館分)	15,034.86㎡
	※生涯学習課管理	
	(鎌倉別館分)	4,937.00㎡
イ 建物	延床面積	
	(鎌倉別館分)	1902.93㎡
借用	(葉山館分)	(有償分) 7,111.51㎡

収入・支出の状況

(平成31年度実績)

収入

科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	73,256	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	32,704,740	観覧料収入
社会教育費事業収入	5,404,984	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	99,000	県立社会教育施設公開講座
社会教育費立替収入	2,103,387	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	32,125	図書館複写料金、 古紙売払収入
計	40,417,492	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

PFI事業の概要

1. 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15(2033)年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など

イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。

ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営

2. 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ
所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

支出(人件費含まず)

科目	金額(円)	内訳
維持運営費	18,133,080	維持管理
美術館事業費	51,059,320	展覧会開催費、教育普及事業、 調査研究事業
美術作品整備費	78,725,171	美術作品購入・修復、 鎌倉別館改修に係る関連経費
特定事業費	392,690,328	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	248,000	
計	540,855,899	

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日
条例第6号
(最終改正)平成28年10月21日
条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

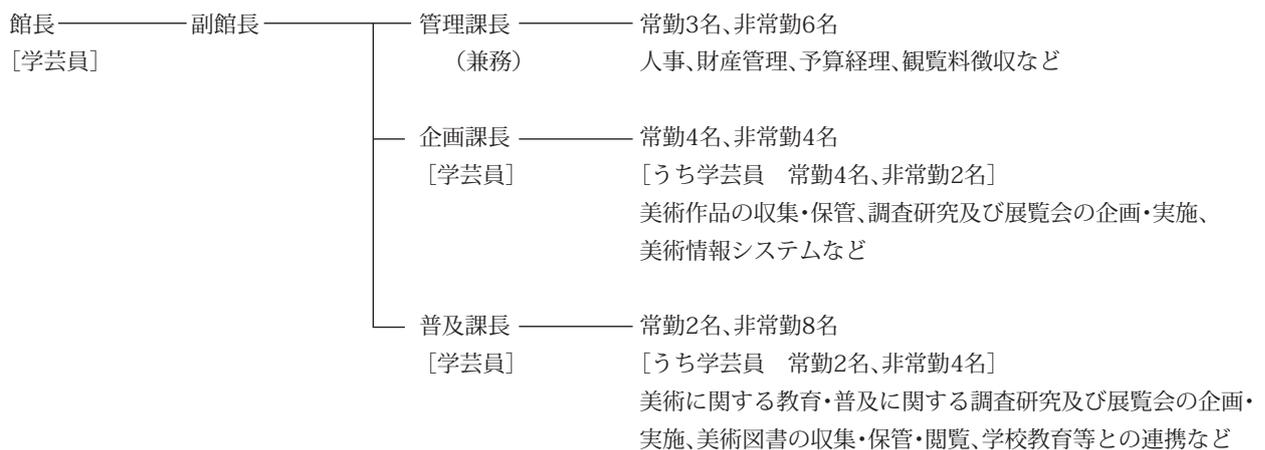
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和2年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 31名
常勤12名(再任用2名、臨任1名含む)、非常勤 19名(短時間勤務再任用3名を含む)
[うち学芸員 常勤 8名(再任用1名、臨任1名含む)、非常勤 7名]

施設別配置状況

葉山館 常勤 9名(再任用1名、臨任1名含む)、非常勤 16名(短時間勤務再任用3名を含む)
[うち学芸員 常勤 6名(再任用1名、臨任1名含む)、非常勤 5名]
鎌倉別館 常勤 3名(再任用1名含む)、非常勤 3名
[うち学芸員 常勤 2名、非常勤 2名]

職員一覧

館長(非常勤)	水沢 勉			
副館長	吉田 浩			
管理課	課長(兼)	吉田 浩		
	副主幹	松島 隆志		
	主事	大林 秀樹	令和元年8月31日まで	
	主事	瀬尾 直人		
	管理業務主任専門員	石井 渉		
	管理業務専門員	児玉 祐一郎		
	管理業務専門員	山崎 崇		
	非常勤事務補助員	小野 和子		
	非常勤事務補助員	二藤部 映		
	非常勤事務補助員	原田 裕子	令和元年9月1日から	
	非常勤事務補助員	大房 亜紀	令和元年10月1日から	
	企画課	課長	長門 佐季	
主任学芸員		橋 秀文		
学芸員		西澤 晴美		
学芸員		菊川 亜騎		
臨時学芸員		朝木 由香		
非常勤研究員		伊藤 由美		
非常勤学芸員		荒木 和		
非常勤学芸員		渡邊 美喜		
非常勤事務嘱託		本田 秀行		
普及課		課長	粕山 昌夫	
	主任学芸員	三本松 倫代		
	主任学芸員	高嶋 雄一郎		
	非常勤学芸員	鈴木 敬子		
	非常勤学芸員	八木 めぐみ		
	非常勤学芸員	吉田 有璃子		
	非常勤学芸員	深尾 茅奈美		
	〔美術図書室〕			
	図書業務専門員	山中 久美子		
	非常勤司書	藤代 知子		
	非常勤司書	大野 寿子		
	非常勤司書	渡邊 貴世子		
	非常勤司書	和田 明子	令和元年7月7日から	

神奈川県立近代美術館

年報 2019(平成31/令和元)年度

発行日：2020年11月30日

編集：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：有限会社リーザル

ANNUAL REPORT 2019

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2020

Produced by Livre

© 2020.11 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

